

平成20年度 県内小・中・高・特支諸学校 校内研究主題

教育委員会	校種	学校名	主題	副主題	内容	公開
甲府市教育委員会	小学校	富士川小学校	豊かな心を育む道徳教育の研究	地域との連携を通して	本研究は、「道徳教育において、地域と連携した道徳授業や道徳の実践を展開することにより、周りの人や社会との関わりが深まり、児童に『豊かな心』を育むことができるであろう」という仮説のもと、保護者や地域の人材を活用したり地域の旧跡または地域に伝わる伝統行事を教材として取り入れたりして授業を展開したり、「あいさつ運動」や「花いっぱい運動」、「地域清掃活動」等の道徳の実践活動を積極的に推進したりすることで、児童の道徳性や道徳の実践力が高まることを目指している。	(国)「平成20・21年度道徳教育実践研究事業」(県)ふるさとやまなし道徳教育推進事業
甲府市教育委員会	小学校	琢美小学校	豊かな心と体を育み、自ら実践できる子どもの育成	栄養教諭を中核として、学校・家庭・地域が連携して行う食に関する指導を通して	①学校における食に関する指導を推進していくための研究。②学校と家庭とが連携した食に関する指導を推進するための研究。③学校と地域とが連携した食に関する指導を推進するための研究。これらの研究を進めていくために2つの専門部会を組織した。指導・体験活動部では教育課程における食に関する指導を充実させるため、栄養教諭と連携した効果的な授業づくりや、学校給食目標や健康目標を具現化するための方策について、また、各学年の食生活体験活動を充実させるための方法について研究を進めていく。連携・啓発推進部では、保護者や地域と連携していったに昨年度のもの継続した食育を発行したり、給食試食会・料理教室など保護者や地域の方々の関心を高めるための活動を計画したり、また、食生活の変容や基本的な生活習慣との相関を探っていくためのアンケートを実施し効果的な連携の方法について研究を進める。	(国)子どもの健康を育む総合食育推進事業 (市)健康増進研究指定校
甲府市教育委員会	小学校	新組屋小学校	たくましく創造性豊かな子どもの育成	国語科における「活用する力」の育成を目指して	研究内容・仮説検証型の研究を行う。「活用力」についての理論的な研究及び先行実践等を学び合う中で、全職員による共通理解を図る。低学年ブロック、高学年ブロックごとに研究の方向性を踏まえた授業研究を行い、児童の発達段階に応じた「活用力」の育成に関する授業のあり方を明らかにする。特別支援教育の学習会(校内委員会で情報交換及び実践交流)を通して、個々の児童の実態に応じた指導や支援の方法を学ぶ。特に、地域と連携した道徳教育の充実を図り、児童の健全な育成を目指す。Q-10テストを実施する。そして、その活用方法を学びたい。児童のよき人間関係と学校生活の向上に役立てる。平成23年4月1日から施行される新・学習指導要領について、その改正の要旨を学ぶ。研究推進者(研究主任)は、随時教育に関する様々な情報を伝達し、その動向や成果、課題等を全職員共通の物とする。	
甲府市教育委員会	小学校	湯田小学校	自ら学ぶ湯田の子ども	学び合う学級づくりを通して	平成19年度までの三年間に取り組んだ「学力向上拠点形成事業拠点校」指定研究で培った研究内容を継続して行う。一枚ポートフォリオ・普段の授業公開などを中心に授業研究に取り組む。併せて、学級づくりの重点をおき、Q-10調査の活用とそれに伴う改善	
甲府市教育委員会	小学校	伊勢小学校	感性豊かな心と学びの意欲をもつ子どもの育成	豊かな言語活動のための実践を通して	○知識活用型の授業作り(PISA型読解力を中心に考える)。 ・「読む・書く」を中心に、知識を活用する能力を高める指導事例づくり ○読書活動の推進 ・読書の意欲付け ○児童の実態調査	
甲府市教育委員会	小学校	朝日小学校	かわり合いとにも伸びる 学びの創造	言葉によるコミュニケーションを大切に	○児童の実態を的確に把握する。 ○「一年後の児童の姿の姿」を整えたい言語環境をイメージ化する。 ○それぞれの「一年後の児童の姿の姿」を整えたい言語環境に迫る研究、実践を行う。 ○実践後の成果・改善点を探り、その後の実践に生かせるような研究を実施する。 ○特別支援教育にかかわる研究を行う。	
甲府市教育委員会	小学校	里塚小学校	確かな学力を身に付ける子どもの育成	～丁寧な見取りから、きめ細かな指導へ～	前年度から3年間、「子どもたちに確かな学力を身につけさせること」に焦点をあて、研究を進めてきた。特に2年目となる本年度は、前年度の研究成果と併せて、丁寧な見取りから、きめ細かな指導へ結びつけるための、「わかる授業づくり」に重点を置いて研究を進めていく。その上で、より具体的・日常的に授業実践がなされているような本校独自のスタイルづくりに向けての研究を進めていき、授業実践を中心とした子どもに還元する研究となることに望むものである。そこで、本年度は、前年度に引き続き、長期的かつ継続的な児童一人一人の見取りを行う中で、個に応じた方法による支援を厚く、一人一人の児童が確かな学力(非難難の学力)を獲得することへの喜びを味わい、より一層の学習意欲を伸ばしていけることを目指して研究を進めていきたい。	
甲府市教育委員会	小学校	相川小学校	思いやりのある豊かな心を育む道徳教育の推進	地域と連携した実践活動を通して	学校における道徳教育の充実・ふるさとやまなしを担う子どもの育成を目指した道徳教育の充実を図り、保護者や地域住民が参加し、共に考え実践する道徳教育の充実。・小・中学校が連携し、義務教育9年間を見通した道徳の指導計画の作成。・「心のノート」や山梨県教育委員会作成の資料の効果的活用。・小・中学校教員間相互での授業の参観と研修。・児童の実態把握のための調査の実施と成果の検証。家庭・地域と連携した道徳の実践活動の推進。・小・中学校が連携し、地域を取り込んだ地域ぐるみの道徳の実践活動の推進。・家庭や地域の実態把握のための調査の実施と成果の検証。	(国)平成20・21年度道徳教育実践研究事業 (県)ふるさとやまなし道徳教育推進事業 (市)甲府の子ども教育総合推進校 11月7日
甲府市教育委員会	小学校	国母小学校	互いに学び合い、高め合う児童の育成	自分の考えを持ち、伝え合う授業づくりを通して	1 授業の中での課題のつかませ方、自分たちの課題として提案させるための導入や発問の工夫について。2 昨年度までの本課の研究成果である、コミュニケーションを生かした学習の流れに合わせた授業の実践。3 子ども達が伸び伸びと思いや考えを表現したり話し合ったりするための場や形態、ワークシート等の工夫と表現する力、話し合う力	
甲府市教育委員会	小学校	貞川小学校	主体的に学ぶ子供の育成	「書く」活動を通して表現力を高める指導のありか		
甲府市教育委員会	小学校	千塚小学校	かわり合い、自分の考えを表現する子どもの育成	算数科における学び合いの工夫を通して	自分の考えを表現する子どもを育てるためには、自分の考えに自信を持たせることが大切である。それには自分の考えを表現する経験を重ねることや友だちとかわり合いの中で認め合えることが必要である。また、自分の考えを表現できたことを実感させることも大切になってくる。学習指導では、ねらいを明確にした授業づくりを基本とし、学び合うための学習環境づくり、伝え合うことができる教材研究など学習指導の工夫について研究・実践していく。また、自分の考えを表現する方法や一人一人が学びの成果を実感できる評価についても研究していきたい。本研究は、昨年度までの研究・実践を生かして長期的な展開で子どもたちを育てていくことが大切である。学び合いを大切にしながら、一人一人の児童が自分の考えをもち、自分だけの力で表現できる子どもを自ら育てていく。研究主題「自ら学びをひろげる子どもの育成をめざして」	(市)甲府の子ども教育総合推進校
甲府市教育委員会	小学校	池田小学校	自ら学びをひろげる子どもの育成をめざして		昨年度に引き続き、研究主題「自ら学びをひろげる子どもの育成をめざして」のもと、子どもたちの「主体的に学習する姿」「自分の考えを表現する姿」の実現をめざし、「国語」「算数」「体育」の各教科の特性を生かした実践を進めます。今年度は、3教科をつなぐ大きな柱として、子どもたちがお互いの考えを「伝え合う姿」や「学び合う姿」に注目し、確かな学びを構築するための授業づくりについて研究・実践をしていきます。	
甲府市教育委員会	小学校	北新小学校	生きる力を育てる教育活動の創造	算数科における学び合いの場の工夫を通して	研究仮説を「算数科において、学び合いの場を工夫すれば、子どもたちの思考力、表現力が高まるであろう」として、研究を進めている。本年度は、昨年度に引き続き、研究を持続している。研究内容は、「学び合いの場を工夫した算数科の授業づくり」で、①子ども一人一人が自分の意見を持ち、お互いに自分の考えを交流し合う学び合いの場の工夫。②算数的な活動の取り入れ。③課題の考え方の工夫。④めり、評価の工夫。の4点を中心に研究を進めている。研究方法としては、理論研究、研究授業、一人1実	
甲府市教育委員会	小学校	千代田小学校	たくましく生きる千代田の子の育成	教科指導においてひとりひとりの伝え合う力を高める授業の工夫	本校児童に身につかせたい「伝え合う力」の具体化をはかる。そのために、講師を招聘して学習会とお通して職員の共通理解を図っていく。また、検証は授業を通して行う。昨年度は国語科に絞ったが、本年度はその他の授業による研究を進めていく。	
甲府市教育委員会	小学校	甲斐小学校	かわる みがく 未来を拓く	楽しく学ぶ英語活動の研究	文部科学省から出された「英語ノート」を活用した授業研究。具体的にはALTとのT-TやHRTのみで行う授業、外部人材を活用した授業などの指導形態の工夫、学習指導過程の研究、教材教具の開発と活用、指導法の工夫、評価などについて研究を進めた。また、集会和習字学習など全校での英語活動にも取り組んでいく。	(国)小学校における英語活動等国際理解活動推進事業 (県)わくわくイングリッシュ小学校サポート事業 11月5日
甲府市教育委員会	小学校	玉諸小学校	豊かな心をもち、いきいきと表現できる子どもの育成	国語力の向上を目指して	・「前年度までの研究成果を踏まえ、子ども達の実態に応じた研究の方向性を検討する。・「国語力」の概念のとらえを整理し、職員の共通理解のもと、課題を探る。・「豊かな心」を育てるためのプロセスを想定し、個々の研究姿勢及び研究の方向性に照らし合わせる。・「表現」のとらえを共通理解し、いきいきと表現させる環境づくりや場の設定、看取りの方法について提案・検証する。	
甲府市教育委員会	小学校	山城小学校	生きてはたく 伝え合う力の育成	考えや思いを伝え合い、高め合うこと	伝え合う活動は、学習の様々な場面で行われる活動である。そこで伝え合う活動で重視していきたいのは、学習を通して何がわかったのか、見つけられたものは何かを感じ取ったり考えたりしたことは何かを正確に伝え合い、よりよい考えを作りあげていく活動を目指し、研究を深めていく。自分とは違う多様な考え方・意見が出て交流をすることが、伝え合いでは大切になってくる。そこで、Q-10を活用することによって学級の様子把握し、互いを認め合える学級集団づくりも進めていく。スピーチ活動や読書、ことばの時間を有効に活用することによって伝え合いの基礎となる国語力の向上を図る。	
甲府市教育委員会	小学校	大里小学校	確かな学力の育成	国語科の学習を通して	まずは、研究を進めるにあたり、国語力、活用する力、表現力・思考力・活用力などの概念を共通認識し、めざす子ども像を設定する。 「修得した知識・技能を活用したり、説明方法の仕方といった活用できる力を育てたりすることを通して表現力を育てる。」ことを研究のねらいとしている。ねらいを達成させるために以下のことを学び生かしていきたい。 ・児童の認知面の発達 ・指導内容に合う教材の選定 ・教材の提示の仕方 ・指導方法 さらに表現力の実践を踏まえたり、研究を評価するための調査を行う。	
甲府市教育委員会	小学校	東小学校	よく考える子どもの育成	読解力の向上をめざして	○授業実践 ・深く考える場面を設定する。 ・考えたことを手立てを工夫する。 ・考えたことを効果的に表現する方法を工夫する。 ○言語環境作り ・原稿での発表 ・あいさつ運動 ・言葉づかいの指導 ・図書室の利用推進 ・教師の言語環境作り	

甲府市教育委員会	小学校	羽黒小学校	『国語力』の向上を目指した授業の創造	考える力を育む言語活動の工夫	本校で育てたい『国語力』は、「情報を捉え活用する力」です。これは、子どもの学びの姿から「情報を読み解く姿」「情報を削り出す姿」「情報を伝える姿」と、3つの活動で捉えます。研究の中心は、考える力を高める言語活動を授業の中に仕組んでいくことです。そこで今年度は、全員が実践授業を行い主体的に研究を進めてきました。しかし、「全員で授業を見て研究を深める機会」「みんなで一つの授業を作り上げていく機会」などの課題もあります。そこで本年度は、各個人による実践授業に加え、代表者による提案授業を設定し「共に見て、多様な授業の見方を学ぶ」機会を位置づけていきます。同時に、一人ひとりの子どもの状態に合わせた言語のスキル指導と、全校体制での言語環境の整備に取り組む。	
甲府市教育委員会	小学校	石田小学校	確かな学力を育てる学習活動の研究	確かな学力を育てる学習活動の研究	国語力と伝え合う力の育成を通して、確かな学力を育ててきた。自分の考えを持ち、根拠に基づいて伝え合う。問題解決のために、「話す」「聞く」「認める」「よむ」「解釈する」「照らし合わせる」「書く」などの活動を通して筋道、学習過程（つかむ→追求する→深める→まとめる）を踏まえて考える習慣が向上してきている。そこで、今年度は昨年度まで培ってきたQ-Uを活用し「個別の学習づくり」「生活習慣」「学習に取り組む心構え」「生活リズム」の学習を支える取組を継承する。その上で、今年度の重点として、お互いに先生方の授業提案を見合って研究を進めることをベースとした上で、次の三点について具体的に研究する予定である。①子ども自身に「問い」を持たせる指導計画・教材開発のあり方。②子ども自身が追求する学習づくり、授業づくりのあり方。③子ども自身の学びの過程を振り返ることができる「記録（ノートやワークシート）」のあり方。	
甲府市教育委員会	小学校	新田小学校	自分の思いや考えを豊かに表現できる子どもの育成	国語科において、読解力を高める指導法の工夫を通して	研究の内容を国語科「読むこと」の領域に限定し、読解力を高める指導法の研究実践を通して、研究テーマに迫っていく。読解力を身に付けるための学習活動の工夫と自分の意見や考えを友だちに伝え合う場や深め合う場の設定を大きな柱として研究を進めていく。一人一人が授業実践を行い、低中高それぞれの研究授業で全体で研究会をもち研究を深めていく。また、国語科の授業以外にも、読解活動の充実、朝の会や朝の会のなどいろいろな場での発表の場の設定、友だちの意見のよいところに気づいたり、認め合ったりするクラスづくりなど、日常の取り組みからも研究を支えていく。	
甲府市教育委員会	小学校	大岡小学校	伝え合い、学び合う児童の育成	～算数科における学習活動の工夫を通して～	児童の伝え合い、学び合う力を育成するために、各学年の算数科の学習の中で、児童が関わら合う場面を計画的に仕組み、思考・探究・表現・受け止め・高め合いの手立てを開発し、学習活動を工夫し研究することで、その有用性を探る。	
甲府市教育委員会	小学校	舞鶴小学校	自ら学び考える子どもの育成	活用力を高める授業の創造（※6月の会議で決定予定）	『全国学力・学習状況調査』『教育課程実施状況調査（県）』結果分析から明らかになった課題（活用力）を改善するためのプランを元に、国語科と算数科における検証授業を行う。さらには、本校として「活用力」をどう捉えていくか定義し、「活用力」向上のための手立てを探る。学習を支える土台となる学級集団づくりについても、Q-U等を利用しながら分析を行い、問題解決の糸口を探る。	(県)「確かな学力」ステップアップ事業 (国)学力調査の結果に基づく検証改善サイクルの確立に向けた実践研究
甲府市教育委員会	小学校	中道南小学校	これからの生き残るための学力を身につけた子どもの育成	PISA型読解力に視点を当てた国語科授業の工夫	今年度の「全国学力・学習状況調査」「教育課程実施状況調査（県）」の結果の総合的・「新学習指導要領」及び「PISA型読解力」について、学習する。国語科における学習実態を分析する。国語科において、PISA型読解力に視点を当てた授業実践をおこなう。	
甲府市教育委員会	小学校	中道北小学校	みて、きて、感じて、活かす子どもの育成	体験的な活動を通して	本校では、これまでの校内研究会で「コミュニケーション活動」に取り組んできた。ここで育ってきた能力を本年度は、「いろいろな体験を通して、子どもの認知力を高めることができれば、活用しようとする力が身につくであろう」を研究仮説にして、教科領域にこだわらずに体験が生き、その中で自信や達成感を味わい、生活の場を生かしていけるような児童の育成を目指していく。研究は低中高学年の3ブロックで行い、ブロックの研究を確かめる検証授業を全学年で提案していく。今年度研究された活用する力については次年度以降学校全体の取り組みへと広げ検証研究を深めていく予定である。	
甲府市教育委員会	中学校	東中学校	自ら考え、学び、行動する生徒の育成	共に学び合い、高め合う授業づくりを通して	(1)理論研究…①共に学び合い、高め合う授業」を目指すための方法・内容 ②授業規律、リーダーづくりなどの学習集団づくりについて ③新学習指導要領について (2)実践研究…①①グループ(国・理・音・社・数・英・体・技家)の授業内容や方法の検討 ②一人一人実践の公開授業 ③グループ代表者による授業、研究会をもつ ④一昨年度からのプログラム委員会、リーダーづくりなどの「学級づくり」の実践	
甲府市教育委員会	中学校	西中学校	自ら学ぶ生徒の育成	基礎学力の充実を図り、自ら学ぶ力を育てる授業づくり	(1)授業づくり ①効果的な小集団の活用 どのような場面において、どのような形態で学習小集団を編成し、どう活用することで効果が上がり、学び合い、伝え合うことができる集団へと変容していくのかに着目し、実践、検証していく。②「学びの記録」の活用 昨年度、全教科で全員が「学びの記録」の活用を始め、生徒に対する支援にも役立てていく。今後、生徒自身が学習の成果を感じ、自分を客観的に見つめられるような学びの記録の形式を工夫していく。③学力・学習状況調査結果及び本校生徒の実態等を生かした授業改善教科の実態に応じて全国学力・学習状況調査および生活実態調査結果、県の改善プラン、及び本校生徒の実態、学力調査、スポーツテスト等の分析を基にした本校独自の改善プランを作成し、それを実践し検証していく。(2)フロンティアタイムの充実 フロンティアタイム全体を通して、班単位で生徒たちは話を寄せ合せて取り組んでいる。班の学び合いを行うことで、友達からの新たな「言葉(ことば)」「考え」「知識」が獲得できるという効果も望める。また、知識・技能の習得のみを追求するならば、個別のドリル学習が近道であるとも考えられるが、知識・技能を活用するためには、小集団で学び合う(教え合い・練り合い)が効果的である。人との関わり合いが苦手とする生徒が壊れている。フロンティアタイムにおいてより効果が上がる方法を考える。(3)家庭学習の工夫 生徒が意欲を持って取り組めるような家庭学習(宿題)の内容、提示の方法とその支援の方法等を研究していく。家庭学習は、生徒が自らの課題を持って取り組めるものが望ましいと考え、従来から行っているフロンティアタイムの語彙学習や学習内	(国)学力調査結果に基づく検証改善サイクルの確立に向けた実践研究 (県)確かな学力ステップアップ事業
甲府市教育委員会	中学校	南中学校	学習や生活の課題に気づき、進んで解決しようとする生徒の育成	～自己効力感を高め、「生徒の思い」を強める授業実践～	自己効力感が以前にも増して高まるような授業実践を通して、さらに課題を追求し向上を目指す生徒を育成するために研究を進める。より実践的な研究になるように本年度もワーキンググループを構成し、少人数・他教科の先生方により一貫した課題に多方向から迫る。	
甲府市教育委員会	中学校	北中学校	自ら学び、個性豊かな生徒の育成	生徒が学び合い、共に高め合う授業づくりを目指して	今日いづれの中学校でも少なからず、いじめや不登校、学力の低下という問題を抱えている。いじめや「学びの共同体」を築き、これらの問題を克服してきた学校は、中学校教育の中心を「学びの創造」と(授業の改革)へとシフトさせてきた。つまり、それまでの多くの中学校は、中学校が抱える危機的状況を生活指導、部活指導、進路指導の「三つの指導」を中心に対応してきたが、それらによって問題は解決されることはなかった。「生徒は学び続ける限り決して崩れない」という事実により、生徒にとって学びの場を保障することが、生徒の希望をなくくことになったのである。本校においても、抱えている問題は同じであり、その克服のためには、生徒の「学び」を保障していかなければならない。昨年度の北中の研究実践では、研究仮説「生徒が互いに尊重しあい、安心して意見を言い合える環境を学級活動や授業の中で作り上げることで、生徒は進んで考えを述べようになり、自己を表現する力は高まるであろう。」にあるように、学校教育全体を方向付ける理念はないが、「学び合う場をつくる実践が行われてきた。今年度は、それらの実践をさらに発展させ、「学びの創造」と「授業の改革」を学校教育全体の中心に「学びの共同体」とは、生徒同士のかかわりやつながりを重視しながら、小グループでの活動を積極的に取り入れ、教師も生徒と共に学び合うような場である。この考えに基づき、学年研究を中心に、個々の生徒の学びを成立させるための授業の工夫や授業実践、授業実践を積み重ね、「学びの共同体」の創造を目指す。	(市町村) 甲府の子どもの総合教育推進校
甲府市教育委員会	中学校	北東中学校	心をつなぐ道徳教育の実践	小学校との連携を生かした道徳教育の研究	(1)学校における道徳教育の充実 ①ふるさと山梨を担う生徒の育成を目指した道徳教育の充実を図り、保護者や地域住民が参加し共に考え実践する道徳教育の確立について ②小・中学校が連携し、義務教育9年間を通じた道徳の指導計画について ③「心のノート」や山梨県教育委員会作成の各種資料の効果的活用 ④生徒の実態把握のための調査の実施及び研究成果の検証 (2)家庭・地域と連携した道徳実践活動の推進 ①ふるさと山梨を担う生徒の育成のため、小・中学校が連携し、地域に根ざした地域ぐるみの道徳実践活動について	(国)道徳教育実践研究事業(県)小中連携ふるさと山梨道徳教育推進事業 10月29日
甲府市教育委員会	中学校	北西中学校	自ら意欲的に学ぶ生徒の育成	言語活動の充実を目指して	各教科や領域において、国語科で培った言語力を基盤とした様々な能力を育成していくなければならない。特に、論理や思考といった知的活動の充実・コミュニケーションや感性・情緒の育成の観点から、言語活動の充実を通して授業を工夫していくことで、生徒の学習が深められ、「自ら意欲的に学ぶ生徒の育成」につなげていくと考えられる。夏季校内研修等で集中的に新学習指導要領の内容を学習しながら、日常の活動の中では、「言語活動」の各教科・領域への適用の可能性を考えたが、教科研究を中心に行っていく。教科研では、1人1実践、各教科で1授業提供(授業公開)を計画している。また、学年研究として、言語活動の充実を通して意欲的に学ぶ集団作りの可能性を考えていきたい。	
甲府市教育委員会	中学校	富竹中学校	自立できる力を持った生徒の育成	「かかわり」のある授業を通して、基礎的な知識・技能の定着を図る	厳しい家庭環境の中にいる生徒を多く抱える本校は、生徒達は低学力や規範意識の低さなど、数々の問題を抱え生活している。そのなかで、生徒同士のかかわりやつながりを持つ実践研究を行うことで、授業や学習をきらめく生徒をなくし、一人一人の生徒の居場所が、その能力の高低や生活環境にかかわらず、学習の場面にも日常の学校生活の場面にも存在するような学校づくりを目指し、研究していく。実践研究は、学年研究による「集団づくりと教科研究による「教科の授業実践」の2本立てで研究していく。	

甲府市教育委員会	中学校	城南中学校	生き生きと活動する生徒の育成	～考える授業の創造～	①「考えること」「考えさせる授業」について職員相互に知見を深め、授業研究の一人一実践を行う。 ・講演会等を行い学習を深める。 ・全職員が、研究授業を行い、授業研究会を行う。 ・3教科において、全職員で授業研究会を行い、議論する。 ②部会(道徳・学活・総合)別研究会で、各学期ごとの実践の情報交換を行い、資料の蓄積をする。 ③QU検査の複数回の実施を行い、生徒の変化を観察・考察する。	
甲府市教育委員会	中学校	上条中学校	聴き合い学び合う授業の工夫	「小グループを活用し、生徒同士・生徒と教材・生徒と教師が「関わる」ことができるような授業をしむ。(2)より具体的に「学び合いの場面・課題の与え方・どの単元で行うかなど」日々の授業に研究が生かせるように工夫し、教材研究を深めていく。(3)(1)(2)をもとに行なった授業において、生徒の反応・思考の変化などを見取る方法を工夫し、考える。(4)研究授業の持ち方(授業の内容、回数、時期など)、研究会のあり方(授業観察の視点、授業観察者が授業に加わりやすい、研究会のメンバーなど)を工夫する。(5)新学習指導要領の基本的な考え方、教育課程の基本的な枠組みを学習する。		
甲府市教育委員会	中学校	笹南中学校	課題に気づき、主体的に学ぶ心豊かな生徒の育成	認め合い高め合う心豊かな生徒の育成と主体的な集団づくりを目指して	1. 授業づくり部会・・・必修教科を単位として ○教科において、生徒の実態を把握し、各協会における基礎基本を明らかにし、定着を図るような授業実践を研究し取り組む。 2. 集団づくり部会・・・学年学級集団を単位として ○学校経営方針本年度の指導重点を受け、実践計画を立て実践例をまとめる。	
甲府市教育委員会	中学校	甲府市・中央市中学校組合立笹南中学校桜木分校	「児童自立支援施設に併設する学校教育の在り方の探求」	～学ぶ意欲を育てる授業づくりを通して～	本年度から導入された、児童自立支援施設での学校教育の在り方について探求していく。施設との連携の中で、学校不応有をおこしてきた児童生徒の心の安定を図ながら学ぶ意欲を育てる支援について考えていきたい。以下のような研究方法を主に行っていく。1 個別の教育支援計画を基に、全児童生徒の個別の指導計画を作成し、支援を生かしていく。2 児童生徒の実態把握、実施した支援、その結果の児童生徒の変容や支援の記録を通してフィードバックする。3 学ぶ意欲を育てるための有効な支援について探求し、そこで得られる研究結果(成果や課題点)をよりよい教育課程の作成に向けて生かしていく。	
南アルプス教育委員会	小学校	八田小学校	学び合いながら自らを高める子どもたち	子どもたちが聞き取り、考える力・発表する力を高めるための授業づくり	子どもたち一人一人が「聞き取る力・考える力・発表する力を高める授業」での教師の役割を明確にする。○学び合いの学習の中で教師は何をすべきか。○獲得してほしい知識などに向けて、学び合うべき課題をどう取り、学び合いとなるべく指導していくか。子どもの学びをどうつかみか、それをどう評価するか。そこから一人一人の子どもの聞き取る力・考える力・発表する力を高める授業、つまり、きめ細かに一人一人を生かす授業・子どもたちが学び合いながら自らを高める学習活動のあり方を探るところから研究を始める。	
南アルプス教育委員会	小学校	芦安小学校	「自分の考えを表現する力を育てる国語科指導の工夫」	～言語意識を重視した話し合いの場面を通して～	①話し合いの場面を通して、自分の考えを表現する力を育てるための研究発表 ②クラスの笑顔に合わせた授業実践発表 ③「言語意識」についての理論研究 ④話し合いの理論研究 ⑤教師観察による話し合いの実態の把握と分析、実態の見取りと分析 ⑥言語意識を明確にもつことのできるような場面の教育過程への位置付けの確認 ⑦児童の思いや願いを大切に教材作り ⑧評価研究(自己・教師)の深化	
南アルプス教育委員会	小学校	白根源小学校	一人ひとりが生き生きと学び合える授業の研究	どの子ども、学習意欲が高められる指導の工夫	(1)個々の教師の子供の捉えを検討し、子ども理解を深める。 (2)一人ひとりの子供を生かすための工夫をし、個に応じたきめ細やかな指導・支援の工夫をする。 (3)子供理解に基づき、意欲が高まるような単元指導計画を作成する。 (4)学び合う場面を重視し、子供同士で考えを練り上げる授業作りを行う。 (5)授業において、子供の国語力育成を図るための工夫を行う。 (6)その授業・単元において、分らない・出来ない、という子を作らない授業作りを行う。	
南アルプス教育委員会	小学校	白根飯野小学校	学び合い 高め合う 子どもたち	子ども一人ひとりが思考力や表現力を高めるための授業のあり方	一人ひとりの子どもを様々な可能性を秘めた一人の人間として捉え、その考え・感じ方をつかみ授業を生かす工夫をし、子どもたちの思考力・表現力を高める授業を創造する。そのために「つかみ・生かす子」を深く理解し、「つかみ・生かす子」を中心とした授業を創造し、子どもを主体にした授業での教師の役割を明確にする。また、「思考力・表現力」を育てる授業を創造し、「学び合い」から「高め合い」を目指した授業を探究する。	
南アルプス教育委員会	小学校	白根東小学校	『豊かな心を育み、学ぶ楽しさ、学びへの意欲を培う教育活動の創造』	～「まっ子タイム」のさらなる充実を目指して～	(1)総合的な学習の時間の授業公開 ・3学年から6学年では、学年ごと必修課題について重点的に研究を進め、授業を公開し、全体で研究していく。1・2学年は、向かい生活科で検討していく。(2)必修課題の実践記録の作成 ・学年ごと実践記録を生かして来年度以降の学習に生かせるようにする。3学年から6学年までは、今年度は必修課題だけをより細かく実践記録に残す。1・2学年は、昨年度の「生活科の実践記録」をより充実したものにしていく。(3)学習会の開催 ・「総合的な学習の時間」における評価の在り方についての学習会を開催する。(4)人材バンクの作成	
南アルプス教育委員会	小学校	白根百田小学校	友だちと関わりながら学び、高め合う子ども		(1)子どもたち一人ひとりの思考力、表現力を育てる授業の研究(子どもたちの実態を記録する。単元や教材を工夫する。(2)友だちとの関わりを重視した学習方法や学習形態の研究(子ども同士が話し合いやすいように工夫する。教師の関わり方を工夫する。形式的な言葉での話し合いだけでなく、心の奥からの気持ちが出せるように工夫する。日常生活においても、相手を大切にすることが育つようにする。(3)態度等の効果や抽出用ポートフォリオ(評価)の活用(授業観察の方法を工夫する。子どもたちの学びの記録を逐次に活かす工夫をする。)) (児童の学びを見取り、教材や授業形態を鑑	
南アルプス教育委員会	小学校	若草小学校	主体的に学習活動に取り組む、生きる力を身につける児童の育成	国語科の基本的・基礎的な力を定着させ、各教科で生かす授業づくり	平成18年度は、「書くこと」に重点を置き、国語科に限らず他教科や総合的な学習の時間にも生かして取り組んで成果を得た。平成19年度は、引き続き国語科についての研究を行い、児童の実態を踏まえて国語科の領域のなかで「話すこと・聞くこと」に重点を置き、コミュニケーション能力を高める手立てを授業の中で行って来た。さらに県教育委員会からのリーフレットをもとに日常の言語環境のアンケートを行い実態を把握して言語環境の改善に努めてきた。本年度は、学校経営方針の重点と合わせて国語科における読み書き等の基本的・基礎的な定着を図り、知的活動やコミュニケーション、感性・感情の基礎である言語能力の育成を高める。また、各教科等における記録、説明、論述、討論などの学習活動を充実した授業づくりをし、さらに活用・探究へと進め生きる力を身につける。	
南アルプス教育委員会	小学校	若草南小学校	互いに学び合い高め合うことができる児童の育成	分かろうとして聴く子をめざして	(1)日々の授業実践をベースにした教師同士の学び合い ・次の3点を授業実践に向けての視点として、日々の授業を展開する。①学習活動の中に分かろうとして聴く・自分の考えを持つ場(自分の学び)、とともに学ぶ場(学び合い)を設ける ②「自分の学び」が「学び合い」によって高められていくことが実感できるようにする ③教師は反省的実践を意識し、継続する(2)教室・授業をひらく・ひとり最低1公開(所属するブロックの内容に従って公開)を原則とする。(授業実践をしない場合は、個人テーマを設定し、その実践報告をもって授業公開に代える)(3)各ブロック研究・低・中・高学年ブロックに分かれそれぞれ学年の実態に合わせてお互いを考え「めざす子ども像」にせまる研究を進める。(4)他からの学習参加(保護者・地域等)・道徳・総合・各教科のなかで他からの学習参加を積極的に取り入れる。・学習参加の効果的なあり方について模索する。(5)臨床記録に取り組む(抽出見継続観察) ※取り組みは強制しない・臨床的な観察は、生活臨床 学習臨床問わず気になる個人について継続的に行う。 ・子どもに寄り添った観察・意	
南アルプス教育委員会	小学校	小笠原小学校	一人ひとりを大切に学習活動の研究	相互の学び合いから、考える力を育て、確かな学力の定着をはかる	佐藤学氏の提唱する「相互の学び合い」の理論に基づきながら、「学び合い」の理念を意識した教育活動を仕組むことにより、「考える力」の育成と、「確かな学力」の定着を図ることを目指す。具体的には、① 研究主題・副主題、研究仮説について討議、決定する。② 「学び合う」という視点から、子どもの実態について話し合い、把握する。③ 授業研究のためのブロック研究、学年研究を深める。④ 低・中・高学年でそれぞれ1ずつ、研究授業を行う。⑤ 「学び合い」をさらに広げる、という視点から、研究授業のほかにも1実践を行う。可能な範囲で外部に公開する。⑥ 南アルプス市指定の「しじめ」不学力の二極化、学習意欲の低下などの問題や、発達障害・不登校傾向を持つ子どもたちへの対応は、教育現場の大きな課題となっている。「生きる力」を育成していくには学校教育の使命であり、そのためには、すべての子どもたちが安心して学ぶことのできる授業を展開し、一人ひとりの学びを保障していくことが重要である。そこで、そのための手立てとして、一斉授業を中心とする授業から、協同的な学びを組織する授業への転換を図っていく。課題設定を工夫するとともに、対話的コミュニケーション(互いに聴き合う関係)を基本とした小グループ活動等と入れ替えることにより、子どもたち一人ひとりの学びの質を高め、その積み重ねが、互いに支え合い、学び合う子どもたちの育成につながるように、今日的な教育課題を解決する出口になると、本研究主題を設定した。	
南アルプス教育委員会	小学校	楡形北小学校	『支え合い、学び合う子どもたちの育成をめざして』	一人ひとりの学びの質を高める授業づくり	「話すこと・聞くこと」の基礎基本の明確化について ・必要感のある場面の工夫について ・「伝え合う力」が育つ言語環境について ・「伝え合う力」を育てるために、「話すこと・聞くこと」を中心とした指導法の研究。 ・「言語環境の整備」	(市)学びの質を高める授業づくり推進授業 11月14日
南アルプス教育委員会	小学校	楡形西小学校	心豊かな人間性を育む授業づくり	伝え合う力「話すこと・聞くこと」の指導を通して		
南アルプス教育委員会	小学校	豊小学校	人間性豊かな児童の育成をめざし	国語科の向上を通して		

南アルプス教育委員会	小学校	落合小学校	自ら学び 課題を解決しようとする子どもの育成	算数科の系統性を重視した単元づくり教え合い学び合いが得意学習集団づくり算数的活動を積極的に取り入れた単元づくり	(1)目標を精査し、単元構成を考慮した検証授業の単元を中心に、算数的活動を取り入れると学習活動に有効な単元を選び検証授業の単元とする。(2)子どもたちの既存の知識を活用して課題を解決できる授業の構成・課題を持つためには、学習の基礎が分かり、学習意欲に気づくことができなくては課題を積極的に理解できない。課題を解決する方法を既習内容と理解し合いと課題を解決する方法を自ら探出しない。日常の授業から課題を意識させ、自分たちの力で課題を解決する方法や過程を学び取っていかないと課題解決能力は、身に付けることができない。(3)子どもたちが考えを交流し合い、結論を導き出せるような授業展開のための工夫・個人の疑問や質問に個人が応える初歩の学び合い。「分からないから教えて」と、素直に分からないことを話し合える人間関係の成熟・パス学習の導入を図り、何でも言い合える学級づくりをめざす。・書くこと、話すこと、聞くことの学習を積極的に取り入れる。・子ども達が教え合い、学びあう機会を積極的につくる。・学級の統一課題を理解し、討議し合える学級づくり。(4)具体的な研究と授業公開について(1)に示した単元と算数的活動の数量と図形の領域を研究対象とする。基礎研究は、久那土小の指導計画を基本にしながら、水道方式と教科書の違いを明確にし単元を構成していく。または、文科省の指定校の実践を参考に本校の算数的活動を創り出す。・一人一実践を原則とする。全体公開授業は4回とする。その他は、授業案と実践記録を公開する。・公開授業は、教材論を明確にし単元を構成する。・解決可能な課題を提示し、討議や教え合い活動を授業方法の中に取り入れる。	
南アルプス教育委員会	小学校	大明小学校	自ら学び 自ら考える力を育てる学習指導をめざして	伝え合う力「話すこと・聞くこと」の指導を通して	(1)国語科における、各学年の「話すこと、聞くこと」の基礎的・基本的内容を押さえる。(2)学年の発達段階に応じた、国語科における「話すこと、聞くこと」の系統表の作成(3)「話すこと、聞くこと」の評価についての研究(4)児童が自分の考えを持てるような課題設定、話し方の指導のポイント、指導計画、などを実践により研究する。(5)国語科以外の授業や、朝の会・帰りの会などの日常生活指導における、一人一人の話し方、聞け方を高める支援の工夫(6)研究の成果と課題、及び反省のまとめと次年度への方向づけ	
南アルプス教育委員会	小学校	南湖小学校	他と関わって問題を解決していける児童の育成	子ども同士の関わりを生かす授業の研究	子どもの実態把握をし、そこから子どもへの願いをはっきりさせる。そして、その願いを目標としながら、どの教材で、どのように子ども同士を関わらせていったらよいかを考え、授業や教育活動のプランを考える。そして、実践を通して、願いを持った子どもが、どのように変容したかを検証する。	
南アルプス教育委員会	中学校	八田中学校	生きる力を育み、主体的に活動する生徒の育成	～人間関係形成能力の向上を中心とした、キャリア教育の推進～	キャリア教育に関する研究(3年目)を進めていくが、本年度は中でも、キャリア教育において、つるべき力の内、「人間関係形成能力」に着目し、研究を行っていることと、ともに、本年度は、県教育委員会「いじめ・不登校未然防止推進事業」指定校ということもあり、学級内での生徒同士の関わりや、個々の生徒への支援について考えていくために、Q-Uを実施し、それを分析する上で、授業や、その他の教育活動とどのように生かせるか検証していく。また、県学校保健会より、学校保健研究指定校も受けており、「自他の理解能力」についての研究については、校内でタイアップしておこなっていること	県教育委員会「いじめ・不登校未然防止推進事業」指定校
南アルプス教育委員会	中学校	芦安中学校	基礎的な学力の向上をめざして	ともに学びあひ深いあゆみの授業の創造	(1)授業に対する力を高めるための研究・各教科において、基礎的・基本的な内容を身に付ける授業展開を研究していく。とくに、問い(疑問)→探求→表現(解決)という課題解決的学習を重視する。「知識の量」より「学びの質」を高めることにより学力が高まる学びを追求する。「仲間とともに学びあひ深いあゆむ学習集団はどうあるべきか」という観点で、グループなどの形態を考えていく。(2)「仲間と学ぶ宿泊体験活動推進事業」とかかわりを持たせた研究修学旅行や夏季节山の取り組みなど、ねらいを明確に確認し、取り組みの過程や実践の場面において、生徒たちによるよき力を引き出すのか、また、各教科との関連付けをしながら総合的に取り組む。課題に対して積極的に取り組もうとするなどの姿勢を求めて研究主題を「学びあひ深いあゆむ授業の創造」とし、市から指定された「協同的な学び」について検証するとともに、県からの提示されたステップ・アップ・プランを元にして、本校としての授業改善プランを作成した。授業形態である「協同的な学び」の有効性は確認されたものの、授業の中身となる授業改善プランもまだまだ不備が多く、手直しをしながら実践・検証して改善を加えていかなければならない。授業改善をすることで、生徒の体質改善「点数＝学力」という意識の改善を図り、学びを楽しむ生徒を育成することを継続して研究を進めていきたい	(国)県・仲間と学ぶ宿泊体験活動推進事業
南アルプス教育委員会	中学校	白根巨摩中学校	学びを楽しむ生徒の育成	より質の高い授業への改善を通して	(1)道徳の授業の教材および指導法の研究・ポランティア活動やわかば特別支援学校との交流、小笠原流の礼儀・マナーの学習などの学校内外活動の中での思いやりの心の育成を図る。	(国)全国学力・学習状況調査等を活用した学校改善の推進に係る実践研究(県)「確かな学力」ステップアップ事業(市)地域ふれあい道徳教育推進事業 11月12日
南アルプス教育委員会	中学校	白根御動使中学校	心豊かな生徒の育成	思いやりのあるあたたかい人間関係づくりを通して	・家庭や地域との連携を考えた道徳教育の研究。ふるさとまなし心の教育推進運動に関わり、授業公開の際にゲストティーチャーや外部講師などの活用を図る。(2)学級活動や特別活動、教科の授業などで積極的な人間同士の関わり合いの場の設定と関わり方の指導の研究・Q-Uアンケートの活用。	
南アルプス教育委員会	中学校	若草中学校	自ら考え、ともに学び合う生徒の育成	一歩ひの質を高める授業づくり	学びの質を高めることを目指して授業づくりを研究していくこと、生徒同士も互いに学びあひ関係を授業の中での学びあひ関係を築いていくための質を高めるために「受容」>「思考」>「発問」>「発答」>「発問」>「発答」>「発問」>「発答」という学びの質が高い授業とは、学ぶ意欲が「時間経過で減る」か、あるいは「個々の考えを引き出して、互いに聴き合える空間になっているか。(1)教科部会・研究授業・教科ごとに具体的重点項目を掲げ実践し、成果と課題をまとめる・教科部内の授業を互いに公開し研究する。・教師の力量を高めるための研修(2)領域別部会・総合的な学習の時間・道徳の授業実践の積み重ね・学年ごとの研究と情報交換・道徳は地域・保護者への授業公開	
南アルプス教育委員会	中学校	楡形中学校	主体的に取り組む生徒の育成に関する研究	お互いに認め合い、存在感が得られる関係作り	「日々の授業において、2人組・4人組・3人の学型などの工夫した学習形態を継続的に進めていく。・Q-Uを行い、クラスの実態の把握と改善に役立てる。特に要支援の生徒を把握し、日々「教科・道徳・特活・総合」などの教育活動全般にわたって子どもたちの「関わる力」を育てる教育活動を実践する。(一人一実践)・各学期1回以上、上記の目的に沿った研究授業を実施し互いに観察し合い、子どもたちが他の生徒や集団と「関わる力」を伸ばす上で、どんな工夫がされていたか検討する。・長期休業中の校内研究会等で、グループエンカウンターなど、子どもたちの「関わる力」を育てるワークショップを実施する。・年度始めと終わりと、子どもたちのソーシャルスキルや学習意欲がどのように変化してきたか、質問紙を用いて調べ、研究の検証をする。	(市)いじめ・不登校未然防止推進事業
南アルプス教育委員会	中学校	甲西中学校	学力を伸ばし、定着させる学習指導法の研究	新学習指導要領に学び、その理念を生かした研究・実践をめざして	平成20年度竜王小学校のグランドデザインに基づき、「生きる力」を知の側面からとらえ、「学びの質」を高めるために次の点に重点を置いて研究を進めていく。(1)基礎的・基本的な知識や技能の習得に同時に、獲得した知識や技能を、課題解決的な学習を取り入れるなどして「活用する」能力を高めることにも重点を置いて研究を進めたい。また新学習指導要領の理解を深め、その精神を生かし、次年度からの移行措置のカリキュラム編成がスムーズにできるように学習を深めていきたい。	
甲斐市教育委員会	小学校	竜王小学校	自ら学び、自ら考え表現できる児童の育成	国語科の指導を通して	これからの時代は、考え方の異なる様々な人と共存しながら、共同で問題を解決していく能力が必要である。そのためには、まず、相手の考えを受け止め、理解し、相手からも学ぶことのできる柔軟な姿勢で相手と向かい合うことや、自分の考えを筋道立てて表現する能力が必要ではないかと考え、本主題を設定した。	
甲斐市教育委員会	小学校	竜王南小学校	よく考え、進んで学習する子どもの育成	確かな学力の定着をはかる指導の工夫	○学習指導要領の改訂にともなう理論研修「確かな学力」の向上を図る上で、新学習指導要領の改訂については、その意向を全職員が理解できるように学習会が必要である。その学習会を通して、南小のこれからの課題を明確にし、教育課程の編成に生かしていきたい。学習会については、推進委員会内で内容を設定し運営する。教育課程の編成については、校内研の中で編成する時間を保証したい。○授業研究を通して、指導法の開発・工夫「確かな学力」を定着させるためには、何より我々教師の指導力が重要である。その対象は現在の南小児童であり、授業実践を通して、現在の児童の実態にあった指導法の開発や工夫をしていき、指導力の向上を図りたい。各学年・ブロックごとに特性(児童の発達段階や教師の個性)を生かして研究を進め、授業実践後に全体研究会で討議を進め、お互いに意見交換をする中で「確かな学力」についての共通認識を図り、より	
甲斐市教育委員会	小学校	竜王北小学校	学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を育む児童の育成	算数的活動をを通して考える力を育てる授業の創造	1.児童の意識調査と学力の実態把握・考察(1)アンケート調査(算数の学習に対する情意面と興味関心にかかわる実態を把握)(2)全国学力・学習状況調査及び復習確認検査の分析・考察2.理論研究(1)学習指導要領改訂の方向性(算数科を中心に)(2)算数的活動・数学的な考え方3.算数的活動の充実を図った授業実践(1)教材・教具、学習活動の工夫(2)学習形態、指導体制の工夫(3)評価の工夫4.先進校視察5.教育課程の見直し・編成6.豊かな言語環境づくりのための取組	
甲斐市教育委員会	小学校	竜王西小学校	「子どもの学びが響き合う学校」の創造	～学びあひの生み出される授業を目指して～	学校教育目標を挙げ、3つのめざす子ども像に向けた研究を行っていく。1)学びの楽しさに気づき、意欲を持ち自ら課題を解決しようとする子ども2)学ぶことの意義・学ぶことの大切さを理解(実感)できる子ども3)学び合い、協働しながら学びあふことができる子どもを目標とする。本年度は3)の学び合いに重点を置き研究を進めていくことを確認。①本校独自の学びあひの定義(発達段階にあった系統的指導)を設定し、検討した中で学びあひの生み出される授業を構築していく。②学習診断テスト等を用いた児童の実態把握や、教室環	
甲斐市教育委員会	小学校	竜王東小学校	自ら学び、共に伸びる児童の育成をめざして	伝え合い、学びを高め合う指導の研究	①各教科・領域において伝え合い、学びを高め合うための学習方法、指導のあり方について研究・討議していく。②教科書の検討とともに自主編成も見据えながら学年・学級の実態に合った単元構成、指導計画・課題の設定、資料の準備及び学習スタイルについて工夫していく。③教育活動全体を通して、コミュニケーション活動を検討すると共に、伝え合う力を高める活動について効果的な指導法を研究していく。	

甲斐市教育委員会	小学校	教島小学校	「主体的・創造的に考える子どもの育成」	～学び合いが高まる場を工夫することによる確かな学力づくり～	これからの時代を生き抜く子どもたちに「生きる力」や「確かな学力」を育てるために、主体的・創造的に考えることができる子どもを育てることが大切であると考へた。そのためには、子どもの思考を深め、課題を解決する喜びの中で、お互いの思いや考えを交流し、広がり深く深い学びを育みたいと考えた。低・中・高学年ブロックごとに、児童の実態やめざす子ども像を明らかにするとともに、課題を明確にし、自分の考えを持って解決する学習を工夫したり、お互いの考えを交流し、広がり深く深い学びを育むことができるような学び合いが高まる場を工夫することによって、「基礎的・基本的な知識・技能」(習得型学力)と「自ら学び考える力」(探究型学力)を総合的に育成し、主体的・創造的に考える子どもの育成を図ることを目標に研究を進める。具体的には、教師の授業力を向上させるための取り組みとして、研究授業を通して指導方法の工夫・改善を図る。アンケート等で児童の興味関心等学習状況の把握をする。積極的に研究先達校の視察を行ったり、外部講師を招聘したりして授業力の向上を図る。また、日常活動の取り組みとして、朝の会・帰りの会、児童会活動等の取り組みの中でコミュニケーション活動を意識した活動を仕組むことで、授業での積極的な発言をサポートできる	
甲斐市教育委員会	小学校	教島北小学校	よく考え、進んで発表する児童の育成	豊かなコミュニケーション活動を通して	豊かなコミュニケーション活動を通して、授業や日常活動の中で、進んで考え、積極的に発言する児童の育成を図ることを目標に研究を進める。具体的には、教師の授業力を向上させるための取り組みとして、研究授業を通して指導方法の工夫・改善を図る。アンケート等で児童の興味関心等学習状況の把握をする。積極的に研究先達校の視察を行ったり、外部講師を招聘したりして授業力の向上を図る。また、日常活動の取り組みとして、朝の会・帰りの会、児童会活動等の取り組みの中でコミュニケーション活動を意識した活動を仕組むことで、授業での積極的な発言をサポートできる	
甲斐市教育委員会	小学校	教島南小学校	生きる力を支える確かな学力を育むための指導法の工夫	一伝え合う活動を通して、言語力の向上を図る	1 講師を招いて学習会を行い、「言語力の向上」について理解を深める。(学年ごと、国語科の教科書中の説明文の構成を分析し、論理的に説明することの系統性を調べる。) 2 低学年・中学年・高学年の各ブロックごと、教科・領域を決定して、「伝え合う活動」を取り入れた授業を工夫して実践し、研究授業を行い検証を行う。 3 学習指導要領改訂について、講師を招いて学習会を行う。	
甲斐市教育委員会	小学校	双葉東小学校	道徳性をはぐくみ、豊かな心をもつ子どもたちの育成	一学校の教育活動を軸に、わかる喜びや学ぶ楽しさを感じられる授業づくり～	①地区・小中学校において共通目標と、その目標を具現化する道徳の内容項目の選定 ②9年間の発達段階を考慮した指導計画(道徳全体計画・年間指導計画)の作成 ③小中学校が共通して道徳の実践活動(あいさつ声かけ運動)の推進 ④自尊感情の伸長をめざす、道徳の時間の指導法の研究および小中交流活動の洗い出しとその実施 ⑤保護者、地域の方へ開く道徳授業参観および教職員向け3校合同公開研究会(中間発表会)の実施 ⑥子どもたちの道徳性を高めるための教育環境整備の在り方とその実際	(国)道徳教育実践研究事業(県)小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業・公開日:6月14日(土)を学級での道徳授業参観(保護者・地域一般対象。教職員の参加可) 11月7日(金)双葉中学校区合同公開研究会(指定研究中間発表会-教職員対象)
甲斐市教育委員会	小学校	双葉西小学校	主体的・創造的に考える子どもの育成	コミュニケーション活動を通して、考える力、伝え合う力を育てる道徳授業	「自己を見つめて考えさせたり、自分の考えを伝え合い他者との関わりを深めたりする。実践を通して、児童が主体的に授業や活動を意図的に取り組むならば、道徳的価値がより内面化され、児童の道徳性をより高めることができるだろう」という研究課題を設定し、授業づくりと授業研究を軸に進めていく。日頃から意識したコミュニケーション活動に取り組み、そこで培った力を道徳の授業に伝え、多様な意見の交流の中から、新しい価値に気づいたり、価値の内面化が図られたり、価値観をより高められたりするのではないかと考えている。人とのやりとりこそが人の心を変え、人の心を育てるもの	小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業【11月7日】
甲斐市教育委員会	中学校	竜王中学校	自ら学び、心豊かに育つ児童の育成	心に響く道徳授業の創造	①日中の道徳授業の充実 ②生徒の心に響く道徳教材の発掘と地域人材を活用した道徳授業の研究 ③平成21年度関東ブロック中学校道徳研究会の公開授業の準備(学習指導要領など) ④NIE実践校として1年目の取り組み	NIE教育実践校(平成20年度から2年間)公開は特になし
甲斐市教育委員会	中学校	玉幡中学校	確かな学力の向上をめざす学びの創造	～生徒の実態に応じた、わかる喜びや学ぶ楽しさを感じられる授業づくり～	本年度は、甲斐市教育委員会より「学力向上推進事業」パイロット校の指定を受け(平成19年度～)取り組むことになった。昨年度進めた研究を土台にし、課題解決に取り組む中で玉幡中学校として「学びの共同体」づくりをさらに推進していく。全員の共通理解の下「生徒自ら学び合う授業」を目指し、年間を通して深沢幹彦先生を講師として招聘し、指導法や教材の研究を進める。同時に、生徒の学びを支援し広げ深めることのできる教員の資質の向上をめざしている。そのため、年間計画に基づきほぼ毎月、甲斐市内の小・中学校や地域に授業公開を実施し、教員相互に授業を「ひらく」機会を増やしている。日常的な授業研究を中心とした研究を進めていく予定である。	甲斐市教育委員会指定「学力向上推進事業」パイロット校(H19～20年度)
甲斐市教育委員会	中学校	竜王北中学校	自ら考え学び、主体的に行動する生徒の育成	豊かな表現力やわかりあう力の向上をもとめて	表現力を高める指導や表現活動を充実させていくことを通じて、表現力やわかりあう力を育む。各教科においては、知識技能など基礎基本の定着を目指した効果的な指導とともに、表現活動や表現力の向上を目指した指導やわかりあう力を育てる指導を工夫し、実践しその成果を検討する。また、道徳、総合、特別活動の各領域において主題に照らして、その教育課程を見直し、具体的な実践を構想し実施する。今年度の具体的な実践については、今年度の内容、取り組みの中で、表現力やわかりあう力の向上、表現活動の充実などを重ねる場面や実践を意識し、その実践を通して次年度の課題を構想し検討する。上記の研究に加え、新指導要領の趣旨や内容についての理解を深めるとともに、その実践を視野に入れて、教育課程や教育内容等の研究を進める。	
甲斐市教育委員会	中学校	教島中学校	自ら考え、学び、行動する生徒の育成	豊かな言語力を育てる教科指導の工夫	(1)各教科の指導において、「言語活動」を基礎的・基本的な知識・技能の習得の改善事項に位置づけ、自分の考えを文章や言葉で表現する活動を全教科で充実させる。ア:意見発表や記録・説明、批評、創作、論述、討論、レポート作成などを全教科で充実させる。イ:授業形態や発表、発表、話し合いの方法を工夫する。(2)道徳・特別活動・総合的な学習の時間の各領域の指導において、特色ある教育課程の編成・実施・改善を図る。	
甲斐市教育委員会	中学校	双葉中学校	「心豊かに生きる生徒」を育む学習活動の創造	豊かな言語活動と規範意識の育成を重視した授業実践	道徳の授業を年間35回実践するとともに、子供たちの心の広がり(育成)をめざして、実践的な授業にしている(昨年度は理論研究)。実践の結果(評価)をみとりつつ、詳細に及んだ実践の変更をしつつ研究を深めていく。教育課程に関して、各教科と道徳教育との関連を探り、工夫した教育課程作成を手がけていく。さらに、県・国の指定を意識して、小学校2校と連携した活動を工夫する。小中の連携(教師と教師、教師と児童生徒、児童生徒同士の)活動の考察と実践もついでに、	(国)道徳(県)小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業
中央市教育委員会	小学校	三村小学校	英語活動に親しみ、進んで学ぶ子どもの育成	英語によるコミュニケーション能力の向上をはかる授業の進め方	コミュニケーション能力の向上をはかる場面を想定した授業づくりの研究を中心に、①英語活動に選んだ教科の読み合わせ、全員で行い、共通理解を高める。②ALTと担任が協力し、隔週毎に行われる『ハローワールド』という英語活動の授業にコミュニケーション能力の向上をはかる場面を想定した内容も取り入れるなどの研究を行う。③1年生から4年生は、来年度から導入される外国語活動にむけて、下学年として何を、どんなことを準備しておくよいか、または指導しておくよいかなどの研究に取り組む。④5・6年生は、ALTと担任が相談しながら来年度からの外国語活動の構成を参考に、	
中央市教育委員会	小学校	玉穂南小学校	伝え合い学び合う力の育成	国語科の授業を通して意欲的に討論し真理を追究できる子どもを育てる	(1)討論の授業とはどのような授業なのか、全員が共通理解をもつ。討論の授業を仕組むために子どもに付けさせておくべき力とはどんなものか。討論の授業まで踏み込むべき段階とはどのようなものか。討論の授業を仕組むために、教師が備えるべき力とはどのようなものか。など(2)教科書教材を履いて、発問作りや模擬授業の演習をする。(3)討論のできる学級集団を作るための日常的な取り組みを交換し合う。(4)気になる子(自分の意見が持たない、声が出せない、落ち着かない、集中力がいない…)などをよりよく理解し、授業に巻き込むにはどうしたらよいかの研修を行う。(発達障害の理解、QUTテストの活用法、TTの工夫など)について、文献の読み合わせ、講師を招聘しての学習会)	
中央市教育委員会	小学校	田富小学校	自ら学びをひらき、知を創造する児童の育成	一人一人が自主的・自律的に活動する授業の実践を通して	「心身ともにたくましく、自主的・自律的に活動する子どもの育成」という学校教育目標の実現化、自主的・自律的な活動を大事にした授業の実践を行ってきた昨年度までの研究の継続・子どもの学びを支える体感が不足しと関わる力が低下している等の今日的課題から、「学びをひらき、知を創造する児童」の育成をめざした主題を設定した。この主題は、目の前の子どもたちを見据え、一人ひとりが、自主的・自律的に活動する授業の実践を通して、「自ら学びをひらき、知を創造する児童」に成長してほしいという思いに基づいている。自主的・自律的に活動する授業を、明確な目標・見通しを持ち、既知知識を活用して新しい知識を獲得していく授業、体験的学習・問題解決型学習を取り入れた授業、課題について自分で考え、表現し、交流する場がある授業、授業の振り返り・学習感想などの自己評価を取り入れた授業とらえ、一人一人実践に取り組む。	
中央市教育委員会	小学校	田富北小学校	「生き生きと学ぶ子どもを育てる教育活動の展開」	～かわり合って学ぶ活動(算数教科)を通して～	算数教科において、生き生きと学ぶ子どもを育てるために、人やものとかかわり合って、学ぶ活動を通して、思考力を育成する。その手だてとして、次のことに取り組んでいく。学習活動(授業)の工夫として、次の3つの活動を授業に取り入れていく。①もの(教材の本質、自己表現)とかかわりを意識した授業②人(友達・教師(TTも含む))とかかわり合う活動を取り入れた授業③子どもが意味を感じ、教師が指導に生かす評価を取り入れた授業(一枚ポートフォリオ、学習感想)今年度は、表現にかかわる系統性に重点をおく。これらの活動を支える学習環境づくり(子どもの実態把握、学級集団づくり、学習基礎づくり、家庭との連携)も行う。	
中央市教育委員会	小学校	田富南小学校	主体的に生き生きと学ぶ児童の育成	～「生きる力」を育むための学習活動を通して～	I 算数教科において一枚ポートフォリオを活用した、児童の学び意欲を高める「確かな学力」の向上を目指す授業の開発 ①(学級・学年)児童の学力の実態を分析し、課題の把握・昨年度実施したCRT学力テストや知能テストの結果を分析考察し、優れている点や劣っている点等、児童や学年・学級の課題を明らかにする。 ②授業開発の方針の決定・学力向上のため、どの観点(ex:意欲向上、考える力の向上、読解力向上、伝える力の向上)に焦点を当て、学習指導を行っていくかを決める。具体的な手だて・方法を考える。 ③授業開発・実践・記録・1～2本の研究授業を行う II 「食」に関心をもち、「食」の楽しさや「食」の大切さを主体的・創造的に学び、食生活を切り開く力や豊かな心を育てるための「食」に関する多様な学習や活動における援助・指導の在り方の探求 ①食べる体験の場給食を切り口とした援助・指導・学校給食の在り方や「食」に対する意識を高めるための児童会活動(給食委員会中心)の援助・指導の在り方を探る ②学習の場 各教科・道徳・特別活動・総合的な学習等の関連的な学習指導・「食」を切り口とした総合的な学習、学級活動、教科等の学習の系統的指導や関連的指導の在り方を探る ③生活に生かす場 食生活についての家庭や地域との連携、「食」に関する保護者や地域の方々の意識を高めるための学校・家庭・地域との連携の在り方を探る 地域ボランティア	中巨摩学校校舎研究協議会指定研究推進校 11月13日

中央市教育委員会	小学校	豊雷小学校	生き生きと学び合う子どもの育成	かかわり合う活動を生かした算数科の学習を通して	昨年度まで本校で研究してきた国語科におけるコミュニケーション能力を高めるための手だてから明らかになったかかわり合うための手だてを算数科でも活用し、確かな学力を身に付け、生き生きと学び合う子どもの育成に資する。具体的には、問題解決的な学習過程に、課題提示の工夫やワークシート等の活用、ワークシートの工夫等を取り入れていく。また、生き生きとした学び合いの土壌として、子どもの実態把握、学級集団作り、学習基礎作り、家庭学習の充実など、環境作りにも取り組む。	
中央市教育委員会	中学校	玉穂中学校	粘り強く主体的に課題に取り組む生徒の育成	研究目標 豊かな自己表現を通して互いに高め合う集団作りと授業作り	豊かな言語活動によって主体的に自己表現できる生徒を育成するために、まず、生徒一人ひとりが安心して自分を表現できる温かな人間関係の学級を作ることを目指す。その検証方法の一つとして、Q-U調査を実施し実態把握を行う。その調査結果をもとに、生徒にとって居心地の良い学級集団作りを目指して学級経営を行う。また教科指導にも活用できることがあれば、積極的に行う。一定期間の学級指導、行事を経て、2回目のQ-U調査を行い実態を見る。Q-U調査についての学習会、学年ごとに「ブレーンストーミング」などのQ-U活用について事例検討会を行う。研究授業は特別活動も含め、学級活動で行う。(1、2年生)の先生については教科または道徳で行う。	
中央市教育委員会	中学校	田富中学校	「生きる力」につながる「よりよく生きる」生徒の育成	確かな学力と国語力の向上を目指した活動を通して	「生きる力」における「確かな学力」に着目して、生徒の実態を考慮しながら、自ら学び、自ら考え、主体的に判断して、よりよく問題を解決する資質や能力を身に付けさせる「指導方法」「評価・支援」を工夫し、生徒の実態の様子から、指導方法の検討と検証を行う。・国語力としての「考える力、感じる力、想像する力、表す力」から成る、言語を中心とした情報を処理・操作する力や「考える力や、表す力」などを支え、その基盤となる国語の知識」を身に付けさせるための活動ならびに指導方法を検討し、生徒の実態を考慮した言語環境の整備に向けた取組の方策を検証する。「生きる力」における「豊かな人間性」を育成するために、生徒の実態を考慮しながら、より充実した日常的な道徳の時間の実践に向けて、環境整備ならびに教材開発の検討と検証を行い、授業公開などにおいて指導方法を評価・交流の工夫と交流を図る。「生きる力」につながる「よりよく生きる」生徒の育成するために、生徒の実態を考慮しながら、3年間を見通した活動となるよう、学習テーマ及び指導計画を明らかにし、体験活動等の実践を通して生徒の姿勢の様子から昨年度までの研究を継続発展させ、自分の学びをつくらせる児童を育成することを目指す。方向性として、これまでの研究においてその価値が確かめられたつつある共同の学びのありかたを追究する。具体的には、子どもたち一人ひとりの考えの交流や練り合いがより主体的、意図的に行われ、互いが向上的に実質していく授業。すなわち学びあふ授業をどのようにつづけていってよいかということ明らかにしていく。教科や領域は限定せず、学びあふ授業の条件についていくつかの先行研究や理論を学びながら見直しを持つとともに、本校児童の実態を見つめて具体的な課題を設定し、それらに対応した授業実践をできるだけの研究員が提出し、協議し、あわせて、その成果を毎週「急速にグローバル化、変化しつつある社会へ対応するために本校が取り組む」英語活動創出創出にはどうしたらよいか、そのより良い指導の在り方を探る。	(県)エネルギー教育推進校(予定)
昭和町教育委員会	中学校	押原小学校	自分の学びをつくらせる児童の育成(2年生)	学びあふ授業を通して		
昭和町教育委員会	中学校	西条小学校	コミュニケーション能力の素地を養う指導法の研究	～英語活動の実践を通して～	～英語活動の実践を通して～	(県)小学校英語活動拠点校(県)わくわくイングリッシュ小学校サポート事業拠点校 10月31日
昭和町教育委員会	中学校	常永小学校	「確かな学力」を身に付けた子どもの育成	生活科及び総合的な学習の時間等の一層の改善を通して	新学習指導要領における「生活科」「総合的な学習の時間」「外国語活動」の目標と内容について理論研究を深める。また、それぞれの授業検証を行う中で来年度の教育課程を整備していく。具体的には、「生活科」については新設・追加される内容と、総合的な学習の時間については、70時間に対応できる教育課程の整備と授業作りをそれぞれ行っていく。「外国語活動」については、①教育課程の整備 ②教材・教具の研究 ③授業モデルの確立の3つが2年生計画で研究し、進めていく。	
昭和町教育委員会	中学校	押原中学校	自ら進んで学び、たくましく生き、志を育てる生徒の育成	かかわり育てる「話し合い」活動を通して	①3人の先生に「話し合い」活動を意図的に仕組んだ授業を実施してもらい、その授業研究を通して互いに学び合う。 ②全員が「話し合い」活動を意図的に仕組んだ授業を行い、実践を通して研究を深める。 ③課題の提示の仕方など、かかわりが活発になる「話し合い」活動のあり方について研究する。	
重崎市教育委員会	小学校	重崎小学校	生き生きと自ら学ぶ子どもの育成	子どもたちの「確かな学力」の定着をめざして	国語科では、「書く力」高めることをねらいとし、国語科の授業の中で、言語事項を意識した短作文による書く活動を研究し、その単元のねらいに合った読みを深める学習を進める。また、日常的取り組みでは、朝の学習で複写や自直作文を取り入れ、正しくつないで書くことや相互評価をする中で「確かな学力」の定着をめざす。算数科では「数理的な考え方を高めることをねらいとしている。問題解決型の学習過程の「考える」「学び合う」の過程に重点を置いた指導の工夫や自分の考えを持つための算数的な活動を工夫して取り入れ、子どもたちの学びを深める研究を進める。	
重崎市教育委員会	小学校	穂坂小学校	自ら学び、考える子どもの育成	算数科における、学び合いの場を通して	算数科を研究教科とする。基礎基本の確かな定着を図るための授業の工夫を行う。単に繰り返しのドリルの学習でなく、子どもたちが考えたり、話し合ったり操作したりする場を、学び合いの場ととらえ、意図的に学び合いの場を意図的に仕組む授業を行う。効果的な学び合いの場の設定について基礎的な理論研究、及び事業実践を行う。	
重崎市教育委員会	小学校	重崎北東小学校	自ら考え、判断し、表現する子どもの育成	国語科授業を通して、活用する力	国語科「読むこと」領域において、習得すべき基礎的・基本的な知識・技能の内容を明らかにし、言語活動を活用することで、自ら考え、判断し、表現するなどの「活用する力」を育成することのめざす。実践研究に当たっては、児童の各々の学びの姿やその過程を捉え、国語科の学習を通して、主体的に学び、論理的な思考力・判断力・表現力を育てるとともに、豊かな心情を持ち、自分の知識や経験と結びつけながら表現したり、相手の気持ちや考えを尊重することができる子どもの育成をめざす。そのため手段のひとつとして今年度は「PISA型読解力」の内容を職員が研修することから始め、授業の創造と実践を通して現代の子どもたちに求められる「社会や実生活に活かせる力」といかなるものなのか学校教育目標「豊かな心を持ち、自ら学ぶ子どもの具現化のため、研究主題を「意欲を持ち、主体的に学習に取り組む子どもの育成」とした。これからの時代に求められる国語力を育成し、その基礎基本となる学習指導を研究していくことを確認した。具体的には、国語科の読解指導において、身に付けさせたい力を明確にし、「話す・聞く」「読む」「書く」などの言語活動を積極的に授業に仕組ませたい力を明確にし、「話す・聞く」を基盤とする「読書や表現、文法、内容構成、表現に関する知識など」についての指導に力を入れていく。昨年同様、本年度も「読解の文章教材」を通して国語力の向上をめざした取り組みに重点を置き、授業づくりや学習環境など周辺の手だてのあ	
重崎市教育委員会	小学校	重崎北西小学校	確かな力と豊かな心をもつ児童の育成	～国語科における、学ぶ力を探る～	～国語科における、学ぶ力を探る～	
重崎市教育委員会	小学校	甘利小学校	意欲を持ち、主体的に学習に取り組む子どもの育成	一人一人が学ぶ楽しさを実感できる学習指導の工夫と改善(国語科を通して)	一人一人が学ぶ楽しさを実感できる学習指導の工夫と改善(国語科を通して)	
重崎市教育委員会	中学校	重崎西中学校	人間性豊かな生徒の育成	望ましい生活習慣の確立から生きる力をはくく	本校では文科系の研究指定を受け、これまでの研究をベースとしながら確かな学力を支える健康・体力、特に食育を中心とした望ましい生活習慣の確立を目指すとともに、確かな学力を確実に定着させるための実践研究を行っていく。主な研究内容(研究の方向性確認・各領域部会研究・食育アンケート実施・指導案検討及び研究授業の実施(家庭科)・食農体験について、平成21年度教育課程の検討・研究授業の実施(保健体育)・研究授業の実施(学級活動)・食育委員会について、平成21年度教育課程作成	(国)平成20年度「子どもの健康を育む総合食育推進事業(国研)我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業
重崎市教育委員会	中学校	重崎東中学校	「生きる力」をはぐくむ学習活動の研究	確かな学力の向上をめざす活動実践を通して	～生徒の学ぶ意欲が高まり、確かな学力の向上をめざす活動実践を通して～	
北杜市教育委員会	小学校	明野小学校	確かな学力を育てる学習指導に関する研究	活用する力を高める国語科・算数科の指導法の研究	活用する力を高める国語科・算数科の指導法の研究	
北杜市教育委員会	小学校	須玉小学校	「わかる授業」「できる授業」で確かな学力の向上をめざして	「わかる授業」「できる授業」の実践研究	「わかる授業」「できる授業」の実践研究	
北杜市教育委員会	小学校	増富小学校	「自ら学ぶ子ども」の育成	問題解決学習を通して	(1)カルテをつけ子どもの理解に努める。 ・ひとりひとりの子どもの理解を深める手だてとして、カルテに記録しそれをもとめ、そこから子どもの姿を探っていく。 ・カルテにつけることは生活・学習活動における子どものいつもと違う行動・言動・表情など教師が気づいたこと、より程度に書き留める。 (2)問題解決学習を取り入れることにより、考える力を伸ばす。 ・子どもの疑問やつよきを大切にすること。 ・子どもに対する教師の関心を明確にする。 ・気になる子どもに寄り添った授業を仕組む。	
北杜市教育委員会	小学校	高根東小学校	自ら学び、自ら考え、表現する児童の育成	国語力を高める指導・援助の工夫を通して	現行学習指導要領の「生きる力」の育成という基本的な考え方は、新指導要領に引き継がれ、さらに知識・技能を活用する力という点が重要視されている。そのためには児童一人一人に、すべての学力の基礎基本である国語力を高めさせ、「社会に出て立ち回る言葉の力(活用型学力)を身に付けさせたい」と考えた。①学習状況調査・観察・学力テストなどから実態調査を行い、到達目標を設定する。②目標に達するための日常及び国語の授業に力を入れ取り組みを工夫し改善する。③話し書き指導の活動を授業の中に設定し、検証授業を行う。④地域ボランティアアサールと連携した読み聞かせや語りの会を行う・児童による群読発表を行う・校内に「言葉のコーナー」を設置するなど豊かな言語	

北本市教育委員会	小学校	高根西小学校	自ら考えよく学び生き生きと活動する児童の育成	英語活動の実践を通して	①英語活動の公開研究会にむけての計画・準備・実践 ②公開研究会の反省及びまとめ ③新しい教育課程の編成にむけての研究 ④英語活動の年計画・活動案などに実践を行い、学級担任単独あるいはTTで行う英語活動の授業における英語での「聞く・話す」活動や内容、教材・教具、学習形態等をさらに工夫、新たなものを取り入れるなど改善を図る。 ⑤英語活動の教材・教具、研究成果(資料)等、英語活動に関わる学習環境の整備 ⑥上記に関する理論研究	(県)わくわくイングリッシュ小学校サポーター事業 6月27日
北本市教育委員会	小学校	高根北小学校	児童が生き生きと学ぶ教育課程の編成	新学習指導要領の意義を踏まえて	社会的な要請や学習指導要領の改訂に伴う大きな変革期を迎え、我々現場は早急な対応を迫られている。確かな学力、活用力、生きる力を育むための授業時数の増加の考え方やキャリア教育、食教育、英語活動その他新たな教育活動、豊かな心や健やかな体の育成等についての理解を深め、本校のよりよい教育課程の編成を目指す。	へき地教育研究大会山梨県大会10月17日(金)
北本市教育委員会	小学校	高根清里小学校	豊かな心を育み清里教育の創造	ひともの・しぜんとの関わりを通して	子どもたちがふるさとである清里に誇りを持ち、よりよい未来の担い手として成長する基礎を育てるため、清里の「ひともの・しぜん」との関わりをおとし、豊かな心が育つような「清里教育」を創造する、という研究目標を設定し、19年度より取り組んできた。「ひと」とは人間関係をいい、学校での友達や職員、地域の大人や家族との関わりを指す。「もの」とは清里地区を中心とした歴史文化・産業をいい、開拓の歴史や、伝統的な祭り、節慶や観光などを指す。「しぜん」とは清里周辺の自然環境をいい、動植物や水、空気などの環境を指す。これらと直接ふれ合う体験を取り入れた総合的な学習、生活科、道徳などの授業を作るとともに、それらと他教科、日常生活との有機的なつながりを図つて	へき地教育研究大会山梨県大会10月17日(金)
北本市教育委員会	小学校	日野春小学校	豊かな心を持ち、主体的に考え、実践する子どもの育成	書く力、伝える力を高める活動を通して生きる力を育む	・国語科における実態調査、児童意識調査(5月・2月) ・理論研究、日常のとりにくについて ・指導案検討、研究授業(1・4・5学年) ・国語科における指導法の工夫(書くこと、伝えること) ・伝える場合の設定のあり方 ・公開授業研究会等、情報の共有 ・心の教育を語る会開催	
北本市教育委員会	小学校	長坂小学校	共に学び合う授業の創造	思いや考えを伝え合う活動を通して	・子どもたちがお互いに思いや考えを伝え合う活動を通して、共に学び合える授業を創造する。個々の子どもたちの思いや考えをつないで、相互に関わらせるための指導法や考えや思いを表現できるようにするための指導法。「書く力」をつけていくための指導法を研究する。言語環境の整備を図っていく。	
北本市教育委員会	小学校	秋田小学校	自ら学ぶ秋田の子ども	聴き合い、学び合う授業作りを通して	1 一人ひとりが大事にされ、聴くことを中心とする教室作り・QUアンケートを行い、学級の実態をつかむ。・聴くことを習慣化する。(聴くときの作法を身に付ける)・学び方の基盤として聴き合う関係を築く。教師は、子どもがつぶやきの声を聴く姿勢を持ち、子どもの発言を聴くもどす、つなぐ役割を果たす。 2 自ら学ぶ意欲を生み出すための教材の研究と学習環境作り・問題解決的な課題設定 ・豊かな学力向上のための豊かな言語環境作り・教材との出会いを支え、探求心を刺激する教室環境作り 3 学習形態の工夫・「個」「ペア」「小グループ」「一斉」学習等、特に小グループ活動の導入により、表現を共有したり、気軽に意見交換したりする場を作る。・友だちや先生の表情がよく見え、考えを交換しやすい場の設定4 一人ひとりが思いや考えを伝え合い、互いに共有し、学び合う活動・分からないことを気軽に問ひかける姿勢「ねえ、どうするの?」・友だちの表現の良さを見つたり、自分と比べてたりして学び合う場の設定 ・1枚ノートフォリオの活用(自己の考えを振り返り、自己の愛着を実感する。)	
北本市教育委員会	小学校	小泉小学校	確かな学力を身につけた児童の育成	考える力の育成と、分かる算数科授業の創造	「算数の授業を楽しんで感じられるような、分かる授業の工夫。」○教材開発一日間の専任教員教材としたものを一人ひとりにて児童に意欲を持たせる。○算数的活動を取り入れ、実際したものを使ったり、体を使ったりして課題解決を図る。○ヒントカードや具体物の操作など、自分で解決するための支援の方法を工夫する。「考える力を伸ばす手だてを考える。」○多用な考えが出るような課題の工夫 ○指導案の工夫一授業の中で身につけさせたい考える力を、指導案の中で実際の子どもに 姿に置き換えて考える。○言葉や数式、表、グラフ等を使って論理的に考え、筋道を立てて説明し伝える活動の場を	
北本市教育委員会	小学校	泉小学校	自分の思いや考えを豊かに表現し、伝える力を高めるために	国語科向上を目指した「読むこと」の指導を通して	○国語科向上に向けた国語科「読むこと」の指導の工夫の研究 「読むこと」の指導の方法についての研究を国語科の単元指導を通して行う。特に「ことば」を大切にしたい読み取りができるようにする。また、読解力がつくような発問の工夫をしていく。昨年度作成した「身につけさせたい基礎基本の力表」年間指導計画「読むこと」カリキュラムを今年度も活用していく。 ○国語科向上を支える基礎・基本および言語環境についての研究 『読書活動』ことばのきそタイム』『言語環境』『学校通信キセキレイ』の取り組みをしていく。	
北本市教育委員会	小学校	白州小学校	「豊かな表現力を育てる指導の工夫」	国語科の「話すこと・聞くこと」の指導を通して	学校内の言語環境を整えると共に、国語科の「話すこと・聞くこと」の学習を通して「伝えあう力」を育てるための学習指導の工夫をし、学校生活の中の「伝えあう場」を生かすことにより子ども達に「豊かな表現力が育つて」ある。と考え、 ①全職員で子どもたちの呼び方、言葉遣い、掲示物などの言語環境を整える。 ②授業研究会を設け、研究授業を通して「伝えあう力」を育てるための学習指導の工夫に努める。 ③学校生活の中で、伝えあう場面を洗い出し、効果的に伝えあう場面を仕組んでいく。	
北本市教育委員会	小学校	武川小学校	できる喜びをあじわう指導法の工夫	国語科・算数科の実践を通して	原音が「分かった」「できた」「楽しい」と実感できるように、基礎・基本の定着を図りながら、共感的に学ぶ雰囲気作りにも努め、一人一人の願いや思いを大切に、学ぶ楽しさや達成感を味わわせるような指導の工夫を、授業実践を通して明らかにしたいと考える。具体的な取り組みとして、①日常的な取り組みによる「教科の基礎・基本」「学びの基礎・基本」の定着を図る。「教科の基礎・基本」として、既習内容の課題にもう一度取り組むことにより、学習内容を想起すると共に、自力解決を支える素地となる力がつくと考える。「学びの基礎・基本」として、学びの共同体として、ともに高めようとする学級集団をつくり、学習習慣の形成に力を注いでいく。自力解決する力・書く力の育成を図る。これは、学習した知識や技能を使いこなせる活用能力を高めるような授業を進めることが必要と考える。③高まりを実感できる振り返りの習慣化を図り、学習を振り返ることにより、自分の中で獲得した分かる喜びや努力したがんばりを再認識させたい。その他、一	
北本市教育委員会	小学校	小瀬小学校	生き生きと学び、確かな学力を身に付ける子どもの育成	国語科・算数科及び社会科における検証改善サイクルの構築をめざして	本校は、県教育委員会より「確かな学力ステップアップ事業」(平成19～21年度)の指定を受けている。本事業の目的は、全国学力調査等の結果の分析をまえ、課題となる学力の向上を図るための授業改善を進めることである。このため、県教委が作成した「結果改善のための手引き」等に示された改善プランの有用性を検証するとともに、必要に応じてプランの再改善を行うなどの実践的研究を行うことと、研究活動の中核に据えている。年間1回の授業研究を行うとともに、日常的に改善プランを実践し、有用性・適否を検証する計画である。研究対象教科は、国語・算数及び社会であるが、その他の教科、道徳・特別活動・総合的な学習の時間などにおいても、活用向上のための検証実践の機会とらえ、積極的に授業実践を推進していきたいと考える。	県「確かな学力ステップアップ事業」
北本市教育委員会	中学校	明野中学校	理想の生き方の追求とその実現する力の育成		中学3年間(将来の生き方を決める重要な時期である。高校進学を目指す生徒がほとんどである)が、その先の生き方も含めた進路選択をする必要がある。将来どの職業に就き、生計を立てていくのかまで考えさせた上で進路決定をさせたい。人間にとって働くことは生活の基本であり、生きていくためには欠かせないものである。働く目的は、経済面はさることながら、その人の生きがいでもあり、だからのためにという公共の福祉ためでもある。その意味でも、「勤労の尊さ」や「奉仕の心」を体得していくことは生徒にとって必要不可欠である。そこで、総合単元的道徳学習の中核となる道徳の時間に役割演技やエンカウンターを取り入れた授業を行うことで、生徒ひとりひとりの道徳や職業に対する課題意識を明確にしていきたい。さらに、心の記録(評価カード)を取り入れることで、自分によりよく見つめさせ、自分のよさや新たな課題を見つけていきたい。また、藤崎工業高校との連携においては、生徒同士や少人数の交流や教員間での研修の場を設け高校のこれまでの研究も継承しながら、昨年度に引き続き、豊かな心をほぐすための道徳教育の充実をめざした研究を中心に進めていく。また、初任者研修実習校に伴い研修授業の充実にも努める。 1 道徳(1)日常的な道徳授業の実践(年間1人1授業の公開) (2)道徳資料の充実 ・道徳資料の整理、共有化・活用した資料の収集(アンケート及び配布したものの指導の経路)・資料の収集、提供(今まで活用できなかったもの(その他)) (収集方法)・共有ホルダーの利用(プリント及びプリントアウトしたもの)・副読本の活用(使用教科の確認) 2 教科指導 (1)初任者研修授業実習校としての授業の充実(指導案作成・授業参観・研修会の準備等) (2)選択授業及び「礎」の指導の充実 3 特別支援教育 (1)支援教育についての講師を招いて研修会 (2)支援教育の充実(学習内容・生徒の様子等の情報交換)	(国)道徳教育実践研究事業推進校
北本市教育委員会	中学校	須玉中学校	豊かな心をほぐす道徳教育の充実	道徳的価値の自覚を深める道徳授業の実践をとおして	1 道徳(1)日常的な道徳授業の実践(年間1人1授業の公開) (2)道徳資料の充実 ・道徳資料の整理、共有化・活用した資料の収集(アンケート及び配布したものの指導の経路)・資料の収集、提供(今まで活用できなかったもの(その他)) (収集方法)・共有ホルダーの利用(プリント及びプリントアウトしたもの)・副読本の活用(使用教科の確認) 2 教科指導 (1)初任者研修授業実習校としての授業の充実(指導案作成・授業参観・研修会の準備等) (2)選択授業及び「礎」の指導の充実 3 特別支援教育 (1)支援教育についての講師を招いて研修会 (2)支援教育の充実(学習内容・生徒の様子等の情報交換)	
北本市教育委員会	中学校	高根中学校	知識や技能を活用し、問題解決を図る生徒の育成		習得型の学習と探究型の学習の間に、「活用型の学習」を位置づけ、①基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させ②定着した知識・技能を実際に活用する力を育成し③「評価規準に基づいた適切な評価を行い、生徒の意欲の向上を図る」という本校独自の過程を構築し、主体的に取り組む生徒を育成したいと考える。 具体的な研究内容として「活用型学習の理論研究(講師を招いての研修会・教育課程指導資料の手引きの活用)・活用型学習を推進し」授業づくり教材開発活動(学習指導要領に添った授業実践)一人一実習生徒の主体性が高まるための授業作りを目指して、学習形態「ペア・小グループ」の活用など、評価「自己評価シート(1枚ポートフォリオ)」など、課題「教材教具」学習課題など、について各教科ごとに焦点を絞り研究・実践していく。また、学力の分析や学習環境の整備などにも取り組んでいく。	
北本市教育委員会	中学校	長坂中学校	主体的に学ぶ生徒の育成		(1)小集団を活用して、互いに学びあう授業についての理論研究 (思いやりを育てることを目指して) (2)小集団学習を効果的に取り入れた授業実践(一人一実践) (3)研究会等の開催 本校学校教育目標を具現化するため、生徒の実態を鑑みながら「確かな学力」を生徒に身につけさせたいと考えました。基礎的・基本的な知識や技能の習得を重視した教科指導を行うことや、課題を見つけて解決するための思考力や判断力をもって表現しようとする力を生徒に身につけさせられるような指導方法の工夫(学習活動の創造)をしようということ、職員同士で確認し合い、できるだけ多くの授業実践を行います。	
北本市教育委員会	中学校	泉中学校	助け合い、学びあう生徒の育成	～教科や領域の指導をおとし、思いやりの気持を育てる～	(1)小集団を活用して、互いに学びあう授業についての理論研究 (思いやりを育てることを目指して) (2)小集団学習を効果的に取り入れた授業実践(一人一実践) (3)研究会等の開催 本校学校教育目標を具現化するため、生徒の実態を鑑みながら「確かな学力」を生徒に身につけさせたいと考えました。基礎的・基本的な知識や技能の習得を重視した教科指導を行うことや、課題を見つけて解決するための思考力や判断力をもって表現しようとする力を生徒に身につけさせられるような指導方法の工夫(学習活動の創造)をしようということ、職員同士で確認し合い、できるだけ多くの授業実践を行います。	
北本市教育委員会	中学校	白州中学校	「確かな学力」をはぐくむ学習活動の創造		本校学校教育目標を具現化するため、生徒の実態を鑑みながら「確かな学力」を生徒に身につけさせたいと考えました。基礎的・基本的な知識や技能の習得を重視した教科指導を行うことや、課題を見つけて解決するための思考力や判断力をもって表現しようとする力を生徒に身につけさせられるような指導方法の工夫(学習活動の創造)をしようということ、職員同士で確認し合い、できるだけ多くの授業実践を行います。	

北杜市教育委員会	中学校	武川中学校	生きる力を大きく 心育活動の充実	価値をいかす小 団活動のあり方	1学期は学級組織つくりと学級活動の向上を中心に研究を進めています。また、学園祭を は、生徒の自主・自治活動の育成の絶好の場と考え、組織つくり、指導・援助の流れ・方 法についても1学期の研究として取り組んでいく予定です。2学期は、生徒一人ひとりがい きる小グループ学習テーマで各教科の授業研究を進めます。3学期は、研究のまとめ として研究の成果と課題を明らかにしていきたいと思っています。また、1学期に、生徒 理解の一環としてO-Uテストを実施する予定です。生徒のより客観的な理解と今後の 教育活動、研究に活かしていきたいと考えています。	
北杜市教育委員会	中学校	小瀬沢中学校	学んだ知識・技能 を活用する力を育 成する授業の創造		新学習指導要領のキーワードである「習得」「活用」「探究」について研修し、「活用」をど うとらえるのか、本校として方向性を決定する。 なお、学習者の実態を把握し、単に「知識や理解」習得するのではなく、現在、学習 者に定着していないと予想される、「思考力・判断力・表現力」を育成するような学習の展 開を工夫する。このことは各教科と総合的な学習の時間において研究し、来年度の教育	NIE協議協力校(平成20・21年 度)
北杜市教育委員会	中学校	甲陵中学校	人間性豊かな生 徒の育成をめざし て	道徳の授業等の 実践を通して	・生徒の実態把握 ・理論研究(指導主事やスクールカウンセラーの招聘による学習会等) ・実践研究(道徳の授業の充実、道徳以外の授業での実践)、体験学習、 外部講師の招聘等) ・家庭や地域との連携 ・その他 新学習指導要領の学習会の実施、先進校視察の充実、他校の研究会への参加等	
山梨市教育委員会	小学校	加納岩小学校	『豊かな学力の育 成』	「学びの共同化」 を図り、意欲的に 学び合う子どもを めざして	○理論研究 ・共同化と論理的な思考活動についての研究 ○検証授業 ・全体公開授業 ・ブロック別公開授業 ・個人実践 ○授業を通しての研究 ・多様な意見のまとめ方 ・学びの実感が感じ取れる評価についての研究 (検証に関連づけた事前事後の意識調査、授業中での評価) ・学習課題についての研究(教科・単元・教材の質と与え方など) ・学習過程の研究(共同化の導入と終了のタイミングなど)	
山梨市教育委員会	小学校	日下部小学校	「確かな学力」を保 障する指導の研究	「書く活動」を通 して、「伝え合う力」 を育む指導の工 夫	①「書く活動」を思考・判断とつなげる手だて。 ②「伝え合う力」の低・中・高別のとらえ方 ③授業のシステム化 ④実態調査に基づいた授業実践と指導法の工夫 ⑤授業公開(一人一実践) ⑥特別支援教育についての学習会(学習支援の事例交流も含めて)【資料】 ・講師を招いての学習会、及び特別な支援を要する児童(学習遅延児も含む)への 支援方法についての情報交換 ⑦今日の教育課題関連の学習(学習指導要領改定、学力テストの分析等)	
山梨市教育委員会	小学校	後屋敷小学校	思考力・判断力・ 表現力の育成	算数科の授業づく りを通して	・思考力・判断力・表現力についての研修会 ・子どもたちの思考力・判断力・表現力についての学習状況の把握と分析 ・思考力・判断力・表現力を育成する算数科の授業実践 ・特別支援教育についての研修会	
山梨市教育委員会	小学校	日川小学校	自分の思いを伝え 合うことができる 児童の育成	～国語科「書くこ と」の指導を中心 にして～	昨年度は「伝え合う力」の指導の工夫を、国語科の「書くこと」を中心に探ってきた。個人 カルテの作成、言語資料等の整備、言語環境の整備等を通して「書く力」が伸びてきてい る。今年度は「伝え合う力」は「聞く」「話す」「読む」「書く」能力の総合的な言語能力と捕 らえ、書いた素材をもとに子ども自身が自分の思いを伝え合う喜びを味わえる学習活動 を仕組み、「伝え合う力」を育成していきたい。①「伝え合う力」を育てる単元指導計画の 見直し ②「伝え合う場」の設定 ③目的意識・相手意識を高めるための工夫 ④「伝え合う 力」を高める教材づくりとその工夫 ⑤評価の明確化と評価カードの工夫 ⑥日常 評価を工夫した学習会・授業実践、通信表の評価について、児童の生活に関する調査の 実施、児童の生活の調査を生かした取り組みなど	
山梨市教育委員会	小学校	山梨小学校	子ども達の意欲を 高める評価方法 の工夫	達成感もてる 評価方法の実践 を通して		
山梨市教育委員会	小学校	八幡小学校	生きる力を支える 豊かな心を育むた めの指導の工夫	命の大切さを学 ぶ体験活動を通 して	教科学習や総合的な学習、特別活動等において、命の大切さを学ぶための体験活動を 取り入れ、工夫して指導していくことで、自他の命を大切に思いやりの気持ちを持って 生活していくよう豊かな心を育てていく。	児童生徒の輝く心育成事業～ふれ あい応援プロジェクト～
山梨市教育委員会	小学校	岩手小学校	生き生きと学習す る児童の育成	表現する力の向 上をめざして	基礎となる「聴く力」の更なる定着を図りながら社会性を培う場を意図的に設定し大勢の 中でも気後れせず、きちんと対応しているような自分を表現する力(「話す力」)の向上 に重点を置いて取り組んでいくことにより「生き生きと学習する児童の育成」を実現してい きたい。○「豊かな表現力(話す)」について学習会を行い共通理解を図る。○「話す 力」について、児童の実態把握と分析を行う。「言語環境調査」…「話すこと」「あいさ つ・言葉遣い」のアンケート及び教師の見取り「CRT」○「話す力」を身につけさせる指 導を工夫した授業実践 ○「話す」意欲を高める場の工夫や言語環境の整備	
山梨市教育委員会	小学校	牧丘第一小学校	書く力を高め、豊 かに表現する児童 の育成	学習指導法の工 夫と書くことの 日常化を通して	①小・中・高ブロックに分かれ、「学習指導法の工夫」と「書くこと」の日常化について、 児童の実態にあわせて研究する。「学習指導法の工夫」…指導内容を焦点化して、指 導と評価を一体化する。毎時 間ごとの指導と評価を明確にして、児童一人ひとりがど こまで達成できているかを教師が把握する。これらを指導にいかし、どこまでできている のかを児童に伝える。「書くこと」の日常化…国語の授業で培った書く力を応用して他 教科の書くこと、や日記等について、言語環境を整え、自分の言葉で書き表すことがで きるようにする。②書く力に関する年間指導計画の見直しをする。③新学習指導要領につ き、昨年度に引き続き、「数学的思考力」を育む活動の工夫として「算数的活動」のあり方 について研究しながら、新たに「数学的コミュニケーション」を取り入れていく。獲得した考 える力や計算力を用い、話し合い、考えを練り上げていくことで「数学的思考力」を深める ことができると考える。まず子どもたちに付けさせたい数学的コミュニケーション能力につ いて、発達段階に応じて具体的な目標を設定し、その能力を身につけるための指導の工 夫を行う。具体的な内容として、理論研究、子どもたちの実態調査、数学的コミュニケー ションを取り入れた授業実践、学びタイムのあり方について研究を進めていく。	
山梨市教育委員会	小学校	牧丘第二小学校	数学的な考え方を 育む算数科授業 の創造	数学的コミュニ ケーションを通 して	①算数科の利点を生かしたわかる授業・楽しい授業の工夫 ・学ぶ力を高めることについての理論研究をする。・それぞれ児童の実態に合わせ、少 人数の利点を生かした授業や欠点を補う授業を工夫し、児童の学ぶ力を高める。全学年で	
山梨市教育委員会	小学校	牧丘第三小学校	学ぶ力を高める指 導の工夫	少人数に応じた 学習指導	・全校で共通の朝の習熟学習時間(ステップアップタイム)の有効活用を図る。 ・計算・漢字・音読・読書の活用・読書などの力や家庭学習の習慣・基本的な生活習慣・ 学習習慣などを育成するための実践を記録し、学年で情報交換する中でよりよいものに していく。 ②少人数の利点を生かしたわかる授業・楽しい授業の工夫 ・学ぶ力を高めることについての理論研究をする。・それぞれ児童の実態に合わせ、少 人数の利点を生かした授業や欠点を補う授業を工夫し、児童の学ぶ力を高める。全学年で	
山梨市教育委員会	小学校	三富小学校	進んで学び、互い に高め合う児童の 育成	話し合いを中心 とした、伝え合う 力を育てるため の手だてを通し て	1. 話し合う力をつけさせるための授業実践・授業研究へ取り組む。授業研究はブロック 研究を基盤とし、各ブロックよりそれぞれ一つの検証授業を行う。他の学年も一実 践を 公開し相互の学習の機会とする。2. 話し合いを中心とした伝え合う力をつけさせるため の理論や先行研究を学び、共通理解のもと全員で研究を進める。伝え合う力を支える 。聴く・理解する・考える・書く・話すからを身につけさせるための方法について研究す る。先進校の実践、文献、研修会などの伝達する。3. 聴く・話す力、読む力の向上にむ けた継続した取り組みを行う。聴く話すためのチェックポイント提示したり学びアクション メントの活用したりする。スピーチ広場、親子読書、書くことの日常的な取り組みを継 続する。4. 学習指導要領改訂に伴う教育課程の見直しを行う。5. その他、実態調査や O-Uなどを活用し児童理解に努める。各学年に応じた情報処理能力を習得させる。	
山梨市教育委員会	中学校	山梨南中学校	真理を求め、自ら 考え、正しく判断 し、進んで学習す る生徒の育成	探究心をはくむ 学習活動の推進	・学習形態等を工夫することにより、生徒同士が教え合ったり、学び合ったりする学習活 動を通して、思考力・判断力・表現力・問題解決的な資質や能力を図る。・生活との関連 の中で思考したり、判断したり、自分の考えや感情を表現したりするなど、学習と生活と のかわりを重視した授業を推進することにより、学習に対する関心・意欲の向上を図 る。・生徒の実態に合ったグループ活動に適した課題の設定をし、自分の考えと他者の 考えを比較検討するなかで、確かな学びとなるような授業を工夫する。・教師及び生徒相 互の適切な支援により、基礎・基本の定着を図る。・学習内容や学習目標を明確にする とともに、相互評価や自己評価等を活用することにより、学習を振り返り自己学習力の育 平成14年度から3年間、学力向上フロンティアスクールに指定され、(1)一人一人の個 性を大切に学年級経営(2)基本的な生活習慣と学習習慣の確立(3)個に応じた教科 指導①評価を生かした指導の改善②少人数指導・コース別学習など学習形態の工夫③ 個に応じた指導のための教材開発や、学習過程の支援の工夫・改善④学びの機会の充 実に取り組んできた。それに加え昨年は、学習力向上の向上に際して学び、国語科の 視点をもった授業研究を取り入れてきた。今年はいもう一歩踏み込んで理解力や表現力を 伸ばす具体的な指導方法について考えていきたい。「思考力・判断力・表現力」と言われ るが、その育成のために各教科において、例えば記録、要約、説明、論述といった活動を どのように仕組んでいくと効果的であるか探していきたい。	
山梨市教育委員会	中学校	山梨北中学校	確かな学力の向 上を目指す学習指 導に関する研究	理解力や表現力 に関わる指導を 通して		

山梨市教育委員会	中学校	笛川中学校	一人ひとりの学習意欲の向上と、主体的に学習に取り組む生徒の育成	教科指導研究会(国・数・英研究部会)と学年指導研究会(1・2・3学年部会)を設置し、全職員がそれぞれ所属します。教科指導研究会では国数英を重点に以下の内容の研究実践を行います。①「基礎学力」の定義について確認する。話し合った内容に応じて、1)日常の授業実践、2)大単元の取り組み(基礎・基本)の確実な定着を目指すため、指導方法を検討する。③「確かな学力」定着のため、「習得した知識・技能を日常生活の中で活用できる力」を育成する。手順・内容を考える。④評価規準を明確にし、授業観察の視点を明らかにする。⑤教材・教具の工夫を行う。ワークシート・授業導入時の小テスト・視覚教材を使うなど、教材・教具の工夫を行い、生徒の学習意欲を喚起したり、基礎学力の向上を図る。⑥全国学力調査の結果分析結果を活用する。全国学力調査(国・数・英)の結果を本校でも分析し、普段の授業への還元や新学習などの補充学習を行う。分析のポイントとして、主として「知識」と「活用」に関する調査であることを念頭に分析する。平均正答率だけでなく正答数の分布状況の把握を行う。個々の児童の読書や無回答の状況把握し、各領域、各観点ごとに課題があるかを考察する。その結果を授業へどのように還元するか、具体的な手順を考え、実施する。学年指導研究会では以下の内容の研究実践を行います。①学年ごとに学習規律と学習習慣を確立できるようにする。②始業前・放課後・長期休業中に学習する機会を設定する。始業前・放課後や長期休業中に、各学年ごとに分からない所を教職員に聞く機会を設ける。③きめ細かな個別指導を実施する。学習相談を目的とする学級担任や学年職員を中心としたカウンセリングを充実させる。子どもを中心に据えて保護者との連携を推進する。④進路学習を実施する。総合的な学習の時間や特別活動の時間で、外部講師や卒業生による講話、体験入学、出前授業、職場体験や職業観への実施し、3年間を見通した学習の意識付けを行い、進路の実現に取り組む。⑤OQを全学年実施し、生徒理解に努める。⑥生徒の生活実態を把握する。(生活アンケートを通して)3年生が実施した生活アンケートを1、2年生に実施する。また3年生が実施した生活アンケートを1年生に実施し、昨年年度のアンケート結果(全国割合、本県割合、本校割合)と今年度の各学年アンケート結果を比較する。その結果、生活実態の改善を念頭に、必要に応じて実施する。⑦各学年指導研究会	確かな学力ステップアップ事業	
甲州市教育委員会	小学校	塩山南小学校	確かな学力を育てる学習活動の研究を通して	言語活動を取り入れた授業実践を通して	本校の子どもたちにつけさせたい学力について、次期学習指導要領が示す学力についての理論研究、言語活動を取り入れた授業を公開し、改善を行う。次期学習指導要領に伴う年間指導計画の見直しを行う。	
甲州市教育委員会	小学校	塩山北小学校	心豊かにいきいきと学び合う子どもの育成	算数科で、考えを高める学びを通して	1. 具体的内容 ・算数科で自分の考えを表現する場面、活動を明らかにする。 ・考える場面で表現に視点を当てた授業づくり ・算数科の理論研究 ・算数科の理論研究 ・算数科の理論研究	
甲州市教育委員会	小学校	奥野田小学校	伝え合い、学び合う児童の育成	授業における学び合い活動の工夫を通して	(1)学び合い活動の工夫に視点を当てた授業研究(研究授業(低学年ブロック、高学年ブロック各1本)一人1実践授業 (2)アメリに関する理論学習 (3)目指す授業(子ども)像について	
甲州市教育委員会	小学校	大瀬小学校	小・中学校の連携を通して、豊かな心を育む。道徳教育の推進	命を尊重し、よりよい生き方を考える児童・生徒の育成を目指して	塩山北中学校区4校の連携し、9年間を見通した道徳教育を実践し、推進していくようにする。全教育活動との関連を図り、小中学校で連携・交流活動を考慮した道徳教育全体計画を作成し実践していく。道徳教育についての理論研究や資料収集・教材開発を行い、道徳授業に生かしていくようにする。また、道徳の授業を保護者や地域に公開し、地域でも豊かな心がはぐくめるような取り組みを行っていくようにする。道徳性を培うための環境整備活動も実施していく。小中学校で道徳の授業を見合うなどの活動を通して、児童・生徒の実態をみたり、9年間で豊かな心がはぐくむための道徳授業のあり方を	(県)小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業 (国)道徳教育実践研究事業
甲州市教育委員会	小学校	神金小学校	小・中学校の連携を通して、豊かな心を育む。道徳教育の推進	道徳の授業の充実と、学校・家庭・地域で連携した道徳教育の推進	○授業・教育課程部会では、地域の素材や人材を生かした道徳の授業の工夫と9年間を見通した指導課程を作成し、授業を地域に公開する。 ○道徳活動「環境づくり部会」では、家庭・地域及び小中連携しての道徳実践活動を計画し実施する。 ○児童の実態の把握を見取るための方法を工夫していく。 ○道徳協議による学習会や公開研究会への参加で学んだことを研究に生かしていくよう	(県)小中連携 ふるさとやまなし道徳教育推進事業 (国)道徳教育実践研究事業
甲州市教育委員会	小学校	玉宮小学校	小・中学校の連携を通して、豊かな心を育む。道徳教育の推進	他教科・特活とのかかわりを重視した、道徳の時間の指導の工夫	道徳の時間の指導の工夫だけでなく、他教科・特別活動・学校行事等と道徳の時間の関連をはかり、総合単元的に道徳を進める。塩山北中学校区4校の小・中学校の連携を図り、連携して道徳教育を推進していく。	(国)道徳教育実践研究事業 (県)小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業
甲州市教育委員会	小学校	松里小学校	子ども一人ひとりの学力を高める研究	図画工作科における育てたい資質や能力を意識した指導と評価の工夫	「4つの観点を意識した指導と評価の工夫をする。」 本校では、評価の観点に示された4つの資質や能力を「4つの力」として示した。児童の学力を高めたいためには、この4つの力を意識し、授業にも意識し、子どもにも意識して指導や評価を考えていくことが必要であると考えた。そこで、「4つの力」を意識した、題材の研究・評価規準の作成、指導と評価の計画、めあての意識化、学習カードやふりかえりカードの工夫・言葉掛けや見取りの工夫・支援を必要とする子どもへの手立ての工夫・鑑賞の力を育てる場の工夫等について研究実践していくこととした。	学力の把握に関する研究指定校事業(国立教育政策研究所)
甲州市教育委員会	小学校	井尻小学校	『意欲的に取り組む、自ら追究する児童の育成』	～読心力を伸ばす指導の工夫・改善を通して～	国語学習において主体的な読みを定着させる手立てを工夫し、読書活動や言語環境を整備・充実させることにより、子どもたちの豊かな人間性を育む。 *「読むこと」の理論を学習する。 *「主体的な読み」を定着させる国語科の授業を工夫・改善する。 ・「授業目標」評価をめざし、指導の一体化を図る。 「読心文」において、文章を正しく読み取る手立てを工夫する。 ・「文学作品」において、文章を豊かに読み取る手立てを工夫する。 ・それぞれの「読み」を交流する場を設け、読みを深め合う。 ・支援が必要な児童への手立てを考える。 *読書活動を推進し、子どもたちの言語環境を整える。	
甲州市教育委員会	小学校	勝沼小学校	豊かな学力を育む指導のあり方	国語力の向上をめざした授業実践と言語環境づくりを通して	昨年度から継続研究で、ねらいと評価を明確にしながら、「読む」と「話す・聞く」の割合に分かれ研究を進める。具体的内容として(1)児童の基礎学力の実態把握と分析・日常の実践の交流・CRTの結果から各学年の課題を明らかにし、それを解決していく言葉と(2)「一人一人実践」→授業実践の中から、指導主事を要請する授業を2本取り、(3)読書活動の推進を図るための具体的な方法と研鑽会、子どもたちの読書傾向を探るなどし、読書量を増やすための取り組みを行う。(4)言語環境を整えるための具体的な方法と研修会・読書の時間、学習規律(話し方・聞き方)など全校で取り組む。(5)「新学習	
甲州市教育委員会	小学校	祝小学校	「子どもを高める指導法の研究」	～一人一人実践の取り組みを通して～	1 一人一人実践 ・本研究は、仮説を立てて、検証していくという「仮説-検証」型の研究ではなく、授業実践を中心とした事例研究とする。 ・無難に流れる授業よりも、見る職員が勉強になるような「主張・テーマ、思い入れ、投げかけ」がある授業を心がける。 2 国語力向上について ・年度始めに、実態調査を行って、課題点や取り組みを話し合い、豊かな言語環境づくりに向けて、実践に取り組む。指導主事を指導員、学習委員として、年度末に再び実態調査を行い、改善を見取り、一年間の取り組みの反省を行う。	
甲州市教育委員会	小学校	東雲小学校	考える楽しさを実感し、意欲的に学ぶ子どもの育成		自分の出した答えがはたして妥当なのか確かめてみたり、何か見落としがないかを振り返ってみたりするなどして、時間をかけて思考を繰り返す作業が、生きた学力を形成するうえで必要である。考える余裕を与えることで、思考は深められるだけでなく一層ふらふら多様な発想が展開されるであろう。そうすることで子どもにより豊かな思考力が培われていくと考える。「考えること」「高め合うこと」として「活用すること」の楽しさを味わわせるために各教科の教材研究を深め、授業を展開する。さらにこのことが意欲の向上にもつながっていくことを確認しながら研究していく。	
甲州市教育委員会	小学校	美山小学校	意欲的に活動する子どもの育成	「読むこと」の取り組みを通して	①「読むこと」の授業において、ねらいに即した指導の工夫、子どもたちの考えを引き出す発問や発問の工夫など具体的な指導方法を明らかにしていく。 ②研究授業を通して、成果や課題を共有する。 ③本校の子どもたちの実態を把握し、必要な言語環境を整えていくための具体的手立てを考え実践していく。 ④行事ごとに感想発表の場を設け、「話すこと聞くこと」の力を見ていく。	
甲州市教育委員会	小学校	大和小学校	学び合い高め合い意欲的に学ぶ児童の育成	個が生かされ基礎学力の定着をめざした授業づくり	子どもたちにつけさせたい「生きる力」には、確かな学力・豊かな人間性・健康及び体力の向上があげられている。確かな学力は、知識・技能だけでなく、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力なども含まれる。しかし、学ぼうとしたとき、その学習を可能にする力として基礎的な知識・技能が基礎となる。基礎的な学力が確実に身に付くと、子どもたちはできるようなったと実感し、そのことがやればできるという自信につながる。その後の学習に対して意欲を持って、自ら学び自ら実践していくことができるようになるものとする。本年度は今までの研究の成果を生かしながら、わかりやすい授業を最優先に、基礎的な学力を確実に身に付けさせ、子どもたちが学ぶ意欲を高め、学んだことを定着させ応用できる力も身に付けさせたい。また、学ぶ喜びを味わい、個が生かされ、互いを尊重し、互いに学び合うことのできる態度や習慣を育成していきたい。本校は少人数学級であることの利点を最大限に生かし、わかる授業を推進し個に応じたきめ細かな指導を工夫することで、基礎学力の定着とともに、個が生かされる学習集団・学級づくりをめざし	
甲州市教育委員会	中学校	塩山中学校	心豊かに、生きる力をはぐくむ教育の研究	心をたがやす道徳と基礎・基本の定着へ～個から集団への成長を意図して～	研究主題にそなわら、「集団力」を高める方策を今年度の研究の方向性として、臨時的に述べるとは、「学力を伸ばす意欲とその実践のできる集団」づくりをするための研究となる。この研究を推進する手段として、以下の三つの柱を設定した。 (1)学びの主体となる生徒の「質的」向上 (2)各教科における現状の把握と、それに伴う指導方法の改善 (3)意欲的に学ぶ集団づくり 以上の視点に基づき、主題の追究を進めたいと考える。	(国)道徳教育実践研究事業 10月29日 (県)小中連携 ふるさとやまなし道徳教育推進事業連携 10月29日
甲州市教育委員会	中学校	塩山北中学校	小・中学校の連携を通して、豊かな心を育む。道徳教育の推進	命を尊重し、よりよい生き方を考える児童・生徒の育成をめざして	1 あいさつができる子どもとし、あいさつ運動を推進する。(規範意識) 2 基本的な生活習慣が身についた子どもとし、早寝・早起き・朝ご飯運動を推進する。 3 (命を大切に、他者を思いやる) 3 コミの美しい地域作りをする子ども。花いっぱい地域作りをする子どもとする。花いっぱい運動。(社会をより良くしようとする) 以上の取り組みに対する実践として「道徳の授業の実践」及び研究授業の実施、道徳教育の充実と道徳の授業の地域や保護者への発表を行う。小学校3校と保育所との連携やボランティア活動の推進を図る。	(国)道徳教育実践研究事業 10月29日 (県)小中連携 ふるさとやまなし道徳教育推進事業連携 10月29日

甲州市教育委員会	中学校	松里中学校	生きる力を育成する教育の創造	新学習指導要領へ向けての取り組みを通して	1 新学習指導要領に基づく年間指導計画の作成 ・改訂の主旨やポイントについて学習会を設け理解を深める。 ・試行に先駆けて現行学習指導要領に基づく年間指導計画の見直しをする。 2 新学習指導要領踏襲した授業実践 ・多教科で改訂に伴ったのポイントを洗い出し、それを踏まえた授業実践を仕組む。 3 キャリア教育の実践と検証 ・昨年度作成した全体計画を実践する中で加除修正をし、検証する。	(国)キャリア教育実践プロジェクト
甲州市教育委員会	中学校	勝沼中学校	心豊かに「よりよくなる」生徒の育成	～キャリア教育の推進と新学習指導要領をふまえた教育課程の研究をとおして～	1 キャリア教育の指定校としての実践研究 一昨年度の校内研究で扱ったキャリア教育に関する研究を実施して(2年生における職場訪問、農業体験の実践研究(総合的な学習の時間)) 2 新学習指導要領の移行期を来年に控え、その内容の研修と教育課程の編成、来年度から実施される新教育課程の移行期を前にして、新しい学習指導要領の内容の学習と研究をつまみあげ、来年度からの教育課程を編成構築をすすめていく。 3 初任者研修における教科領域等の実践的進め方・英語の少人数授業の実践	キャリア教育実践プロジェクト事業
甲州市教育委員会	中学校	大和中学校	生きる力の育成	生徒一人一人を生かす学習活動を通して	平成24年度完全実施の学習指導要領が昨年度末に発布され、本年度はその周知期間とされた。そして「生きる力」の育成は前の学習指導要領を引き継いで、ますます重要になるとなった。このことを踏まえて、本校の課題を振り返った時、「生きる力」、特に「確かな学力」の定着に関して、各教科等における知識や技能の習得について重視した上で、それらの知識や技能を生徒一人一人が自らの学びに即して活用をはかる学習活動が展開されるようにしていく必要がある。このため、本年度の研究では、新学習指導要領並びに、中央教育審議会の答申などの中身である、教科の「改善の基本方針」に留意しながら、学習活動を通して本校の課題を明らかにしていききたい。	
笛吹市教育委員会	小学校	石和南小学校	【豊かな心を持ち自ら考え行動できる子どもの育成】(第1年次)	「一人一人が考え、生きる力を持つ児童の育成」	★授業づくり【国語科を研究の教科として設定】一人一人が考えを持つ場の工夫 発表活動の工夫 聴く活動の工夫 を軸として国語科の授業を作っていく。★集団づくり・【集団づくり案】を学級担任が作成、【活動づくり案】を専科教師が作成する。【考えを持つ活動の視点】【発表し合い聴く活動の視点】を具体的取り組み計画の中に設定する。→7月と1月に実践を振り返り学年・学級づくりの指導の共有化にする。QU調査によって、学級集団の客観的実態を把握し、学級集団づくりに活用する。★生活・学習環境づくり・基本的学習習慣・学習規律・家庭学習の充実などを学習を成立させるための	
笛吹市教育委員会	小学校	石和東小学校	自ら学び、自ら考え、生きる力を持つ児童の育成	「伝え合う力」を高める国語科の学習を通して	「仲間とかかわり合う活動」については、これまでの研究によりある一定の成果を得ることができた。今年度は、その成果の上で「伝え合う力」に焦点を当て、研究を進めることとした。昨年の研究を通してわかったことは、「伝え合う力」を構成する要素として、①相手意識 ②目的意識 ③場面状況意識 ④方法意識 ⑤評価意識 があるが、この構成要素に加え、まず児童の「伝えたい」という内面的な意欲を高めることが重要ということがわかってきた。興味を持った課題を自ら積極的に追究した時、自然に相手に伝えたいという意欲が生まれてくる。話し手は、相手のことを考え、どんな目的で、場面で…といったことを判断して適切な方法を選択し、話せるようになること。聞き手は、話し手の考えを受け止め、自分の考えに纏り込んだり、別のことを創造したり、そのような関係が作り出されれば「伝え合う」関係が成立することになる。以上のことから、今年度は「仲間とかかわり合う活動」を仕組み、その中で「伝え合う力」を高めていく研究を進めていきたい。	
笛吹市教育委員会	小学校	石和北小学校	自ら学び、自ら考える子どもの育成	子ども同士が伝え合う活動を取り入れて	1 授業づくり ①伝え合う活動を取り入れた授業づくり ・各教科等において、伝え合う活動を取り入れた授業を工夫する。 ・思考力や判断力、表現力を高める話し活動を工夫する。 ・教師の支援(発問・指示・助言)を工夫して伝え合う活動を深める。 ・授業実践における仮説の検証。 ②豊かな言語環境づくりプログラムを取り入れた日常実践。 ③新学習指導要領の共通理解と教育課題の解決、学習指導法等の一般研修。 ④学力テストの結果の考察と課題の改善案に基づく実践。 2 集団づくり ・お互いに信頼し合える学級づくりの実践。他者の感じ方や考え方を交流し、伝え合い、分かり合う活動の工夫。 ・「お互いに信頼し合える人間関係づくり」をめざした取り組みを行うと共に、学級集団や児童一人一人の姿容の様子をみとめる。 ・豊かな言語環境づくりプログラムを取り入れた日常実践。3 学習環境づくり ・言語環境実態調査の実施と課題の焦点化。・生活習慣の改善と家庭学習の習慣化を図る。 ・読書活動の推進。	
笛吹市教育委員会	小学校	富士見小学校	学び合う児童の育成	聞き合い、互いを認め合う活動を通して	(1)学び合う学級集団づくり・「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U」テストを実施。学級経営の改善について検討会を実施。・「学び合う子ども」「学び合う子どもをつくるための基礎基本」「学びを支えるための教師の働きかけ」の取り組みを盛り込んで学級授業を作成し、公開する。 (2)学力検証・分析の在り方 児童の実態を把握するために、日常の観察・面接法・アンケートとワークテスト、NRTの学力検査の分析・育てたい資質・能力とそれを習得させるための手立てを明確にした授業を実施し、子どもに還元できる自己評価・相互評価 (3)学び合える教師集団、教師の力量の向上・日々の授業を充実させるよう、学年間の話し合い、教材研究などに取り組む。・教師一人ひとりが、子どもが「学び合う」理想の姿をイメージし、そのために教師が育てていきたい資質・能力を考え、その具体的な手立てで、取り組みを意図的に取り組む。・全員が、授業の開示を日常的に行い、主体的な授業改善を行う。・学年間の授業公開を基本とし、年間を通して専任的なアドバイザーから指導を受ける。・「やってみよう」「楽しかった」と思えるよう、研究会を工夫する。 (4)情報の積極的な開示・研究発信を断行する。(輪番)・学びの拠点として研究情報の発信を断行。・「学び合い」について鋭意行った実践について情報交換を行う。	
笛吹市教育委員会	小学校	石和西小学校	「生きる力」を育む学習活動の創造	互いの思いや考えを交流し、共に学び合う活動を通して	全国学力実態調査結果の自校の結果の分析を行い、その課題を職員で共通理解する中で、研究を行っていく。また、県で示す「改善プラン」を自校の課題克服のために実践に取り入れ、改善点などについて具体的にまもっていく。また、「知識」や「活用」について自校の実態を踏まえる中で指導方法について具体的に実践しまもっていく。	(県)「確かな学力」ステップアップ事業実践検証
笛吹市教育委員会	小学校	御坂西小学校	「確かな学力」の定着をめざす学習指導	書く活動を取り入れた学習を通して	○授業づくり ・書く活動を取り入れた指導について、学習、実践、交流し合うことで、よりよい工夫・実践の方法を探っていく。 ・各学年の実態に合わせた、日常的に書く活動への取り組みを行う。 ○互いに認め合い助まらせる人間関係を築くことをめざした集団づくり ○学校と家庭が連携し学習活動にねばり強く取り組めるような学習環境づくり (1)児童の実態把握を、生活、学習両面で行い出し、学校全体の課題を把握する。 (2)児童一人ひとりの表現力を高める工夫をする。 ・日常の授業や活動(全校活動も含む)の中に表現力を高めるための手立てをい入れる。	
笛吹市教育委員会	小学校	御坂東小学校	自ら考え、判断し、行動できる児童の育成	自己を見つめ、互いに表現し、高め合う活動を通して	・授業づくり部会……「個への対応」の工夫を行い、「対話」をキーワードとした授業研究を中心とした校内研究を行う。各教諭が一実践以上を行い、本校のめざす子ども像に近づいたかどうかを見取り、総括し学校全体としてめざす子ども像に近づいたかをまとめていく。・集団づくり……互いの学級づくりの良さや課題を授業研修会の前に学び合い、学習していく。QUアンケートを活用し実践に生かしていく。・研修、学習……英語教育について研修を深めていく。新教育課程について研修していく。互いの学習として、機能別教育の先生方から、教職員の資質として必要な知識や技能を交流し合う。	
笛吹市教育委員会	小学校	一宮西小学校	いきいきと活動する子どもの育成	0	(1)授業づくり部 研究仮説(基礎学力・学習習慣の定着を基に、教科・道徳・総合的な学習の時間において子どもが意欲を持って授業を組み立てることにより、いきいきと学習する子どもに育つ)に基づいた研究と検証をしていく。 (2)集団づくり部 ともに認め合い、高め合える集団づくりに取り組む。 (3)教育環境づくり部 家庭・地域との連携を図りながら、望ましい生活習慣を身につける取り組みを進める。	
笛吹市教育委員会	小学校	一宮北小学校	豊かな心を持ち、生き生きと学ぶ児童の育成	～考えを伝え合い、学び合う活動をととして～	「豊かな心を持ち、生き生きと学ぶ児童」を育てるため、「思いや考えを大切にすることができる児童」に重点を置き、「話を聞くこと」「話す(発表すること)」に取り組む。「思いや考えを大切にすることができる児童」の具体化を行う一系統性づくりを行う一児童の実態把握を行う一検証方法の具体化を行う一指導計画に基づいた取り組みを行う一授業研究を行う一成果と課題を明らかにする一新たな研究の方向性を探る。	
笛吹市教育委員会	小学校	八代小学校	ともに学び考える子どもの育成	0	授業づくり、集団づくり、教育環境づくりの3領域での研究を行う。授業づくりでは、授業研究や産前産後等を利用した毎日の記録、実態調査を行う。集団づくりでは、学級経営の交流や運動会等における学級集団づくり、集団づくりについての学習、また特別な支援の方法として「よびの教室」の支援の方法を学習する。教育環境づくりとしては、食教育の推進や保護者とともに日常的にチェックカードを利用している取り組みを行う。	子どもの健康を育む総合食育推進事業
笛吹市教育委員会	小学校	境川小学校	生き生きと活動し、基礎基本を身につける子どもの育成	自分で考え表現できる力を育てる指導と評価の工夫を通して	(1)授業づくり ・ノート指導を全クラスで日常的に取り組む。 ・意見を交流させる場面のある授業づくりに取り組む。 ・朝学習に関する学校全体計画づくりに取り組む。 ・国語科と算数科の検証授業(研究授業)を行う。 (2)学級集団づくり ・学級集団づくり案の作成 (3)家庭との連携 ・子供成長のよりよい生活環境をつくるための家庭との連携 (4)新学習指導要領への対応 ・新学習指導要領に対応した教育課程に関する学習会と教育課程づくり	

笛吹市教育委員会	小学校	春日居小学校	主体的に取り組む児童の育成	進んでコミュニケーションを図ろうとする子ども～英語活動を通して～	①指導法の研究・単位時間の学習展開についての研究・授業で使える教材・教具の購入及び手作り教材の作成・担任(HRT)主導の授業展開とより効果的なALTの活用 ②年間指導計画の作成・国際理解教育の年間指導計画の見直し(低学年8時間、中学年12時間、高学年30時間の学習展開)・21年度の指導計画の作成(高学年は35時間) ③学習環境作り・国際交流に関わる校内学習環境作り(イングリッシュルームの整備) ④教材・教員の保管場所の整備・国際交流集会の開催	(国)19年度、20年度「わくわくイングリッシュ小学校サポート事業」
笛吹市教育委員会	中学校	石和中学校	主体的によりよく生きようとする生徒の育成	「学びの質」「守・破・離」を意識した教育実践	(1)生徒のさらなる成長のためには、まず、教師集団の意識改革が必要である。校内研究を通じて、まず教師が学ぶ姿勢を強く持ち、学ぶ集団となって生徒のより良い成長を促す。 (2)あらゆる教育活動場で、主体的に学びあい、高めあう生徒集団になるために、学ぶ意欲や楽しさを実感させ、学びあう環境をつくる。 (3)主に授業の場で、思考力・実践力をつけるために、意欲がもてる学習課題を設定し、「習得型」「活用型」「探求型」の授業をバランスよく実践していく。 (4)主に集団的な活動の場で、正しい価値観をベースに、想像力・個性・自浄力・実践力を養うために、行事や自治活動の内容や運営を工夫していく。 (5)主にPTA活動や外部との関わりの中で、生徒のより良い生活基盤(生活習慣)をつくる	
笛吹市教育委員会	中学校	御坂中学校	基礎学力の定着と向上を図るための実践的研究	生徒の実態に応じた授業における工夫を通して	「生徒の学習活動の場において、生徒の実態に即した効果的な学習指導上の工夫を工夫すれば、基礎的・基本的な学力を身に付けた生徒の育成が図られるであろう。」を研究仮説として設定し、以下のことについて取り組む。 (1)各教科で①教科における基礎・基本の明確化、②生徒の実態把握と課題の見直し、③生徒の実態に即した効果的な学習指導上の工夫での工夫、④検証のための資料収集と分析 (2)研究授業の実施(一人一実践授業) (3)基本的な生活能力アンケートの実施と個人票の活用 (4)生徒理解に関する学習会の実施	笛吹市教育協議会研究指定校 公開日:10月29日
笛吹市教育委員会	中学校	一宮中学校				
笛吹市教育委員会	中学校	浅川中学校	『生きる力』の育成	総合的な学習の時間の評価を通して	総合的な学習の時間においては、教科での学びを意図的にふりかえらせて、生徒自身の興味・関心に基づいた体験や学習を大切にしながら、自らの生き方について考えさせることで、身近な課題解決に向けて思考力・判断力・表現力を高める学習活動(指導)を全校体制で行う。総合的な学習の時間について研修し、教育課程・評価方法などについて	(国)平成20・21・22年度『学力の把握に関する研究指定(総合的な学習の時間)』について
笛吹市教育委員会	中学校	春日居中学校	『生きる力』を育む授業の創造	『確かな学力』の育成を目指す	①授業実践研究・文科部会・理科部会・実技部会の3部会に分かれ授業実践について研究を進める。教科ごとの仮説を設定し、その検証のための方法・手段を工夫しながら授業を実践していく。 ②国語力向上研究・これまでの継続研究として、朝学習の時間、朝の会、帰りの会、諸行事等に関わって、国語力の向上に向けての研究と実践を進める。各学年に分かれ授業実践研究ともリンクして研究を進めていく。 ③その他の研究・先進校の視察や学習会などを通して学んでいく。	
芦川村教育委員会	小学校	芦川小学校	自ら学び、自ら考え、主体的に活動する子どもの育成	問題解決的な学習過程で関わり合う工夫を通して	○「関わり合いの工夫」の実践を通して、成果と課題を明らかにする。 ・児童一人ひとりの実態を適切に把握し、関わり合う力を育てる。 ・作業的、体験的、具体的を用いた活動を自ら学び考える過程に取り入れ、また、友だちの考えをよく聞きながら、自分の考えと比べることができる過程を授業の中に取り入れるよう工夫する。 ・形成的評価(ルーブリックなど)を取り入れた指導と評価の一体化に取り組む。	
芦川村教育委員会	中学校	芦川中学校	まだ完全に固まらずに育ちたい。いまのところ、「地域や他の生徒と交わり、他と支え合う		* 生徒一人一人の実態を分析した上で、教科における基礎基本の定着。 * 個を生かす教科指導。 * 生徒会活動や、諸行事で、一人一人に役割を持たせた活動を楽しくてゆく。 * 多様で柔軟な集団を生かした、生徒会活動の企画立案。	全国へ地教育研究会授業提供
市川三郷町教育委員会	小学校	上野小学校	生き生きと学び合う子どもの育成をめざして	『学びの場』をいかに創るか	・本校児童の課題として、学ぶための基礎・基盤として、基本的な生活習慣を身に付けさせること、毎日の学習習慣を身に付けさせること、学び合うための基本として、場や場面に応じた言葉使いを身に付けさせること、言葉や文章で表現する力を高めることなどを洗い出した。その課題解決のために、人の話を聞く力を育てる。分らないこと、知りたいたことを聞く力を育てることを核とした授業作りの研究に取り組む。そして、「学び合う」との楽しさや充実感が得られる授業作りをする。 ・「特別支援学級」の2学級設置校として、特別支援に関わる研修を深める。など、上野小学校のどの子どもにも「学びの場」が保障され、学校が楽しい、友だちと学ぶと楽しく感じられるような研究を進める。	
市川三郷町教育委員会	小学校	大塚小学校	自ら考え、自ら学ぶ子どもの育成をめざして	～「活用」する学習活動を通して～	(1)新学習指導要領の研究。 (2)「活用」する学習活動のねらいを明らかにする。 (3)「活用」する学習活動の研究。 (4)楽しい学校生活を送るためのアンケート(Q-U)を用いた学級経営。 (5)コンピューター操作の研究。	
市川三郷町教育委員会	小学校	市川小学校	自ら「見つけ、調べ、まとめ、表現する」子どもの育成を目指す	学年間の関連を生かした、教育課程の見直し	・教育活動全体を通して言語能力を伸ばす取り組みをする。各自の実践を積極的に情報公開する。 ・新学習指導要領について学習し、対応できる教育課程を作成する。特に、低学年の算数の内容を見直すこと、九九をスタートにしたかけ算の学習を高学年へどう発展させるか、全校で意識を統一する。 ・TTによる個に応じた指導の充実、朝学習、ふれあいの時間、書く活動を取り入れた「ふりかえり」等による、評価活動を充実させる。	
市川三郷町教育委員会	小学校	市川南小学校	考える楽しさを実感し、知識を総合的に活用できる児童の育成	～子どもたちの学びの意欲と過程を大切に～	考える楽しさを実感できる、学習意欲と学習過程を大切にしたい取り組みのある授業を行い、知識を総合的に活用できる子どもの育成を図る。 研究内容 ①活用力を伸ばす授業についての学習 ②本校児童の実態把握 ・学力調査結果の考察 ・児童の学習に対する意識調査 ③家庭学習の定着のための保護者との連携 ④授業(取り組み方法)の研究 ⑤実践授業(全体研究は低高2授業・部会研究一人一実践) ⑥先進校視察	(国・県)仲間と学ぶ宿泊体験活動
市川三郷町教育委員会	小学校	市川東小学校	思いや考えを豊かに表現できる子どもの育成	「読む力」をつける指導と小規模校の特性を生かした指導を通して	(1)読む力(読解力)を高める授業の研究・実践 ■読む力(読解力)の理論研究 ■読む力(読解力)を高める授業研究 ■読解文指導の系統性の確立 ■研究授業による授業研究 ■事前活動(朝学習)の充実 (2)小規模校の特性を生かした授業の研究・実践 ■小規模校の特性を生かした授業研究 ■研究授業による授業研究 (3)言語環境整備の取り組み	
市川三郷町教育委員会	小学校	六郷小学校	「かわり合って豊かに学ぶ」		授業や授業以外の場すべての活動の場で、「人」「もの」「自分」とかわり合う場を設定し、豊かに成長する子どもの育成を目指して研究を推進していく。学級担任及びなかよし学級担任は、授業提案が実践提案を行う。教務の先生方も、その経験や専門的な見地からの提案を行い、全職員で学び合う校内研究とする。子どもだけでなく、教師自身も学び合う心からたつづける。授業提案・実践提案の他に、特別支援の学習会及びバロン研修・先進校の視察とその適応も行う。	
市川三郷町教育委員会	中学校	三珠中学校	確かな学力を持ち、主体的に活動する生徒の育成	三珠中学校の新しい教育課程の編成を目指して	文科省の「学力向上実践研究推進事業」の指定を受け、今後3年間で生徒に「確かな学力を育む手立て及び、平成24年から中学校で完全実施される新学習指導要領が円滑に進められるよう、本校の教育課程の見直し、検討を行う。具体的には、生徒の学習に関する実態調査及び分析、新学習指導要領のねらい等の理論研究、新教育課程の編成に向けての研究及び年間指導計画の作成、各教科での単元や教材開発、指導法の研究開発、きめ細かな指導体制も含めた、基礎基本の定着を図るための指導法の研究。「生きる力」としての基礎基本を身に付け、さらに伸ばしていく総合学習の研究。学校生活全般をとおして「伝え合う力」を向上していくための研究実践。小学校との教科指導等の人的交流をとおして、中学教育への子どもたちの円滑な対応についての研	(文科省)学力向上実践研究推進事業
市川三郷町教育委員会	中学校	市川中学校	生き生きと意欲的に学び合う生徒の育成		(1)生徒理解と生徒相互の信頼関係にもとづく集団づくり ・このもの現状と心理的理解 ・各学級、学年、全校の課題の把握と指導方法の工夫改善 ・学級集団づくり (2)生徒の意欲を高め、共に学び合う授業づくり ・生徒理解を生かした授業づくりの工夫と実践 ・わかりやすい授業、学習意欲を高める授業の工夫と実践 (3)実態調査、現状把握 ・Q-Uによる調査、分析 ・学習意欲調査 ・学習調査	

市川三郷町教育委員会	中学校	市川南中学校	自ら考え、判断し、主体的に活動できる生徒の育成	～かわり合いの学習指導の工夫～	①「確かな学力」の定着につながる各教科の授業の研究と実践(教科指導研究部)「もののかかわり」「仲間のかかわり」「教師のかかわり」「自己の対話」の等のかかわりの合いの視点をもち、さらにかかわり合いの場面を増やし、かわり合いの場面を広げ、授業実践を行う。また、かわり合いを通しての生徒の発言を検証する。 ②主体的に「たくましく生きる力」を育成するストレス・マネジメント教育の研究と実践(心の教育研究部) ストレス・マネジメントの授業の実践(道徳3時間・学活1時間) 指導案・資料の改訂と整理。	
市川三郷町教育委員会	中学校	六郷中学校	心豊かで意欲的に活動する生徒の育成	基礎的な知識・技能を活用し、思考力・表現力を育てる指導方法の工夫と改善	・各教科の基礎的な知識・技能の明確化 ・活用する力を身につけさせるための授業改善 ・学習活動の振り返りの工夫(学習感想等) ・書く活動を各教科の指導計画に位置付け、共通して取り組める指導方法の工夫 ・ねらいに基づき具体的な指導・評価・支援の工夫 ・特別支援教育推進のための情報交換、理論研究、学習会の実施 ・先進的な学校の研究に学ぶための視察 ・小中の連携を図り、研究と実践の交流の場の設定	
増穂町教育委員会	小学校	増穂小学校	充実感をあじわえる授業の創造	「できた!」「わかった!」を実感できる算数科の学習をとおして	算数科の学習を通して、子どもたちが「できた!」「わかった!」を実感できる授業づくりや教育課程について研究し、目ざす児童像に近づけていく。理論研究及び授業研究を通して、常に適切な教育課程創造に努めていく。総合的な学びとして、伝統的な積み上げのある「地域から共に学ぶ会」のねらいを総合や生活科の中で達成することを旨としている。そこで培った力を生かして、教科学習をも一層充実させていく。あらゆる学習の基礎として、国語力の育成を旨とし、基礎的、基本的な内容の確実な定着をねらっていく。言語環境を整え、学習習慣を身に付けさせる研究を充実させていく。大規模校における授業	H20～22学向上実践研究推進事業
増穂町教育委員会	小学校	増穂西小学校	自らの考えを持ち、伝えることができる子どもの育成	一人ひとりを生かす指導法の工夫	(1)日常生活の中や授業の中で、子ども一人ひとりにスポットを当て、個の実態をかみ、個の姿容をみとる指導を行う。①座席表やカルテで、授業や日常生活における個の姿容をつかんだり、児童チェックリストを活用して特別支援対象の子どもの実態を把握する。②個の実態に応じた指導法や教材教具の工夫を行う。また授業等の中においてお互い意見交流できる場を設定していく③全員が授業研究を行い、その後事後研究会の場を持ち、支援指導の仕方等について今後に生かしていく方法を探る。講師を依頼し、研究を深める。	
増穂町教育委員会	小学校	増穂南小学校	主体的に活動し、共に学び合う子どもを育てる	～自分の考えを伝え合える子どもを育てる～	「主体的に活動し、共に学び合う子」～自分の考えを伝え合える子どもを育てる～という研究テーマを設定して3年目となる。子どもたちは、意図的に直向したときに自分で考え、考へ、考へようとして、積極的に人と関わり、自分の考えを言葉で表現(伝える)したりする力はまだまだ十分とは言えない。本校児童のほとんどは保育所で一歳で入園のため、人間関係の中でもまれることも少ない。また「言わなくてもわかってきているのに」といった相手に期待する気持ちも少なからずある。と同時に保育所から変わらない集団であるが故にお互い遠慮し、なかなか自分を表現できないのではないかと感じるときもある。このような児童の様子をカルテに書き込んできたが、個々の姿容については、まだ十分に把握しきれていない。そこで、安心して自分を表現できる暖かい学級づくりを基礎としながら、「人と積極的に関わり、自己表現する力」を育てることを切り口とし、これを再確認し、かつ見据え、この姿容を見取ることを手だてとして、「主体的に活動する力」に迫っていくと考えた。さらに、多様な意見を児童から引き出すためには、教師の発問の仕方にも工夫が必要である。発問の仕方についても研究を深めたい。また、最終的には「確かな学力を持った子」にしていかなければならない。その一つの過程が自分の思	11月1日「生活習慣病予防等を目指した歯、口の健康づくり調査研究事業」地域公開
増穂町教育委員会	中学校	増穂中学校	「主体的に学び、活動する生徒の育成」	～聴き合い、学び合う授業の創造～	研究内容(柱) (1)教師全員が「協同的な学び」という点に焦点を当てた授業づくりを行う。 (2)授業を通して、「子供を中心に語る」研究会を行う。 (3)「背伸びとジャンプ」をさせる課題づくりの研究研究授業 ①教師全員が年1回以上研究授業を行う。その際、学習指導案は必要としない。ただし、授業の「デザイン」(A41枚)と授業反省会用に「座席表」は用意する。 ②「時間の授業の中に「活動(個人作業)」ii「協同(小グループ活動)」iii「表現(互いに表現し交流して吟味する活動)」の3要素を組み入れる。なお、1時間の授業の中にこの3要素を取り入れる順番は自由とする。 ③研修の方法は、参観の形により「自習体制で臨む」全員参観しての全員研修と空き時間等に一部が参観する一部研修の形態をもうける。また、ビデオの録画(空き時間の先生が参観し、それ以外の先生は録画係が授業を録画したものを見ながら研修する形)によるビデオ研修の形もできるだけ検討していく。 ④全員研修の持ち方は、教師全員が参加する全体研修と学年教師およびその学年に關係する教務部の教師による学年研修の2つの形態をもつづける。	
鎌沢町教育委員会	小学校	鎌沢小学校	生き生きと学び合う授業の創造	「活用力」を高める指導を通して	○学習意欲を向上させるための工夫 ○学び合う学習を促すための工夫 ○国語科「読み」、算数科「数学的な考え方」を向上させるための指導 ○「活用力」を高めるための指導 ○「結果改善のための手引き」を基にした授業づくり ・実践、検証、姿容把握 ○年間指導計画の再編	(国)学力調査の結果に基づく検証改善サイクルの確立に向けた実践研究、(県)「確かな学力」ステップアップ事業
鎌沢町教育委員会	小学校	鎌沢中部小学校	ともに学び、すすんで考える子どもの育成	少人数級で、発問を通して一人ひとりを生かす引き出す指導	鎌沢中部小学校は、全校児童26名の小規模校であり、各学年数名の学級編成のため少人数級から課題がきつて進めない状況である。長所としては児童一人ひとりに目が行き届き、きめこまやかな指導ができる。一方、短所としては、子どもどうしの学び合いが難しいこと、考え方が狭くなり、固定化してしまいがちなこと等がある。そこで、授業がスムーズに流れ、児童の考えがまとまりやすくなり、思考を高めたりすることにつながる。発問に目を向け研究を焦点化していきこう考えた。今年度は、国語科において、発問によって多様な考えを引き出す指導の研究をすすめる。	
鎌沢町教育委員会	小学校	五開小学校	自ら学び考える子どもの育成	自学の力を育む「国語科の授業づくり」	学びを支える国語科の充実(児童の実態把握・分析) 学びを支える国語科の授業実践 自学と国語科との関連性の作成	0
鎌沢町教育委員会	中学校	鎌沢中学校	生徒一人ひとりに学びを保障する授業づくり	活動的で協同的で表現的な学びから、確かな学力を身につけるために	1 教師が授業の意識改革をし、力量を高めたりにするために、教科の研究を中心に「行」。 2 生徒一人ひとりに学びを保障するために、「小グループを活用した」活動的で協同的で表現的な授業づくりを行う。 3 「生徒一人ひとりに学びを保障するために、本校生徒の生活および学力の実態を把握する」。 4 「確かな学力を身につけるために」「小グループを活用した」活動的で協同的で表現的な授業スタイルを使いながら、学向上ステップアッププランの作成・検証をする。	「確かな学力」ステップアップ事業 実践検証校
早川町教育委員会	小学校	早川南小学校	「自ら取り組み、生き生きと活動する児童の育成」	～縦割り集団を生かした体育活動への取り組み～	①体育の学習内容の系統性を明らかにし、低・中・高ブロックの縦割り集団、あるいは全校一斉の縦割り集団を有効に使い、本校の少人数規模の良さを生かした授業作りを研究し実践していく。 ②体力作りにつながる運動量の確保や効率的に学習を進めていける授業を旨とし、研究し実践していく。 ③縦割り集団の中で子どもたちが互いに学び合い、高め合える授業作りを研究し実践していく。 ④体力テストの結果を分析し、体力・健康面における本校の児童の実態を把握し、不十分を補う取り組みを継続している教育の4本柱に、新たに「リレーション」という概念を取り入れることにより、4つの特色ある教育活動が重ねられ、有機的に作用しあい、それぞれの活動お互いが相乗効果を生むことを目指す。具体的には、「リレーション」に関しての理論研究を行い、全職員で共通認識を深める。4本柱については、これまでの活動をさらに深化させるため以下の取り組みを充実させる。○国語科向上部会に関しては、授業実践・教育課程の充実・朝の活動充実(読書・漢字)・全校表現の取り組み(スピーチ・百人一首)○アクトブ部会に関して、スナックゴルフ全国大会出場・水泳協働授業・体力テスト2回実施・エプロン・ウォーキング等実施 ○自治活動部会に関して、北小会議充実・楽しい行事実施・規律・ルールの徹底 ○地域連携部会に関して、「お宝発見」継続(3年目)・学校開放日への参加・協働授業・積極的情報発信(校長通信・HP・ブログ等)の取	
早川町教育委員会	小学校	早川北小学校	「小規模校の特性を生かした『人間力』向上のための実践」	リレーションを中心とした北小教育の創造	1 教科の特性に応じて表現力を高める指導の工夫に迫るために、各教科ごとにテーマを設定し研究を進めていく。 2 生徒同士のかかわり合いのなかで、自己表現力を高めていくために、全校道徳の授業実践の研究を進めていく。 3 全校で総合学習の発表会を行い生徒が実際に表現する機会を設定し研究を進めていく。 4 自発(集会)や学園祭、自画自説などいろいろな場面を発表の場として捉え、表現力以下の研究の柱として研究を推進します。	全国へき地教育研究大会山梨大会 10月17日
早川町教育委員会	中学校	早川中学校	ふるさと早川に誇りを持ち、たくましく生きる生徒の育成	表現力の向上を目指す教育活動を通して	①教科の特性に応じて表現力を高める指導の工夫に迫るために、各教科ごとにテーマを設定し研究を進めていく。 2 生徒同士のかかわり合いのなかで、自己表現力を高めていくために、全校道徳の授業実践の研究を進めていく。 3 全校で総合学習の発表会を行い生徒が実際に表現する機会を設定し研究を進めていく。 4 自発(集会)や学園祭、自画自説などいろいろな場面を発表の場として捉え、表現力以下の研究の柱として研究を推進します。	全国へき地教育研究大会山梨大会 分科会 10月17日
身延町教育委員会	小学校	久那土小学校	「学びの共同体」としての学校をめざして		(1)「学び」を中心とする授業の実践 (2)教育の専門家として育ち合う「同僚性(collegiality)」の形成 (3)保護者の学習参加研究内容は随時研究だより「LIVE 久那土小校内研究」を通して発信していきます。※研究だよりは、南巨摩郡下の小中学校、これまでで研究交流のあった山梨県内外の小中学校、研究機関、個人に配布しています。希望の方は必要部数を久那土小学校までご連絡ください。12月11日に、東京大学大学院教授の佐藤孝先生をお招きしての公開研究会を予定しています。詳しい日程等は研究だよりでお知らせしま	身延町研究センター校 12月11日

身延町教育委員会	小学校	下部小学校	自ら考え主体的に学ぶ児童の育成	～確かな学力を保障するための授業の工夫～ (表現力を高め、かわかりを深めることを通して)	(国語力の基礎・基本の定着への取り組み) ○各学年及びブロックでの「国語力」の基礎基本を実践へ生かしていく。 (教材研究) ○教材の特質と身につかせたい力の明確化 ○交流がふくらむ授業形態 ○理解の学習と表現活動の活性化 (ひとり一人の良さを生かす支援) ○その子なりの考えを作る時間の保障 ○表現する場や機会の確保 (共感的な子どもの理解) (子どもの学びをとらえる評価) ○プロセスとしての自己評価をする場の設定。	
身延町教育委員会	小学校	西嶋小学校	学ぶ意欲を支える指導法や環境づくり～その開発と追求～	大きな研究主題と並行し、懸案である先を見通した。口総合学習プロジェクトのキャリアキュラムづくりを副研究として昨年引き継ぎ実行	研究内容 口理論研究・各自が自分の課題を明確にし、個人テーマ(教科・領域など全ての教育活動を一歩一歩)にそって提案(設定の理由・根拠となる理論・具体的方法・各自の研究計画など)をもとに交流研究会をもつ。口授業研究・日常の実践を公開するとめざし、今年度も一人1回以上の授業公開を積極的に行うと同時に個人研究を共有財産として活用していく。口総合学習プロジェクトのキャリアキュラムづくり・平成23年度新学習指導要領実施を見通す中で、昨年度から総合学習プロジェクトのキャリアキュラムの見直しに着手。大枠概要を作成してきた。今年度は各領域の設定時間数・教材など具体的な作業を進めたい。この数年で行わなければならない要件であり、副研究として校内研の中で全	
身延町教育委員会	小学校	静川小学校	かわかり合いながら、自ら学び、考えようとする子どもの育成	活用する力を育む算数科の授業づくりを通して	(1)児童が互いにかかわり合いながら、自ら学び考えようとするところから算数科の授業を展開することを通して、活用する力を育てる。 (2)児童がわかりやすく、楽しく学べる教材・教具を考え、授業の中にどのように取り入れていくことがよいのかを考える。 (3)児童の学力(CRTの実施と分析)や学ぶ意欲の実態を把握し、児童が学習の中でつまづいている「背景」(チェックリストの利用)を解明し、適切な支援・指導法を講師を招いて研修する。 (4)算数科についての研究を行っている先進校視察を1学期中に実施し、今後の研究会に生かす。	
身延町教育委員会	小学校	原小学校	学ぶ楽しさを感じ、確かな学力を身に付ける子どもの育成	共に学び高め合う算数科の授業を通して	算数科における確かな学力として、本校なりに定義した中で、本年度は「思考力と表現力を育てる」ことに焦点を絞り、研究を進めることにした。そのための手立てとして、具体的に以下の4つに取り組んでいく。 ①「学び合い」を中心とした学習過程で、全学年が授業公開をする。 ②「養育段階に応じた学び合いの姿」を明らかにし、それを目標にする。 ③「学び合いを活性化し、コミュニケーション力を向上させるために、「話し型・聴き型」を提示する。 ④無理なく続けられる形で、「学習感想」を書かせる。	
身延町教育委員会	小学校	下山小学校	主体的に生きる力を育む教育活動の創造	一人ひとりがかわかり合い、学び合う授業づくり	①児童の実態に即したプロジェクト研究の充実 ○一人ひとりの児童、学級全体の実態把握 ○目指す子ども像の設定。具現化のための具体的な手立ての設定。年間計画と変容の把握。○ブロック研究のテーマの設定。研究の重点の設定と焦点化。○テーマにそって授業づくり。 ②「主体的に生きる力」につながる授業をつくる。○「活用型学習」「一人ひとり」「向き合う」「学び合い」をキーワードに、児童を主体とした授業をつくる。○学び方を明確にし、児童一人ひとりの目標設定と学習過程の工夫 ③理論研究 ○「かわかり合い、学び合う授業」「主体的な学び」「新学習指導要領」についての学習 ④臨地研修…身延町教育研修センターの臨地研修に参加する。	(山梨県金融広報委員会)金銭教育研究校
身延町教育委員会	小学校	身延小学校	学びを楽しむ子どもの育成	説明的文章を通して、読む力を高める指導法の研究	主体的に学びを楽しむ児童を育てるために、昨年度の研究成果をもとに、国語科の「読む力」に力を入れて、次のような研究に取り組む。 1 説明的文章を読む力を高めるための系統的な指導の研究 2 読書活動を推進する手立ての研究 3 家庭・地域との連携を推進するための研究	
身延町教育委員会	小学校	豊岡小学校	豊かな人間性の育成をめざす教育	言語活動を通して、自ら学ぶ力を育む授業の創造	今年度は、「自ら学ぶ力を育む授業づくり」を、国語科の三領域一事項で研究していきます。 低・中・高のブロックに分かれ、それぞれの実態に応じて研究の中心をさらに絞り、研究	
身延町教育委員会	小学校	大河内小学校	異文化を知り、進んでコミュニケーションしようとする子どもの育成	英語活動を通して	①英語活動の実践を通しての活動内容の改善 ②カリキュラムの検証と次年度に向けての改善 ③ふり返りカード(児童用)の活用 ④公開研究会に向けての準備 ⑤国際交流会・外国の学校との交流の企画・運営・成果のまとめ ⑥総合教育センター研修に参加し成果をまとめる ⑦先進校視察(英語)にかかわる公開の視察をし、指導改善に役立てる ⑧ALTや学級担任の英語活動における役割分担や関わり方の研究 ⑨基礎・基本の学力定着化に向けての実践 ⑩「生命の教育」の推進 本校は平成19年度から20年度の2年間にわたり、文部科学省の「わくわくイングリッシュ小学校サポート事業」の研究指定校として英語活動について、研究を深めていこうとしている。英語を使ったコミュニケーション活動を楽しみながら、外国の生活や文化に触れ、異なった文化を持った人々と将来にわたって共に生きていこうとする子どもたちを育てたい。外国語を学ぶことはその背景にある文化を知ることであり、ひたひたの国のことと関わりをもつて外国の人たちに語れる子どもたちの育成も課題に掲げ、種も安心して生活できる環境を実現するために、校内研究会を核として日々の授業改善・家庭改革に取り組んでいく中で、多くの時間とエネルギーを注ぎ込んでいる授業を大切にしていく中で、確かな学力を身に付けさせると同時に「仲間作り」にも取り組んでいく。	新わくわくイングリッシュ小学校サポート事業 10月23日
身延町教育委員会	中学校	久那土中学校	学びを中心とした授業の創造	「青伸びとジャンプ」のある授業をいかに創造するか	「青伸びとジャンプ」のある授業をいかに創造するか	自主公開研究会 11月4日
身延町教育委員会	中学校	下部中学校	確かな学力をもつ生徒の育成をめざして	対話を核とした学びづくり	確かな学力の育成には生徒の主体的な学びが重要であるとの認識に立ち、生徒の主体的な学びを促す、あるいは主体的な学びへ導く(学習活動および学習支援のあり方を、「もの」「他者」「自己」との「対話」を核に授業実践を中心に据えて研究を進める。また、主体的な学びの土台となる「基礎・基本」となる力の育成、主体的な学びを支援(支える)環境づくりについては「学校生活・家庭生活」に両面から力を入れて研究を進める。	
身延町教育委員会	中学校	中富中学校	わかる授業・生き生きとした生活の創造	主体的に課題解決に取り組む。確かな学力を身につけようとする生徒の育成	生徒一人ひとりを大切にした教科指導を目指すために、生徒の実態に応じた授業形態を工夫し、実践する。 授業(指導法)の改善のため、学び方の指導のために「学習シラバス」を用いた授業実践を行う。 本校や現在の教育が抱える問題について深く考えられるような研修を行う。	第37回自主公開研究会 11月5日
身延町教育委員会	中学校	下山中学校	「自ら考え、主体的に判断し、行動できる生徒の育成」	自己肯定感を育む教育活動を通して	①学びの共同体に関する理論研究及び先進校公開授業・研究会等への参加。 ②学び合うグループ活動に有効な課題(青伸びとジャンプの課題)と提示の仕方。 ③自己肯定感及び他を尊重する道徳及び特活のあり方。 ④6月と12月にQ-U検査を実施し、学級集団の実態及び変容を把握する。	
身延町教育委員会	中学校	身延中学校	自ら学び意欲的に活動する生徒の育成	確かな学力の向上をめざして	個に応じた学習指導・学び合いについて研究していく。一斉授業の中で、生徒同士が学び合い学習の機会を多く取り入れ、お互いのしつかりとした学力の定着を図っていくとともに、どのように個々に応じた学習指導をしていくかを、授業研究の核とする。教材の開発・指導方法や指導体制の工夫などをすることによって、学ぶ意欲を高め、自己肯定感を高めたい。また、学力の底上げをめざす生徒に対する学習指導と同様に、発展的な学習を必要とする生徒に対しての学習指導も研究していく。また、学年ごとに、体験学習を取り入れたキャリア教育を年間計画に基づいて実践していく。さらに、生き方学習として、生徒の実態にあった「道徳」学習指導を工夫しながら、成果と課題を明らかにし、漢字の読み書きや計算する力を全校でつなげる取り組みを朝の活動を使って行う。具体的には「読書」「漢字の書き取りプリント」「計算プリント(高学年のみ)」である。その上に各教科の中で、子どもが興味を持ち自ら取り組もうとする意欲を育てるための取り組みを、全員が授業公開しながら互いに提案し合う。また、教室や廊下など学習環境を工夫し、語彙を増やし視覚的に言葉の良さを感じ取れる取り組みをしていく。 ○国語科の三領域一事項における「身につける力」の重点化を図り、他教科、他領域と相互関連させながらの指導のあり方 ○「聞く、話す」についての年間指導計画の修正、改善。(個人カルテの補充、深化、指導の見直し、整合性など含む) ○国語力向上に向けた授業実践、日常生活の充実への指導の工夫。 ・受動的な「聞く」から能動的な「聞く」への意識化 ・対教師ではなく、児童同士の意見交換や、「受けて返す」ことの授業。 ・「聞き取る力、受け止める力」「話し、伝え合う力」「相手の良さを認め合う力」を育む日常活動指導の工夫。	文部科学省指定 キャリア推進校
南部町教育委員会	小学校	鎌合小学校	基礎学力を固める教育実践の手立て		漢字の読み書きや計算する力を全校でつなげる取り組みを朝の活動を使って行う。具体的には「読書」「漢字の書き取りプリント」「計算プリント(高学年のみ)」である。その上に各教科の中で、子どもが興味を持ち自ら取り組もうとする意欲を育てるための取り組みを、全員が授業公開しながら互いに提案し合う。また、教室や廊下など学習環境を工夫し、語彙を増やし視覚的に言葉の良さを感じ取れる取り組みをしていく。 ○国語科の三領域一事項における「身につける力」の重点化を図り、他教科、他領域と相互関連させながらの指導のあり方 ○「聞く、話す」についての年間指導計画の修正、改善。(個人カルテの補充、深化、指導の見直し、整合性など含む) ○国語力向上に向けた授業実践、日常生活の充実への指導の工夫。 ・受動的な「聞く」から能動的な「聞く」への意識化 ・対教師ではなく、児童同士の意見交換や、「受けて返す」ことの授業。 ・「聞き取る力、受け止める力」「話し、伝え合う力」「相手の良さを認め合う力」を育む日常活動指導の工夫。	
南部町教育委員会	小学校	栗小学校	互いに学び合い、高め合い、生き生きと活動できる子どもの育成	国語力を育てる学習指導	漢字の読み書きや計算する力を全校でつなげる取り組みを朝の活動を使って行う。具体的には「読書」「漢字の書き取りプリント」「計算プリント(高学年のみ)」である。その上に各教科の中で、子どもが興味を持ち自ら取り組もうとする意欲を育てるための取り組みを、全員が授業公開しながら互いに提案し合う。また、教室や廊下など学習環境を工夫し、語彙を増やし視覚的に言葉の良さを感じ取れる取り組みをしていく。 ○国語科の三領域一事項における「身につける力」の重点化を図り、他教科、他領域と相互関連させながらの指導のあり方 ○「聞く、話す」についての年間指導計画の修正、改善。(個人カルテの補充、深化、指導の見直し、整合性など含む) ○国語力向上に向けた授業実践、日常生活の充実への指導の工夫。 ・受動的な「聞く」から能動的な「聞く」への意識化 ・対教師ではなく、児童同士の意見交換や、「受けて返す」ことの授業。 ・「聞き取る力、受け止める力」「話し、伝え合う力」「相手の良さを認め合う力」を育む日常活動指導の工夫。	
南部町教育委員会	小学校	富河小学校	小中学校の連携を通して心豊かな人間性を育む道徳教育の推進	生命を尊重し、かわかり合い、つながり合える富河の子ども	(1)道徳教育の充実 ①児童の実態をふまえた道徳授業の実践と保護者地域への公開。 ②地域人材や教材を適切に活用した授業実践をすすめる。 (2)小・中学校の連携の確立 ①小・中学校の9年間を見通しての道徳の指導計画の見直し。 ②研究の成果の検証方法を探る。 ③小・中学校の教師間で授業を参観し合い、交流と研究を深める。 ④小・中学校教師間での授業交流。 ⑤小・中学校合同での行事の実施とお互いの行事の中で交流を行う。 ⑥家庭地域と連携した道徳的実践活動の推進 ⑦小・中学校が同じ視点で基本的な生活習慣の育成を行う。 ⑧地域ぐるみでの道徳的実践活動の実施。 (4)公開研究会への参加 ①公開研究会に参加し、巡回報告を行い、研究を深める。	(県)ふるさと山梨道徳教育推進事業 11月6日

南都町教育委員会	小学校	万沢小学校	「自ら学び、自ら考え、自分を表現できる子ども」をめざして	国語科の学習を中心に	「自ら学び、自ら考え、自分を表現できる子ども」というめざす子ども像を描き、その子ども像に迫るために以下の3点を中心に研究を行う。 (1)国語科における児童の実態把握と共通理解 (2)子どもも同じく「日常の取り組みや授業実践」 (3)特別支援教育への理解と実践	
南都町教育委員会	中学校	南都中学校	自ら学び、進んで活動できる生徒の育成	基礎・基本の定着をはかる指導の工夫	○各自の担当教科へ集中できる体制をつくり、基礎・基本の定着と学習意欲の向上に向けての指導法のあり方を探る。 ○具体的な行動目標をたて、実現に向けて手立てを工夫する。 ○学習規律(タイム席、忘れ物、あいさつ等)の徹底をはかる。 ○各ブロック(文系、理系、技能系)とも検証授業を行う。(一人一実践を目指すが、学年の取り組みや学級活動を公開しても良い。) ○毎日、朝の会前の10分間に朝読書や朝の会(帰りの会)の中で一分間スピーチを継続して行う。(義務となる国語力の向上にもつながる) ①小中学校の連携および家庭、地域との連携をとりながら、道徳の授業と道徳的実践活動の充実を図る。 ②総合単元的な道徳の時間のあり方を研究する。 ③日常の道徳の授業の充実を図る。 ④生徒の気づきや主体的活動を取り入れた、自己有用感をもてるような実践活動を行う(ピア・サポートの研究も含む)。 ⑤生徒の実態の調査・研究を行い、道徳の授業や実践活動に反映させる。 ⑥地域教材(人材・体験記など)の開発を行う。 ⑦道徳の親子授業などの研究を行う。 ⑧新学習指導要領への移行を視野に入れ、わかる授業、生徒がやる気をもって主体的に取り組めるような指導法の研究をする。 ①年間2回以上、全員がお互いの授業を観察し合うことで、指導法を深め、指導力を高めたい。 ②新学習指導要領のめざす学力について学習する。 (3)討議づくり等を通して、自治的活動の活性化を図る。 ①主体者意識を高めるための討議づくりを行う。 ②正義を主張できるリーダーの育成と正義が通る集団づくりを実践的に追究する。 ③達成感・充実感を味わえる生徒会活動を行う。 ④モデル学級をもとに、学級づくりを研究する。	
南都町教育委員会	中学校	富河中学校	豊かな心をもち21世紀を主体的に生きる生徒の育成	教科テーマ「わかる授業の実践」と、自ら学ぶ生徒の育成をめざし、学力の向上を図る 自治活動テーマ「集団生活における自治の育成と確立」 道徳テーマ「小中学校の連携を通して心豊かな人間性を培う道徳教育の推進」 ～生命を尊重し、かかわり合い、つながり合える富河の子ども～	①小中学校の9年間を見通しての系統性をもった道徳の指導計画を作成する。 ②総合単元的な道徳の時間のあり方を研究する。 ③日常の道徳の授業の充実を図る。 ④生徒の気づきや主体的活動を取り入れた、自己有用感をもてるような実践活動を行う(ピア・サポートの研究も含む)。 ⑤生徒の実態の調査・研究を行い、道徳の授業や実践活動に反映させる。 ⑥地域教材(人材・体験記など)の開発を行う。 ⑦道徳の親子授業などの研究を行う。 ⑧新学習指導要領への移行を視野に入れ、わかる授業、生徒がやる気をもって主体的に取り組めるような指導法の研究をする。 ①年間2回以上、全員がお互いの授業を観察し合うことで、指導法を深め、指導力を高めたい。 ②新学習指導要領のめざす学力について学習する。 (3)討議づくり等を通して、自治的活動の活性化を図る。 ①主体者意識を高めるための討議づくりを行う。 ②正義を主張できるリーダーの育成と正義が通る集団づくりを実践的に追究する。 ③達成感・充実感を味わえる生徒会活動を行う。 ④モデル学級をもとに、学級づくりを研究する。	ふるさとやまなし道徳教育推進校 11月12日
南都町教育委員会	中学校	万沢中学校	確かな学力を定着させるための研究	主体的に学ぶ姿勢をつくる指導をめざして	一昨年度から、「学びのある学習」を取り入れることにより、「主体的に学習に取り組む、確かな学力を定着させよう」と研究を行ってきた。昨年度の学校評価から、「学びのある授業」は効果的であったが、「学習意欲や学力の向上」、「わかりやすい授業」、「生徒の学ぶ意欲の向上と学習習慣の定着」、「国語力の向上に向けた取り組み」が課題とされ、「キャリア教育の充実を図りつつ、学習の意欲等も把握させる中で、学習習慣の定着を図る指導の活性化を進めたい」というまとめでなされた。そこで、今年度は、学び合いのある授業を成立させるために不可欠な「励まし合い、高め合い、支え合う学級集団」や「自分の考えや思いを表現する力」といった集団やリーダー作り、自己表現力の	
富士吉田市教育委員会	小学校	下吉田第一小学校	意欲的に学ぶ子どもの育成	算数科における「確かな学力」を育む集団づくりを通して	研究主題に関わる「学びの意欲」「確かな学力」「確かな学力を育む集団」について、理論研究をもとに本校のとらえを明確にする。また、集団を把握するQ-Uアンケートを定期的に実施し、K-13法を使って分析・対応・指導の具体的方法について学ぶ。その学びを生かし、学級経営を検討し、計画的な集団づくりを実践し、全体で検討する。さらに、算数科の授業を切り口として、本校の目指す「確かな学力を育む」学級経営・集団づくりの	
富士吉田市教育委員会	小学校	下吉田第二小学校	「伝え合う力」を育むための学習活動の創造	「子ども同士が相互に関わり合う学習」を通して	(1)言語感覚に関する基礎基本の定着 ①話し力を育む読書指導 ②漢字学習の定着・実態に合わせて、目標を設定し取り組む。 ③音読指導・日常的に指導を積み重ねる。 ④聞く態度、話し方の定着 (2)子ども同士が相互に関わり合う学習の理論研究 ①「聞く・話すこと」の理論研究 ②「学び合い」の学習の指導法の研究・指導主事を招聘しての理論研究をする。(子ども同士が関わる場の設定など)・先進校視察、自己研修(研修会への参加) ③「伝え合う力」の実態把握・文献、資料等を参考に理論研究を進める。(研究の検証方法) (3)授業実践・授業実践を通して、主題にせまる。[研究授業の実施]・低・中・高学年で3本の研究授業を行い全体研究会をする。指導案は昨年度と同じ形式にする。 [1人1実践]・主題に関わる授業を学年・ブロック内で公開する。 (4)その他・自主公開授業・教育活動全般で取り組む。[目的]・公開は主体的に行う。・研究主題とは関係なく、日頃の教壇・年間計画の中に全体会で個人の案の実践	
富士吉田市教育委員会	小学校	明見小学校	「国語科における基礎・基本を定着させる指導法の研究」	～「話すこと・聞くこと」の指導を通して伝え合う力の育成～	(1)国語科における「話すこと・聞くこと」の基礎・基本の理論研究と共通理解を行い、指導法の研究を行う。 指導主事の先生を招聘して、学習会を行う。 (2)国語科以外の教科や他の教育活動においても「話すこと・聞くこと」に関わる継続した取り組みを学年の実態に応じて行う。 (3)低・高ブロックで1回ずつ研究授業を行う。 ・1学期に1回、2学期に2回行う。 ・3回の研究授業は、全員で参観し全体研究会を開く。 ・2学期の研究授業の1回は、指導主事の先生を招聘する。	
富士吉田市教育委員会	小学校	吉田小学校	自ら学び、考え「生きる力」を獲得する児童の育成	人間関係を深める学級づくりを通して	研究仮説として「教育活動全体において、児童の実態を把握して学級づくりを進め、指導の工夫や改善を行ったならば、学ぶ意欲が高まり、「生きる力」ははくむことができるであろう。」を設定した。基本的な研究は、学年ごとに行う。まず、Q-U調査をもとにしてクラス全体と個々の児童の実態を把握し、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどを用いて、お互いを思いやり、認め合える学級づくりを進めていく。それらあわせて、このような方向に取り組んでいる学級において、授業の中で指導の工夫や改善を行っている。学ぶ意欲の高まりを例による観察法や、児童の学習意欲などによって検証していく。研究授業については、低・中・高学年各ブロックで1つずつ行い、全員で参観する。また、10月を授業公開月間として、一人1実践を見せ合う機会を設	
富士吉田市教育委員会	小学校	吉田西小学校	児童の「生きる力」の育成をめざして	国語や算数を通して「書く力」を養うための日常的な授業の工夫	「書く力」の育成を研究の重点の一つとして位置づけ、国語や算数での取り組みについて研究を推進していく。 ・日常的に取り組むことができ、自分の考えを書くことができるような具体的な手立てで行って研究を推進していく。	
富士吉田市教育委員会	小学校	富士小学校	豊かな心をもち子どもを育成をめざして	生命や生き方について考える道徳教育の工夫を通して	研究仮説「道徳教育において、生命や生き方について考える機会を増やし、道徳的価値を子どもの中に響かせる指導の工夫をすることにより、豊かな心をもつ子どもを育てることができよう」と。もとに、以下の内容で研究を進める。 ①子どもたちの実態にあった指導法の研究を行う。またあわせて道徳教育と教科等の関連についても研究を深める。 ②道徳教育全体計画、年間指導計画に基づく授業実践及び新学習指導要領に基づいた計画の修正を行う。 ③学習過程や学習形態の工夫や、子どもたちの実態にあった教材や資料の開発に取り組み、道徳の授業を行う。 ④豊かな心をはくむ教室環境・学校環境のあり方について検討し、整備していく。	
富士吉田市教育委員会	小学校	下吉田東小学校	「確かな学力」の向上をめざして	算数科における指導の工夫	「子どもの意欲を高められるような指導法を工夫することにより、基礎的な力の定着が図られ、確かな学力が向上するであろう」と研究仮説を立てた。昨年度の児童の様子から、算数科における基礎学力の個人差が大きい。そのため、十分に基礎的な力がつきにくく、新しい課題に対して長通しが待てず、次第に意欲が低下して行く。そこで、今年度は算数科における学習意欲を高められるような指導法を研究していく。また、朝学習の時間を使い、組織的・計画的に基礎学力をつけられるような取り組みをしていく。基礎学力の確実な定着を図りながら、日々の授業実践において基礎的な力を向上し、「確かな学	
富士吉田市教育委員会	中学校	下吉田中学校	「自ら学び、考え、活動する生徒の育成」	ライフスキル教育を活用した学級集団づくり	①ライフスキル教育の理解と研修を進める。・ライフスキル教育に関する校内研修会の実施。・ワークショップへの参加・講師を招き先進校の実践から学ぶ。・指導案の検討、改善を図る。・研究授業等の実施。 ②日常生活においての、学級組織の仕組みや活動方法の改善を通しての学級集団づくり。・一人ひとりが大切にされ、居場所のある学級集団づくりを目指す。・グループ活動の工夫。・自治活動の活性化。 ③講師を招聘しての学級づくりについての学習会の実施。・経験や実践のある先生から学ぶ。 ④学級満足度調査Q-U検査の持つ意味と意義の理解。・Q-U検査の実施・分析・評定(4つ)の柱で研究を進めていくこととし、各学年・教務の担当により、レポート実践発表、またはクラスの活動公開を行うことで研究を深める。 ①話し合い活動の充実についてレポート提案・話し合い活動への関わり ②学級集団づくりを目指した日常の学級活動公開。朝、帰りの会・係活動・清掃・給食指導における生徒相互の関わり合いの保証。 ③行事・給食への取り組みを通じた個人、集団の成長について、レポート提案。行事への支援として入れ、総括・評価などそれぞれの手段で、リーダーの成長等 ④学習活動についての提案授業公開学習規律や集中の手立て・作業の手順・約束事等による活性化。そのほか合唱や学園祭学級発表など行事を通しての取り組みを情報交換して学びあう。	
富士吉田市教育委員会	中学校	明見中学校	子どもの現実をもとに、行為・行動をつくり出す学級集団づくり	日々実践される集団活動を通して	①話し合い活動の充実についてレポート提案・話し合い活動への関わり ②学級集団づくりを目指した日常の学級活動公開。朝、帰りの会・係活動・清掃・給食指導における生徒相互の関わり合いの保証。 ③行事・給食への取り組みを通じた個人、集団の成長について、レポート提案。行事への支援として入れ、総括・評価などそれぞれの手段で、リーダーの成長等 ④学習活動についての提案授業公開学習規律や集中の手立て・作業の手順・約束事等による活性化。そのほか合唱や学園祭学級発表など行事を通しての取り組みを情報交換して学びあう。	
富士吉田市教育委員会	中学校	吉田中学校	居心地が良く、やる気のある学級集団づくり	規律づくりとリレーションづくりの実践を通して	実践は、学級集団・個人の分析を基にし、生徒の姿容を観察・面接・調査の3方向から科学的に分析していく。成果があった実践事例を積み上げ、できる人を全職員のものにしたが、生徒や保護者の要求に高い次元で答える学校づくりをしていく。そのために①Q-U・学級集団づくり(自治活動)の基礎基本・原理原則を学ぶ②実践を通して得た成功事例を共有財産とする。実践リポートから学ぶ。各学年モデルクラスを一つつくる③他校の成功事例や外部講師を招聘し、実践の幅を広げる。といった方法をとる。	

富士吉田市教育委員会	中学校	富士見台中学校	生き生きと学びに向かう生徒の育成	「かわり」のある授業づくりを通して	各教科、学活、道徳、総合的な学習の時間の授業において、意欲的に学びに向かう生徒の育成をめざし、「かわり」を組み込むことを意識した授業づくりを行う。 ①先行実践やそのもとにある理論を研究する。 ②全職員が学習者となる。 ③教科や生徒の実態に応じた「かわり」を授業の中に組み入れる。 ④教職員が互いに高め合う授業研究会を行う。	
都留市教育委員会	小学校	谷村第一小学校	『豊かな心をもつ児童の育成をめざして』	～「聞く」ことを大切に話し合い活動を取り入れた学級経営を通して～	①児童の実態調査。 ②「聞く」ことについての学習やエクササイズの見直しと実践。 ③「話し合い活動」に関係ある学習会や研修会への参加。 ④互いを尊重し合う「話し合い活動」の授業研。 ⑤本校職員個人研究の紹介。 ⑥外部講師の招請や外部機関との連携。	
都留市教育委員会	小学校	谷村第二小学校	「勉強って楽しい!」「もっと勉強したい!!」子どもたちの喜びの声が聞こえる授業の創造 ～コミュニケーション能力を高めるための国語科の学習を通して		昨年度までの研究を受け、引き続き「コミュニケーション能力」の育成にポイントを絞り取り組んでいく。今年度のめざす学校像に照らし「学び合い」に焦点をあて、「話し合い活動」によって、「コミュニケーション能力」を高めていく研究を行っていく。「話し合い活動」において、相手の考えを進んで受け入れようとする態度や、相手を意識した表現方法を身につけさせていく手だてを考えあてていく。子どもたちが自分なりの考えを「相手」を意識してわかりやすく表現する力。また、適切な表現方法を自ら思考・判断して表現できる力の育成をめざす。そのために、各ブロックで身につけさせたい「伝え合う力」を洗い出しを行う。また、相手を意識した学習形態の学習も併せて行い、各ブロックで一つの研究授業、また、一つの授業実践を行う。(一人一実践)先進校の視察も積極的に進めていく。一年の最終に研究の成果と課題をまとめ、 1 PISA型読解力について理解を深める。 (都留文科大学より講師を招聘する。 2 児童の実態に応じた具体的な到達目標を設定する。 (昨年度実施のNRTテストを参考にする。) 3 授業形態や教材、指導方法を工夫する。 4 授業実践を通して、仮説を検証する。 5 都留文科大学との連携を図ると共に、SATの学生を活用した授業を行う。	
都留市教育委員会	小学校	都留文科大学附属小学校	国語科における読解力の育成		①学習指導要領改訂に向けての学習及び資料収集。 ②前年度から3カ年計画の継続研究。話すこと・聞くことを中心に伝え合う力を身に付けさせる。新学習指導要領の理念に迫れるよう研究を深める。(1年次)自分で気づいて、自分の言葉で伝えられる子…(19年度)(2年次)話す・聞くの相互作用を繰り返して小規模の対話ができる子…(本年度)(3年次)考えを伝え合い、つなげて、深め合える子 昨年の研究で「はつきり伝える」という点では、成果が見られた。今年度は「伝え合う」という点に焦点を絞り、小規模の対話ができる子を育てよう研究を深めていく。また、教師も様々な授業の形態や指導方法を学び合えるよう、実践発表を通して多くの授業を見せ合い、授業後の話し合いを充実させて研究が深まるよう進めていく。	
都留市教育委員会	小学校	東柱小学校	自ら学ぶ子どもの育成	「読む力」を高めるための指導の工夫を通して	(1)児童の実態を、NRT検査、意識調査等で明らかにする。 (2)理論研究を行い、「国語力」「基礎・基本」「学び方」学習を深める。 (3)東柱小学校として身に付けたい「国語力」を明らかにする。 (4)学年、ブロック、学校全体の「目指す子ども像」について明らかにする。 (5)「読む力」を身に付けさせるための文学的文章の指導の方法(学び方のスタイル)を考える。 (6)「国語力(読む力)」を身に付けていくための日常の取り組みについて考える。 (7)各ブロックで授業研究を行う。(8)講師を招いたり、公開研究会や研修に積極的に参加したりして研修を深める。公開研究会や研修に参加した場合は、全体会において環流	
都留市教育委員会	小学校	宝小学校	伝え合う力(自己表現力)を身につけ、考えを深め合う児童の育成 (3年次計画の2年次)	話す・聞くの相互作用を繰り返して小規模の対話ができる子	①学習指導要領改訂に向けての学習及び資料収集。 ②前年度から3カ年計画の継続研究。話すこと・聞くことを中心に伝え合う力を身に付けさせる。新学習指導要領の理念に迫れるよう研究を深める。(1年次)自分で気づいて、自分の言葉で伝えられる子…(19年度)(2年次)話す・聞くの相互作用を繰り返して小規模の対話ができる子…(本年度)(3年次)考えを伝え合い、つなげて、深め合える子 昨年の研究で「はつきり伝える」という点では、成果が見られた。今年度は「伝え合う」という点に焦点を絞り、小規模の対話ができる子を育てよう研究を深めていく。また、教師も様々な授業の形態や指導方法を学び合えるよう、実践発表を通して多くの授業を見せ合い、授業後の話し合いを充実させて研究が深まるよう進めていく。	
都留市教育委員会	小学校	末生第一小学校	生き生きと学び合う子どもの育成	一「国語科における表現力を高める手だてを通して」	昨年度、本校では学び合いについて研究してきた。本年度も昨年度の学び合いを生かしつつ、国語科の表現力に研究対象を絞って研究を行う。また、「英語教育」「すこやか」「情報教育」という3つの部会でもそれぞれに設定した課題を追求していく。 (1)「学び合い」と表現力を高める手だての共通理解を図る。 (2)本校児童の実態に応じた具体的な到達目標を設定する。 (3)具体的な教材・指導方法を工夫する。 (4)授業実践をする。(各ブロックで1つ研究授業を行う。) (5)3つの部会ごとに決めた課題を追求し、他の部会に伝え合う。	
都留市教育委員会	小学校	末生第二小学校	自ら学ぶ児童の育成をめざして	書く力を伸ばす授業の創造	研究内容については、一つ目として、指導主事を招聘して書く力についての理論研究をする。書く力とは具体的にどのような力か、また、書く力と国語力との関連等について指導していただく。また、論理的に文章を書く力が高まる国語科の指導法や実践例、また、書く力を伸ばす日常的な指導についても指導をしていただく。二つ目として、書く力に関わる本校の児童の実態を明らかにし、課題を明確にし、目指すべき指導像を明確にする。また、それを受けて、各学年の系統的な書くことに関わる具体的な目標を設定すること。三つ目として、書く力を伸ばす国語科の指導の工夫について、授業実践を中心としながら研究していく。具体的には、自分の意見や考えを正確に伝える論理的な文章を書く力を伸ばす指導の工夫や手だてについて研究を進めていく。こうした内容を、低学年と高学年の二つのブロックを設け、ブロック研究や全体研究を適宜組み合わせることで研究して	
都留市教育委員会	小学校	旭小学校	読解力を育てる授業の創造	説明文の指導を通して	学校教育目標の具現化、そして昨年度までの研究の成果と課題や今日の教育課題等をふまえて、今年度のテーマ・サブテーマを決定した。昨年度からの継続研究として今年度も、国語科において、「説明文の読解」に焦点を当て、テーマにせまっていきたいと考える。内容として、①国語科の説明文の指導に関する理論研究。 ②授業研究。 ③読者の視察。以上の3項目を主な研究内容とする。	
都留市教育委員会	中学校	都留第一中学校	自ら考え、たくましく生きる生徒の育成	道徳教育を通して	1 外部講師による研究授業の全学年による実施 2 日常の道徳教育活動の実践発表 3 年間指導計画の見直しを柱とし、1では、昨年度までの取り組みの継続で、地域の方々や保護者、また、異校種の先生方などに積極的に参観を呼びかけ、教師、地域、保護者3者一体となり、生徒を成長させていく。2については、様々な場面で行われる道徳教育を、様々な角度から発表し合い、学びの場とする。また、その際の授業に関する資料は、項目ごとに管理し、これからの研究の共有財産にしていく。3については、新たな資料収集により、内容、質問時期などを再検討し、よりよいものにしていく。以上のよう 生徒が、Q～Uによる満足度を上げ、所属感や連帯感を持って学校生活を送ることができるよう、各教科分野を連携させ、自らの教育活動の質とレベルをさらに高められるように、時期に応じたタイムリーな教育実践を研究する。 ①Q～Uの意義理解。 ②Q～Uの実施・分析・評価・教育実践。 ③授業、学習指導、学級経営、特別活動、生徒指導等のあり方。	
都留市教育委員会	中学校	都留第二中学校	生徒の生きる力を育む、保護者や地域から信用・信頼される、特色ある学校づくり	Q～Uの実施・分析・評価に基づいた「教育力の創造」(学校文化の創造)を通して	学級経営において、中心的な活動である班、リーダー、討議づくりを中心に、実践的なレポートを用いて、その時期に合わせた内容について研究する。 ・年度初めの学級づくりについて ・行事に向けての学級の取り組みについて ・朝読書、給食、清掃など日々の活動の指導について ・個別指導に依る教育相談について(SCや外部講師を招いて) ・キャリア教育推進について	特になし。
都留市教育委員会	中学校	東柱中学校	集団の一員として自ら考え、意欲的に活動する生徒の育成	集団の一員として自ら考え、意欲的に活動する生徒の育成	学級経営において、中心的な活動である班、リーダー、討議づくりを中心に、実践的なレポートを用いて、その時期に合わせた内容について研究する。 ・年度初めの学級づくりについて ・行事に向けての学級の取り組みについて ・朝読書、給食、清掃など日々の活動の指導について ・個別指導に依る教育相談について(SCや外部講師を招いて) ・キャリア教育推進について	キャリア教育推進校
道志村教育委員会	小学校	道志小学校	確かな学力を育む学習活動の研究	～国語科「読むこと」の指導を通して～	(1)国語科「読むこと」の理論研究 ○文献、資料を参考にした理論研究。 ○指導主事をお招きしての学習会による理論研究。 ○NRTの分析と「読むこと」に関する実態調査。 ○公開研究会や研修への積極的な参加。併せて、全体会における環流報告。 (2)授業研究 ○年間学習指導計画に沿った授業実践。 ○理論研究を基にした、読解力を高める手立ての構築。 ○授業実践を通しての仮説の検証 ○授業公開は、低中高学年ブロックごとに一実践。 (3)日常での取り組み。 ○七里っこタイムでの取り組み。 ○読書活動に関連した取り組み。	
道志村教育委員会	小学校	道志中学校	自主性を高め、進んで学習する生徒の育成 ～思考力・表現力が育つ国語科指導と集団づくり～		研究内容 (1)教科指導の研究・授業展開、教材、発問、評価の工夫 (2)集団づくり ・思考場面、表現活動の場の設定と評価 研究方法 (1)教科指導の研究・研究計画、実践(研究授業)、検証・授業見学・指導主事の招聘による研究の充実・指導案検討、検証 (2)集団づくり ・指導計画・過程・評価の検証 (3)先進校の視察 ・他校の優れた実践からの学び・1人1校視察、後日報告 (4)小学校との連携 ・道志小学校の授業観察	
西桂町教育委員会	小学校	西桂小学校	ゆたかな人間性が育つ国語教育の研究	意味マップを使って「言葉の力」を高める	過去四年間の研究をベースにさらなるステップアップを目指し、国語科の「読む・書く・話す・聞く」活動において「意味マップ」を使って「言葉の力」をはぐくんできて、「話し合い活動」を使い「言葉の力」を作り出して経験を重ねることは、子どもたちの言葉の世界を拡充し、「言葉」による認識の世界を広めることにつながり、身について「ゆたかな学力」「豊かな人間性」の一部を形成していくと考えた。マッピングは、現在はフランスの教育の一手法としても知られるようになり、新学習指導要領やPISAの求める学力を身に付けさせるためにも有効であり、「意味マップ」を使ったさらなる研究実践を重ねていく価値がある	
西桂町教育委員会	中学校	西桂中学校	生き生きと意欲的に学び合う生徒の育成	助け合い学習を視点にして	1 学級内の「小グループ」による助け合い学習(集団づくり)についての研究。 2 各教科の指導において、場面やねらいに応じた「小グループ」による助け合い学習の有効性を研究。	

忍野村教育委員会	小学校	忍野小学校	かわりあい 認めあい 高めあう 忍野の子	一人一人の「確かな学力」の向上をめざして	教育の今日的課題である「児童一人一人の『確かな学力』の定着・向上を図り、よさや可能性を伸ばすこと」をめざし、具体的・効果的な取り組みの実現化を図る。 (1)「学力・学習状況把握」(生活実態調査)「学びの環境調査」等、実態把握(経年比較)・教育課題の明確化・改善策の作成 (2)「学びの場」にふさわしい学級集団の育成「新学習指導要領の趣旨を踏まえ活用力を育てる国語科の授業・算数科の授業」等、教育課題解決と授業改善に向けた理論研究 (3)実践研究 ①改善プランを生かした授業づくり「授業改善の取り組み～学び合う力を高め、真に学ぶ楽しさが感じられる授業をめざす～」 ②基礎・基本の定着「朝学習の充実」「学習規律の確立」 ③学びの環境整備・充実 ④家庭との連携「よい生活習慣や学習習慣の確立」(①は仮説を設定し検証する。②～④は目標を設定し取り組む。)	(国)全国学力・学習状況調査等を活用した学校改善の推進に係る実践研究(県)確かな学力ステップアップ事業 11月19日(近隣の学校のみ公開)
忍野村教育委員会	中学校	忍野中学校	自ら学び、主体的に活動する生徒の育成～学びの意欲を高めるための指導法の工夫		研究内容 ①各教科の指導において、生徒が意欲的に取り組むための工夫された授業の導入の有効性を明らかにする。 ②各教科の指導において、場面や目的に応じた学習集団の形態の工夫(個、グループ、一斉)の有効性を明らかにする。 ③一人一実践で、研究主題に沿った授業案を作成する。 研究方法 ・学年単位での研究を中心に据え、学年内授業公開等しながら研究を行っていく。 ・学年研究部でそれぞれ一つの研究授業を行い、全体で観点を定めながら同じ授業を見て研究を深めていく。また、初任者研修とも絡め、全教員で研修を行っていく。 ・一人一実践で、指導案を作成する。(その中のいくつかが研究授業) ・講師の先生を受えながら、特別支援の生徒への対応や、その特性、促進学級などでの有効な指導法について学ぶ。	
山中湖村教育委員会	小学校	山中小学校	共に学び合い、心豊かに生きる子どもの育成	「人・モノ・お金を大切に、働くことを尊ぶ」心の学習や実践を通して	「人・モノ・お金を大切に、働くことを尊ぶ」心・金銭教育について学習する。 「人・モノ・お金を大切に、働くことを尊ぶ」心に関わる児童、保護者への実態調査を平成19・20年度 金銭教育研究校	
山中湖村教育委員会	小学校	東小学校	自ら学び、自ら考え、生き生きと表現する子どもの育成	文学的文章の読みを通して表現力を高める指導の工夫	(1)文学的文章の読みについて (2)言語環境を整えることと日常活動の工夫について (3)表現力を高めるための自己評価や相互評価 (4)新学習指導要領について (5)授業研究、仮説の検証	
山中湖村教育委員会	中学校	山中湖中学校	主体的に生きる生徒の育成	～仲間と共に高め合う集団活動を通して～	研究目標は「学校・学年・学級という集団づくりを通して、「主体的に生きる」生徒の育成をめざす」である。研究は、(1)主題に迫るために、「学級経営」を柱として、学級づくりについて学び合う。(2)人間性豊かな生徒の育成を図るために、「道徳教育」について学び合う。(3)日常生活行事を通して「自治活動」から集団づくりを学び合う。(4)外部講師を招くなどの研修を随時行っていく。かつ基本方針として取り上げ、進めていく。研究の仮説として、(仮説1)学級経営の方法、集団づくりの工夫を固めれば、授業規律や集団のルールが確立され、学力向上につながるのではない。(学級・学年集団)(仮説2)道徳の授業方法を学び、高めることができれば、いいものを感じることできる(価値観)人間性豊かな生徒の育成が図れるのではない。(学級・学年集団)(仮説3)自治活動への取り組みを計画、実践、検証が行われるならば、主体的に生きる生徒の育成が図れるのではない。(学校集団)の3点を上げ、検証していく。研究組織としては、校内に研究推進委員会を設け、6人(校長、教頭、教務主任、研究主任、2年、3年の中から一人ずつ)研究推進委員によって、現状分析が行われ、研究目標に基づいた校内研が行われ、各教科において、学習の意欲化を図り、「数学的な考え方を育む指導法を工夫すれば、確かな学力の向上に結びつき、生き生きと学ぶ児童を育成できよう」という研究仮説をたて、一人一実践の授業研究を行う。授業づくりについては、「学習過程の工夫・教材教具の工夫・算数的活動の充実・評価活動の工夫に重点をおき、「数学的な考え方の」見通しをもち筋道を立てて考える」ことができる児童の育成を目指していく。また、講師や文献から理論研究を行い、先進校の視察研修も行う。	
鳴沢村教育委員会	小学校	鳴沢小学校	確かな学力を身に付け、生き生きと学ぶ児童の育成	算数科において、思考力・表現力をはぐくむ指導法の研究	算数科において、思考力・表現力をはぐくむ指導法の研究 ①基礎的・基本的内容の定着のための指導方法の改善を行う。 ②TT指導・少人数指導等学習形態の工夫を行う。 ③ドリル・教材の充実を図る。 ④家庭との連携により、家庭学習の習慣化を図る。 ⑤学習意欲の向上のための指導法の改善を行う。 ⑥課題に対する子どもの多様な考えを授業に生かすために、問題解決的な学習を取り入れる。 ⑦丸つけや言葉かけ、ヒントカードによる支援、ノート指導(学習感想等)について実践を進める。 ⑧授業実践による仮説の検証を行う。 ⑨アンケート調査や学力検査を実施し、児童の実態の推移を探る。 ⑩学級集団づくり 学級集団づくりのための研修に参加し、お互いに認め合い支え合える人間関係を築くための学びを行う。	
富士河口湖町教育委員会	小学校	船津小学校	自ら生き生きと学ぶ子どもの育成	児童の学習意欲を高める指導方法の研究	①基礎的・基本的内容の定着のための指導方法の改善を行う。 ②TT指導・少人数指導等学習形態の工夫を行う。 ③ドリル・教材の充実を図る。 ④家庭との連携により、家庭学習の習慣化を図る。 ⑤学習意欲の向上のための指導法の改善を行う。 ⑥課題に対する子どもの多様な考えを授業に生かすために、問題解決的な学習を取り入れる。 ⑦丸つけや言葉かけ、ヒントカードによる支援、ノート指導(学習感想等)について実践を進める。 ⑧授業実践による仮説の検証を行う。 ⑨アンケート調査や学力検査を実施し、児童の実態の推移を探る。 ⑩学級集団づくり 学級集団づくりのための研修に参加し、お互いに認め合い支え合える人間関係を築くための学びを行う。	
富士河口湖町教育委員会	小学校	小立小学校	子どもたちの確かな学力を向上させるための研究	国語科を通して豊かな表現力を高める「書くこと」指導の研究	①本校児童の「書く力」について実態を把握し、めざす子どもの姿を明らかにしていく。 ②「書く力」についての理論研究を行い、共通理解を図る。(講師を招請する) ③「書く力」を高める教材研究を行い、指導方法を工夫する。 ④授業で検証を行う。 ⑤日常生活の中でも「書く」活動を多く取り入れ、指導の充実を図る。	
富士河口湖町教育委員会	小学校	大石小学校	3校共通研究主題人としての生き方を考え、よりよく行動しようとする児童生徒の育成	3校共通副主題集団や社会の一員としての自覚を養う豊かな体験活動を通して本校研究主題「家庭・地域と連携した多様な道徳教育活動の工夫」	①教育課程について ・全教育課程との関連及び小中学校での連携、交流を考慮した道徳教育全体計画の見直し ・道徳年間指導計画の見直し ②授業実践について ・実態調査を行い、本校児童に望む道徳性を確認する。 ・授業参観で、地域や保護者を巻き込んだ授業を行う。 ③児童会を中心とした活動(花いっぱい運動、あいさつ運動、お年寄りとのふれあい) ④家庭・地域と連携した活動 ・道徳の授業の公開、健康寝起き立っての実施、保護者や地域の方の教育活動への参	(国)平成20・21年度道徳教育実践研究事業(県)小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業10月27日
富士河口湖町教育委員会	小学校	河口小学校	北岸3校共通研究主題「人としての生き方を考え、よりよく行動しようとする児童生徒の育成」	北岸3校共通研究副主題「集団や社会の一員としての自覚を養う豊かな体験活動を通して」本校研究主題「多様な体験活動とつながった道徳の時間の工夫」	①児童生徒・保護者の道徳的な実態把握 ②全教育課程との関連および小中学校での連携、交流活動を考慮した道徳教育全体計画の見直し ③9年間を見通した道徳年間指導計画の見直し ④小中学校や家庭・地域と連携した、集団や社会の一員としての自覚を養うような豊かな体験活動の実施 ⑤保護者や地域住民が参加したり、体験活動とつながりをもたせたりした道徳の授業の工夫 ⑥道徳教育についての理論研究 ⑦研究授業による仮説の検証 ⑧研究の成果のまとめ	(国)道徳教育実践研究事業(県)小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業
富士河口湖町教育委員会	小学校	勝山小学校	自ら学ぶ児童の育成	～算数科における表現力を育てる授業づくり～	①理論研究・本校の研究経過、今日的課題、児童の実態から「伝えあう力、算数科における表現力」を中心に研究する。 ②児童の実態調査・自問の授業観察、単元ごとの評価、意識調査から行う。 ③授業研究「算数科における表現力」を身に付けて「自ら学ぶ児童」を育てる授業を研究主題「心豊かで生き生きと主体的に活動する子どもの育成」を元に、昨年度は副主題を「コミュニケーション能力の育成を目指して」として、全職員が、それぞれの「めざす子ども像」を明らかにしながら、授業実践を通じた研究を行った。今年度は副主題を「コミュニケーション能力の育成」とした(昨年度から一部削除)。そして、各教科・領域(すべての教育活動)のどの場面でもどのような手だてを仕組んでいくことがコミュニケーション能力の育成のためにより効果的であるかを実践をとおして研究していく。また、「子どもたちのコミュニケーションが、より自然な形で活発に行われる」ための手だてについても研究を深め、昨年度までの「考える力・表現する力」の研究から、表現する力(書く力)に焦点を絞り、研究を継続していく。	
富士河口湖町教育委員会	小学校	西浜小学校	心豊かで生き生きと主体的に活動する子どもの育成	コミュニケーション能力の育成	①理論研究 主題、サブテーマについて学習会を行い、共通理解を図る。 ②児童の実態把握と目指す子ども像の設定 ③実践研究 ・児童の実態把握、目指す子ども像を受けて、各学年で具体的な仮説を設定する。 ・授業実践をして仮説を検証していく。(一人一実践) ④研究の深化・発展 ・研究に必要な資料の整える ・自己研修、先進校視察、公開授業参加などを積極的に行う。	
富士河口湖町教育委員会	小学校	大嵐小学校	自ら考え 自ら実践できる 大嵐っ子の育成	表現力(書く力)の育成をめざして	①理論研究 主題、サブテーマについて学習会を行い、共通理解を図る。 ②児童の実態把握と目指す子ども像の設定 ③実践研究 ・児童の実態把握、目指す子ども像を受けて、各学年で具体的な仮説を設定する。 ・授業実践をして仮説を検証していく。(一人一実践) ④研究の深化・発展 ・研究に必要な資料の整える ・自己研修、先進校視察、公開授業参加などを積極的に行う。	
富士河口湖町教育委員会	小学校	精進小学校	自ら考え 生き生きと学び合う児童の育成	伝え合う力の指導を通して	(1)「伝え合う力」についての理論研究を行い、共通理解を図る。 ・指導主事、講師を招いての研修 ・国語科「話す」「聞く」活動についての学習指導要領の目標、内容の確認 (2)授業で検証を行う。 (3)日常生活の中で、「話すこと」「聞くこと」に関わる活動を意図的に仕組み、指導の充実を図る。 (4)長期休業を利用して、随地研修を行う。	

富士河口湖町教育委員会	小学校	富士豊茂小学校	生き生きと学び合う子ども	互いの立場や考えを尊重し、言葉で伝え合う子どもを育成をめざして	各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間を通して、言葉で伝え合う力が育まれるよう指導を行っている。具体的なことは以下のことを行う。 ・話すこと、聞くことの理論研究 ・伝え合う力を高めるための実践（スピーチ、集会等）の検討 ・一人一人実践を目標とした授業実践 ・講師を招請しての理論・指導技術の研修	全国へき地教育研究会 公開日10月17日
富士河口湖町教育委員会	中学校	河口湖北中学校	「人としての生き方を考え、よりよく行動していこうとする生徒の育成を目標として」	～地域・小学校との連携をふまえた道徳授業と道徳的実践活動の工夫を通して～ ①道徳性に関する実態把握及び経年比較の研究のために、昨年度実施した子ども、保護者向けアンケートを今年度も実施し、分析を通して道徳性に関する実態や変化、課題などを明らかにする。 ②全学級活動と道徳の関連を明らかにし、生徒の生活に関わる諸活動の中に道徳教育の機会を見出し、授業の工夫をする。 ③小学校や地域との関連を考慮して道徳教育を考え、地域の人材や地域教材を活用した授業を工夫する。 ④先立校視察や指導主事を招いた学習会を行い、道徳教育についての理論的研究を深める。 ⑤研究授業を行い仮説を検証する。相互に授業を見る機会を設定し、お互いの実践から学ぶ。 ⑥本中学校区3校で、生徒・保護者・地域の方々対象の「心の講演会」を企画し、道徳事業の推進に役立てる。また、本校独自に講演者を招く機会には可能な限り地域にも場を	文科省「道徳教育実践研究事業（H20.21） 山梨県：小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業	
富士河口湖町教育委員会	中学校	勝山中学校	集団との関わりの中で思いやりのある生徒の育成	集団づくりの柱として、行事（自然教室、学園祭、三年生を送る会）を通して、集団や組織の役割を明らかにすることにより、行事を「集団づくり」の機会として捉える。また、行事に向かう姿勢を作るための手段として、日々の学級活動から、リーダーが主体的に行動して、また個人の生徒が自分の役割を把握して、その役割を果たせる集団づくりを目指す。日々の学級の中で「集団づくり」を基礎として、その取り組みを行事に反映させて、行事における集団づくりを通して、行事への達成感や集団に対する帰属感を育み、思いやりの	【研究仮説】 各教科・総合的な学習の時間、すべての日常活動において小規模校の特性を生かし、個々の生徒の実態にあった学習方法の工夫や支援を充実させれば、生徒に「ことばの力（語彙力、思考力・判断力・表現力）を身につけさせることができ、いはいは 確かな学力の向上と生徒自らが個性を生かし、未来を主体的に切り開いていくことにつながる」ことができるであろう。 (1) 生徒の学習状況と言語環境の実態をもとに、個々の生徒にあった具体的な支援体制を構築し、学力の向上につながる授業のあり方を探り、実践に結びつける。 (2) 地域と関わる総合的な学習に重点を置き、課題を追究することで他者とのかわかりにくさ、将来の生き方を考えさせるとともに、自分のことばで結果をまとめたり、発	(国) 全国へき地教育研究大会山梨大会 10月17日
富士河口湖町教育委員会	中学校	西浜中学校	自ら学び、自ら表現し、進んで実行できる生徒の育成	各教科の特性を生かした授業の工夫	各教科指導において、生徒に興味・関心を持たせ、積極的な授業の参加を促すような教材・教具・授業形態、ともに学ぶ場面などを工夫した授業を実践する。とくに「活動」「共同」「表現の共有」という要素に焦点をあて、授業を組み立てる。また授業研究や研究会を通して全職員が学びを深め、学校教育目標の達成を目指していく。	
富士河口湖町教育委員会	中学校	上九一色中学校	「自ら学び、考え、主体的に行動することのできる生徒の育成」	～「ことばの力」をはぐくみ、確かな学力の向上を目指して～	【研究仮説】 各教科・総合的な学習の時間、すべての日常活動において小規模校の特性を生かし、個々の生徒の実態にあった学習方法の工夫や支援を充実させれば、生徒に「ことばの力（語彙力、思考力・判断力・表現力）を身につけさせることができ、いはいは 確かな学力の向上と生徒自らが個性を生かし、未来を主体的に切り開いていくことにつながる」ことができるであろう。 (1) 生徒の学習状況と言語環境の実態をもとに、個々の生徒にあった具体的な支援体制を構築し、学力の向上につながる授業のあり方を探り、実践に結びつける。 (2) 地域と関わる総合的な学習に重点を置き、課題を追究することで他者とのかわかりにくさ、将来の生き方を考えさせるとともに、自分のことばで結果をまとめたり、発	(国) 全国へき地教育研究大会山梨大会 10月17日
河口湖南中学組合委員会	中学校	河口湖南中学校	確かな学力の定着と活用へ	PISA型「読解力」に着目した学習方法のあり方	PISA型「読解力」についての理解と指導方法の考察 各教科におけるPISA型「読解力」の研究と実践	
大月市教育委員会	小学校	笹子小学校	確かな学力の向上を目指して	基礎・基本を充実させるための支援と評価	(1) 国語科・算数科において基礎基本の定着を図る学習指導のさらなる工夫研究。 (2) 国語科・算数科における児童へのより有効な支援のあり方の研究。 ・指導と評価の一体化を結びつける具体的な方法。 (3) 評価について ・仮説検証のための評価基準の活用及び次の学習指導に生かす評価。 (4) 「国語力」についての理論研究。 ・講師の招請	
大月市教育委員会	小学校	初狩小学校	学ぶ楽しさを実感できる授業の創造	伝え合う力を高めるための効果的な指導のあり方について	本校では、昨年度取り組んだ「子どもたちの伝え合う力を高める」ための研究に今年度も引き続き取り組む。「伝え合う力」における、身につけたい要素を明確にし、そのための効果的な指導法を行うことにより、子どもたちの伝え合う力は高まるであろう。』の研究仮説をたて、研究を進めている。めざす子ども像やつけたい力を明らかにし、共通理解を持つ中で、低中寄りのロックごとに、言語環境を整え、実感に応じて場の設定や具体的な手だてを工夫し、検証授業を行っていく計画である。	
大月市教育委員会	小学校	大月東小学校	主体的に学び、生き生きと活動する子どもの育成	友達と関わりながら、学びを深める授業を通して	「友達と関わりながら、学びを深める授業を工夫することによって、主体的に学び、生き生きと活動する子どもが育つであろう」という仮説をもとに、授業を通して、検証していく。理論研究として、学習を深める授業の工夫、グループ学習、ペア学習も含めた友達との関わり方、効果的な学習の進め方について学習する。また、新指導要領について学び、自ら学び、生き生きと活動する子どもをめざし、教育課程が、編成できるよう研究を深める。	
大月市教育委員会	小学校	大月西小学校	確かな学力の育成をめざして	児童の生活経験や体験活動と関連させた授業における基礎・基本の活用を通して	算数科において、学習内容と生活経験や体験活動を関連させ、思考の過程を大切に授業を工夫することにより、児童は既知の基礎・基本を活用するとともに新たな基礎・基本の高度な理解ができるであろうという想定のもと、授業づくりをしていく。そのとき、授業の工夫の視点として (1) 算数的活動・数学的活動の具体化 (2) 数量や図形の意味を理解する活動 (3) 知識・技能を実際の場面に活用する活動 (4) 問題解決の方法を考え、説明する活動 (5) 数学を生み出す活動、利用する活動 (6) 数学を伝え合う活動 (7) 数学を表現する	
大月市教育委員会	小学校	強瀬小学校	学び合い、学びを広げ、深める授業づくり	「話し合う」関係をつくり出して	教員が子供の発言、つぶやきや声を意味だけでなくその願いや背景をもとえ、認めながら聴く姿勢を大事にして、安心して自己表現できるようにさせる。また、少人数グループの学習を積極的に仕組む。グループ内で聴きあいが多様な考えが出せるようにさせる。子どもの考えをつないでいく教師の働きかけや学習を深め、学び合うように子どもたちの発言をもとにする授業づくりを目指す。「どうしてだろう。」「どのようにすれば。」などと思わせ、多様な考えを導き出すような教材の提示を行う。	
大月市教育委員会	小学校	七保小学校	意欲的・主体的に学習活動に取り組む児童の育成	授業を充実させるための言語環境づくりを目指して	子どもたちの学校生活で中心となる「学習活動」「教室(クラス)」という公の場で昨年度の成果を超える「相手の人格や考え方を尊重する態度と、言葉による伝え合いができるクラスづくり」をめざすことや、子どもの実態、教師の願い、思いに照らし合わせ、「どのように言語環境を工夫し、充実した授業を行えば、子どもたちが自分の意見や思いを積極的に発言したり相手の意見や思いを自分の考えと比べながら受け止んだり、意欲的・主体的に授業に取り組むことができるか」ということを研究の目標とした。研究内容としては(1) 授業において「聞き合う」「伝え合う」活動をどのように取り入れていくか、*日々の実践の中で昨年度を踏まえ土台となる学級作り、学習規律を確立していく。*その他、プロット	
大月市教育委員会	小学校	瀬戸小学校	自らの思いを自らの言葉で伝えられる児童の育成	豊かに表現する力の向上を目指して	「文学作品の読み深めを通して豊かに表現する(話す・聞く)力についての理論研究」を行う。 ・「文学作品の読み深めの授業実践を通して話し合う力を高めるために、「話すこと・聞くこと」を軸に、児童に慣れる語彙力が乏しいこと、聞いて理解できる内容でも文章化されると理解しにくくなること、短い文であっても様子を想像しながら読むことができて、意図がつかないことがある」といった児童の実態をふまえ、文章を読み取る力の伸長に焦点を当て、調査研究を行った。その結果、読書への関心が徐々に高まり、図書の貸し出し数が増えたり、以前よりも内容を感じ取りながら物語を読むことができるようになってきたりしている。本年度は、昨年度までの成果をふまえ、「読む力」のさらなる伸長を目指していく。具体的には、昨年度に引き続き、授業実践・音読・読書に重点をおいた諸活動を設定していく。特に音読は、読解力の向上につながる。文章を捉える力の向上につながる。児童自身に成長が見えやすく、自信や学習意欲の高まりにつながることを考えられることから、各家庭にも協力を仰ぎ、これまで以上に充実した活動になることを目指す。	
大月市教育委員会	小学校	上和田小学校	自ら考え、自ら学ぶ児童の育成	物語文を中心に読み取る力を高めることを目指して	「国語科における思考力・表現力等について理論研究する。『評価の方法(児童の自己評価・指導の評価基準)』を学ぶ。『学力テストの分析をして児童の実態を把握する。』思考が深まる授業の展開や適切な評価と支援を工夫し、一人一人が生きて授業をめぐらして一人一人実践で授業研究をする。*集団作りのための生活上の問題や、授業や日常生活における国語力について、日々のカルテに付け、指導上の悩みなどを話し合いながら授業に生かしていく。*各学年で国語力の向上に向けた言語活動の取り組みを実施し、月に1度のカルテタイムで情報交換しながら日常の指導に生かしていく。*国語力を高めるための言語環境作りを行う。(朗読書・ポックス図書など)	
大月市教育委員会	小学校	下和田小学校	一人一人が生きて授業の創造	自ら考え表現できる児童の育成をめざして(国語科)	(1) 自己受容及び他者理解を育むための道徳の授業研究及び検証(2) 話し合い活動を中心とした、コミュニケーション能力の育成及び検証(3) 命の大切さを実感できる環境整備の研究及び検証(4) 道徳性検査を用いた児童の実態把握	道徳教育実践研究事業 11月14日
大月市教育委員会	小学校	猿橋小学校	命の大切さを実感できる道徳教育	さまざまなふれあいを通して		
大月市教育委員会	小学校	鳥沢小学校	算数科におけるわかる楽しい授業づくり	かかわり合って学ぶ活動を通して	鳥沢小では、本年度より一かかわり合って学ぶ活動を通して一主題を設定し、「人とのかわり合い」を中心に据えて研究を進める。算数科の中では、主に子ども同士のかかわり合い(ペア学習・組学習)、子どもと教師のかかわり合い(学級全体の操作活動や話し合い、ITの効果的な活用)を大切に授業実践を行う。	
大月市教育委員会	小学校	宮谷小学校	「確かな学力を身につけ、自ら学ぶ児童の育成」 ～算数科における基礎・基本の定着を図る指導法と、考える力を身につける指導の工夫を通して～	確かな学力を育み、自ら学ぶ児童の育成を目標として、基礎・基本の定着を図る指導と考える力を身につける指導の工夫をする。 ・学習内容における基礎・基本および系統性を明らかにする。 ・基礎・基本の定着のため、日常的な取り組みとして朝学習等の充実を図る。 ・考える力を伸ばすために、算数的な活動や問題解決的な学習を取り入れていく。 ・児童の自ら学ぶ力の育成の育成をめぐらし、学習感想や自己評価カードなどを取り入れていく。		
大月市教育委員会	小学校	梁川小学校	自ら課題を見つけてそれを追究する子どもの育成	「問題を解決する力」を育てる指導法の研究	問題解決的な学習についての理論研究(子ども達が問題解決的な学習を深めるためにどのような指導や支援をすればよいのか。) ・研究仮説を検証するための授業研究	

大月市教育委員会	中学校	大月第一中学校	自ら学ぶ生徒の育成	基礎・基本に習熟させるための指導法の改善と個に応じた授業展開の確立をめざして	①個に応じた授業展開をめざした教科・道徳・特別活動における授業研究、および基礎・基本に習熟させる指導法の研究 ②国語力育成のための発問の工夫、朝読書の時間の有効活用 ③総合的な学習の時間、特にキャリア教育の研究 ④適切で実効性のあるフィードバックをめざした目標管理評価(絶対評価)についての研究 ⑤「教師力」の礎のひとつとなるコンピュータ・リテラシーについての実践的研究	
大月市教育委員会	中学校	大月東中学校	豊かな学びから「確かな学力」の向上をめざして	コミュニケーション活動を通して	平成17年度から19年度の3年間、本校は山梨県学力向上拠点形成事業の拠点校として指定を受け、生徒一人一人の実態に応じた指導の一層の充実を図るなどの研究・実践を行ってきた。しかし、全国学力調査の結果に現れているように、習得した基本的事項を生かす「活用」の能力に劣る傾向が強いことがわかった。 そこで今年度からは、昨年度までの研究項目で日常的に取り組める事柄(学びの時間、学習の手引き、宿題、座席表など)は常時活動として引き継ぎ、研究の中心に据えていく内容として、各年度の課題にも取り上げられていく「学び合	
大月市教育委員会	中学校	猿橋中学校	人と人をつ結び、生徒たちの豊かな「学び」を創る工夫	互いにかかわり合い、学び合う集団作り	○「学びの共同体」についての理論研究 ・「学びの共同体」の推進校の実践からの学習会 ・「学びの共同体」についての実践学習 ○効果的な集団作りの実践(集団作り研究部門:学年別) ○集団を生かした授業実践(学び作り研究部門:教科別) ・集団づくりを生かした授業研究および研究会(学級活動または道徳)	
大月市教育委員会	中学校	富浜中学校	自ら学び、自ら考える生徒の育成	「生きる力」を育む基礎となる力(感じ、考え、進める力)をつける指導	(1)基礎・基本の定着をめざした指導の研究 ①ひとり実践を基本とする。教科・道徳・特別活動における「生きる力」を育む基礎となる力(感じ、考え、進める力)をつける指導のテーマに沿った授業研究。 ②小学校との連携の方法・内容についての研究 (2)総合的な学習の時間(調、富浜)の研究 ①全校一斉に行う総合的な学習の時間を実践しつつ、より自主的な活動を促す授業作りを探る。また、学習成果発表会の内容・方法の研究 ②キャリア教育全体計画にもとづいて、学年ごとのグループにわかれて総合的な学習の時間の実践・検証・改善を行う (3)特別支援教育の研究 ①特別支援教育の理解と実践・検証・改善 ②外部機関との連携を図る	
上野原市教育委員会	小学校	大目小学校	読解力の向上を目指して	「わらいと評価を明確にした国語科の授業を通して	「読解力を確実に身につけていく子どもを目指す児童像とし、『わらいと評価を明確にするためには、どのような研究をしていけばよいのか』子どもたちの読解力を向上させるためには、どのような指導をしていけばよいのか』を研究していく。	
上野原市教育委員会	小学校	甲東小学校	楽しく学びあう体験的な英語活動への取り組み	～担任、ALT、仲間とともに～	【英語活動において】 ①担任とALTで教材研究や授業内容、指導法について考える。 ②授業研究を行い、お互いの気づきの中で課題を明らかにし、改善につなげていく。 ③英語活動に活用できる教材教具の開発を行う。 (ゲーム、歌、掲示物、音声教材、取り上げるセンテンス など) ④児童の見取りをどのようにしていくか考える。	わくわくイングリッシュ小学校サポーター事業
上野原市教育委員会	小学校	四方津小学校	自ら学び、自ら考える児童の育成	「対話」による学びの深い学びを通して	研究仮説「児童一人一人を尊重する『日常的な実践活動(学級作り)』を基盤に、授業過程において『対話による学びの深い学び(授業作り)』が生成されることにより、自ら学び、自ら考える児童の育成がはかれるであろう。」に基づき授業を展開する。 (1)『対話』による学びの深い学びを目指した学級作り ①児童の「聴く力」を育て、「聴き合う」関係作りのための共通理解を固め、系統的計画的指導を実践する。 ②児童理解を固め、一人一人安心して学べる学級作りのために、「日常的実践活動」を実践する。 (2)『対話』による学びの深い学びを目指した授業作り ①授業イメージの共有対話の実践に関する先達校の公開研究会に参加したり、実践者・研究者から学ぶ機会を持つ。 ②授業実践(～一実践)児童理解に基づき、授業で取り上げる教材についての授業観を明確化し、授業案を記述する。 ③授業研究会授業研究会を通して、一人一人の学びが見られたか検討し、自ら学び自ら考える児童の育成に努める。	
上野原市教育委員会	小学校	沢小小学校	伝え合い、支え合い、学びを深める子どもの育成	表現する力・考える力を構築する力に視点を当て	(国語や他の教科での授業研究) ・考えを構築し、表現することを意識した国語科や他教科の授業の工夫と検討。 ・言語環境の整備(校内掲示・読書教育・あいさつ運動) (NIEの学習) ・様々な学年や教科、特別活動において新聞を取り入れた活動の工夫とNIEの実践。 (教育課程編成に向けての準備) ・学習指導要領改訂に伴う移行措置・複式学級編成に関係した年間指導計画の作成。 (研究会) ・子どもの体力向上指導者養成研修の遠流報告(理論・実技) ・教育課程の遠流報告	
上野原市教育委員会	小学校	大鶴小学校	「心豊かに生き生きと学ぶ児童の育成をめざして」	～学ぶ力を身につけさせるための算数科における指導の工夫～	研究目標:算数科において、学ぶ力を高め、自分の考えを表現できる児童の育成をめざした指導方法の研究をする。 研究仮説:子どもの実態に応じた教材・教具、指導の方法を工夫すれば、児童は自ら考え学ぶ力が身につくであろう。 研究内容:(1)学ぶ力を高める教材・教具、指導の工夫について (2)算数科における表現力について	
上野原市教育委員会	小学校	島田小学校	基礎基本を重視した授業の工夫	読解力の向上をめざして	研究内容*正確に読み取る力を育てる。 1. 授業の中で押さえるべき力 今年度は、(正確に読み取る力をつける)①主語・述語をしっかりと捉える。(低学年)方法(穴あけ、囲む)②大切な言葉を押さえ、段落の内容を捉える。(中学年)方法:キーワードを探る③文を理解し、自分なりの考えを持つ。(高学年)方法:著者の意見を探し、自分なりの意見を持つ。 2. 日常的な実践①人の目を見てしっかりと話す・聞く(お話タイム)5W1H(whoだれがwhenいつwhereどこでwithだれとwhatなにをhowどのように)を押さえる。二人対話(ルールを決めて、全校で取り組む。Ex.頭を動かしながら聞く、最後まで聞く、聞いたことを聴き返す)にする。テーマを決めて話しイベントの感想、学校に来るまでに見たこと、昨日遊んだこと、寝た本、お昼のメニューなど))②(朝の会、朝の会、水曜目標発表の集まり)の。	
上野原市教育委員会	小学校	上野原小学校	目標をもち、生き生きと学ぶ子どもの育成	基礎・基本の習得と活用を図る授業のあり方を探る	・新学習指導要領の理念と改訂のポイントとなる事項や新たな教育課程の概要について、学習会をもつ。 ・活用力を育てる授業のすすめ方や実践例について、学習会をもつ。 ・国語科と算数科、外国語活動において、知識技能を修得させ更に活用力を伸ばす授業について、学年単位で研究・授業実践と研究授業をおこなう。	
上野原市教育委員会	小学校	桐原小学校	自ら学び、生き生きと活動する児童の育成	考える力を育てる算数の学習	本年度の研究は昨年度に引き続いて教科を算数に絞る。指導方法の改善や教材教具の工夫をはかる。学習したことをしっかりと定着するようにして、応用できることが真の知識の習得と考え、自ら課題にあたり、考え、活動する児童の育成をめざす。児童の実態を元に、学習の定着をはかる必要がある領域を探り、そのための手段を考える。また全校児童34名、学級の数も6～9名という少人数学級を生かしたより効果的な授業のあり方考え、毎日の授業で継続していける授業形態や方法を作っていく。 1)本校児童の実態調査を元に、課題点をあげ、指導の改善の方法について検討する。 2)ブロック別研究を深め、発達段階に応じた有効な方法を用いて実践をすすめる。 3)全体による検証授業で、指導方法についての評価を行う。 4)標準学力テストにより、学力を調査し、指導と評価の一体化について取り組む。 5)種教育委員会が主催する教育課程説明会の遠流報告会及び学習会	
上野原市教育委員会	小学校	西原小学校	学び合いの中で、確かに自分を表現する子どもの育成	コミュニケーション能力の向上を通して	①「コミュニケーション能力育成」に重きを置いた授業についての研究・総合的な学習の時間(国際・地域・環境)の取り組み、一人一人実践・講師を招聘しての理論研究等 ②その他の研究・保健指導・特別支援教育(遠流報告)・パソコン研修・僻地教育公開の視察③の取り組みでは主に以下のような資質能力と意欲を育てられるようにしていく。・表現技能を育てる(特に、今年は場面や目的に応じた適切な表現方法)・単食育の取り組みを通して、心の育成、社会性の涵養、自己管理能力の育成を図り、心豊かにたくましく生きる子どもを育てることを目標に研究する。中心となる領域は「学級活動」である。子ども達の興味関心が高まる教材・教具を工夫したり、養護教諭や栄養職員とのITをいかに活用を工夫したりする。また、給食の時間には、月の目標に沿った短時間での指導を行い、マナーや栄養バランスについての指導を系統的に行えるようにする。総合的な学習の時間や生活科では、地域の食文化に関わる学習をし、郷土への理解を深めるようにする。他教科や他領域でも食に関する学習を連携して行うことにより目標に近づけていきたい。また、保健便りや給食便りを使って、家庭への啓発活動を行った。地域人材を活用して、地域の食文化への理解をより深めていきたい。	全校へき地教育研究大会山梨大会分科会校
上野原市教育委員会	小学校	秋山小学校	心豊かにたくましく生きるあきつ子の育成	食育の取り組みを通して		
上野原市教育委員会	中学校	平和中学校	確かな学力の向上を図る教育活動の創造	学び合いの授業展開の工夫と自己を高める支援	「確かな学力を定着させるために学級集団・小集団づくりによる豊かな学び合いの場を授業の中で定着させてきた。今年は効果的な学び合いの場を設定し、集団のなかで基礎的な学力を育んでいくことができるような授業を展開する。また、本校生徒の日常の様子や全国学力調査の結果から、自分に自信を持っていない、他人を認められない、というような点があると考えられる。その項目についての調査を全学年に実施し、それらのデータを考察するなかで、支援・指導の方法について実践を行う。さらに、来年度を厳中との統合を考える中で、厳中の校内研究会等に参加し、そこでの実践から本校に活かせる部分は	

上野原市教育委員会	中学校	藤中学校	「学び合う関わりを重視した学習活動の創造」	～互いに学び合う集団作りを取り組み、確かな学力の向上を目指す～	1)人と人との「かかわり」を深め、集団力の向上を目指す具体的な取り組みを推進し、「かかわり」を深めることから学習活動がより効果的になるといった関連性を探っていく。 2)授業における学習形態の確立、より教科の特性に即した効果的な小集団の活用方法を身にやすとも実践の中から授業における集団作りを目指す。 3)中学生の家庭学習の実態を調査し、各教科における宿題状況を把握する。教科における家庭学習の可能性を探り、生徒の家庭における学習の充実を図る。 4)授業研究会を積極的に開催し、教科を超えた視点で生徒の見取りを分析し合い、職員間授業実践力を高める意欲の改革を推進する。 5)「PISA型読解力」の向上をねらう取り組みの推進。	(国)「学力調査の結果に基づく検証改善サイクルの確立に向けた実践研究」(県)「確かな学力ステップアップ事業」
上野原市教育委員会	中学校	島田中学校	自ら学び、主体的に活動する生徒の育成	Q-U検査の結果を学級経営、教科指導、学校全体で活かす工夫	①学級満足度調査Q-U検査の実施・分析(4月、10月、1月) ②①の分析を受けて、教科・道徳・学級活動の授業の工夫。 ③①の分析を受けて学級経営・学級指導(給食指導やふれあいの日)・異年齢集団での活動(委員会活動・部活動)のあり方の工夫 ④生徒個々への指導の蓄積	
上野原市教育委員会	中学校	上野原中学校	「確かな学力」を身に付けさせる指導のあり方	～地域素材や伝統文化を取り入れた指導の研究～	学習意欲の喚起や学習内容の定着についての実践研究を継続しながら、各教科・道徳や特別活動において、地域素材や伝統文化を取り入れられる学習内容や場面の洗い出しや掘り起こしを行う。 (1)「確かな学力」を身に付けさせるための指導方法・内容についての研究 ①学習内容の定着を図る指導方法の工夫 ②地域素材や伝統文化を取り入れた教科や道徳・特別活動の工夫 ③思考力・判断力・表現力・活用能力などの育成を図る教材、教具、学習形態の工夫 (2)「確かな学力」を身に付けさせるための生活環境作りについての研究	我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業
上野原市教育委員会	中学校	秋山中学校	意欲的に学習する生徒の育成を目指して	生徒一人一人を大切にしたいきめ細かな指導を通して	・ブロックに分かれた指導内容や学習内容の検討と考察を行うことで研究を深める。「学力向上ブロック」授業作りの工夫を中心に支援の方法を検討する。きめ細かな指導や支援の方法や形態について実践し、評価と改善を行う。 ・学力のベースとなる国語力の向上に向けた取り組みと言語環境を整備する。一読書や漢字コンテストをはじめ「話すこと・聞くこと・読むこと・書くこと」の取り組みを実践し、評価と改善を行う。「意識向上ブロック」 ・自立した学習者をめざし、充実した学習支援と家庭学習のあり方を検討する。家庭学習の実態把握と学校でできる支援体制について実践し、家庭学習の習慣化をめざし、生徒一人一人での学習の自立を促す。評価と改善を行う。	平成20年度 全国・関東甲信越・山梨県へき地教育研究大会 授業公開校 10月17日
小菅村教育委員会	小学校	小菅小学校	自ら学び、自ら考える児童の育成をめざして	一人一人が生きて学習指導の工夫	＜研究内容＞ (1)発問と指導についての理論研究 (2)指導方法についての研究(授業研究を通して) (3)児童の実態把握と教師の指導についての研究(事例検討会) ＜研究方法＞ (1)仮説―授業―検証―再仮説という方法で行う (2)授業は一人一実践を行う。 (3)教材は、特定しないで行う。	
小菅村教育委員会	中学校	小菅中学校	「基礎基本」を身に付けさせる指導のあり方	学習意欲を喚起させる指導の工夫	「基礎基本」を身に付けさせるための指導についての研究を、学習意欲の喚起に着目し、そつさせるための指導の研究を行う。各教科授業実践を行い、検証を行う。	
丹波村教育委員会	小学校	丹波小学校	自ら学び、生き生きと学習に取り組む児童の育成	ふるさとや小規模校の特性を生かした教育活動を通して	○一人一人に応じた指導・支援の内容・方法を明らかにする。 ①指導法の工夫・改善 ・「わかる」喜びを味わえる授業の工夫 ・問題解決型の授業展開の研究 ・教材、教具の活用 ②少人数学級の特徴を生かす授業 ・指導過程に沿った表現する力の明確化 ・一人一人に期待する姿の明確化 ○自分の思いを表現する力を育てる方法を明らかにする。 ①表現する力を具体的に明らかにする。 ②よりよく表現するための方法 ③ふるさと丹波を題材にした教材を生かす工夫	全国へき地教育研究大会山梨大会分科発表会 10月17日
丹波村教育委員会	中学校	丹波中学校	「基礎学力の定着を目指す」	～学びの意欲を高め、自ら考え、表現する力を育てる実践を通して～	(1)「学びの意欲の向上」を目指し、生活および学力の実態を把握し、個に応じた適切な指導に生かす。 (2)全教職員が「学びの意欲」「考える力」および「表現する力」の育成に焦点をあてた授業づくりを行う。 (3)学習ガイダンス機能の充実を図り、基礎学力の定着を図る。 (4)地域にねざした総合的な学習の時間の実施により、郷土愛を育む。	(国)全国へき地教育研究大会山梨大会 10月17日
国立	小学校	山梨大学教育人間科学部附属小学校	夢…未来を拓く子ども達	学びへのこだわりが育つ創造的な学習を目標として	変化の激しい社会の中では、価値観が多様化するなどして必ずしも子どもたちが、「夢」を抱くことができる時代とは言えなくなっている。社会の諸問題に直面することで「夢」を理想として将来を見出すことに、不安や無力感を感じる子どもたちが増えてきている。そこで、厳しさが予想される世の中であっても、これからの世の中を生きて子どもたちに「夢」を抱かせ、その実現にむけて生きる原動力としての目標を持たせたいと願っている。本年度は2年目の研究として子ども達が、自分の生活や学習の中で生ずる「こだわり」を教科、道徳など学習活動とすり合わせの中で、新しい価値や情報として自己を変革する意欲的な活動として活用する学習のあり方を探求する。また、各教科が考える「伸ばしたい力」を新学習指導要領との関係の中で明らかにし、具体的に研究・検証でき	初等公開研究会 7月5日(土)
国立	中学校	山梨大学教育人間科学部附属中学校	社会生活に生きる知をたくむ授業の創造(案)	学習内容の関連性を見だし、表現する学習活動を通して	これまで6年間の教科研究で、学習内容の関連性を意識させる学習課題、学習活動について研究を進めてきた。本年度は新学習指導要領も踏まえ、これまで内的に広げ深めていった学力を社会・生活にむけて発信することで、より理解を深める学習について研究をすすめます。なお、研究主題については、現在も協議・検討中ですので(案)を付けさ	中等教育研究会 11月1日
私立	小学校	駿台甲府高等学校附属小学校	言語活動指導について			
私立	中学校	日本航空高等学校付属中学校	学力・学習意欲の向上		・スポーツで養われた集中力を生かした学習 ・学力不番者のつまずきを解消できる学習方法 ・成績優秀者の効率的な学習方法 ・学習意欲を向上させる各種イベントの計画 ・資格取得対策	
県立	高等学校	北杜高等学校	「学ぶ喜び・学ぶ感動・学ぶ楽しさ」の追求		全教員が授業の中で、複数の資料を読み、考え、自分の意見をまとめ、書き、発表する指導を、年間2回以上実施する。	(国)平成20年度学力の把握に関する研究指定校事業
県立	高等学校	韮崎高等学校	自ら学び、自ら考えて行動できる生徒の育成	思考力・表現力を育成する指導法の研究	昨年度から3年間、国語力向上実践事業を基調とした研究を進める。 ①各教科・分掌で研究主題に沿ったテーマを決めて取り組む。 ②昨年度の成果を共有し、共通認識のもとで取り組む。 ③新聞を活用した学習活動を取り入れ意見などの作成を行う。 ④イベントやプレゼンテーションを取り入れた学習活動を行う。 ⑤論理的・客観的・思考力や指導力を高めるための研修会を開催する。 ⑥生徒にどんな力が付き、何が身につけていないか、検証するための指標を検討する。	
県立	高等学校	韮崎工業高等学校	社会に貢献できる生徒を育成する道徳教育に関する研究	心に響く道徳的実践活動の充実を通して	「よき技術者となるまえに、まずよき人間となれ」という教育信条に基づき「道徳教育」を基盤とし、生徒が社会の一員として主体的に生きるための将来設計や進路選択と結びつけた本校ならではの道徳教育を推進する。また、総合教育センターの研究協力校として、5年間実施してきた高等学校用道徳資料「自分との出会い」を活用した授業研究をさらに進め、体験・交流活動と関連させながら充実を図る。 研究の概要 (1)「道徳教育」に基づく職業観、勤労観の育成と自立心の向上 (2)道徳資料「自分との出会い」を活用した授業の推進 (3)心に響く道徳的実践活動の充実 (4)各教科等における道徳教育の推進 (5)教員の意識改革の必要性と指導技術の向上	(国)道徳教育実践研究事業
県立	高等学校	甲府第一高等学校	確かな学力の確立、分かる授業を目指した授業力向上への組織的取り組み		本校では、平成20年度の重点項目の1で「学力向上・授業改善の取組を組織的・継続的に推進する。」としている。新入生実態調査の結果をみても、本校教師により高い授業を期待する回答が上位にあり、興味・関心を喚起し学力をつけさせてくれる教師を望んでいる姿が見える。授業力向上には様々な要素が重要になるが、これに組織的・継続的な取組を推進する観点からは、①教科、科目内で協議して教材分析力の向上に取り組むこと。②各種調査・分析から生徒の実態を的確に把握し、情報を共有すること。③相互授業参観や授業の自己分析をおこなって指導力技術力を向上させること。の3点が重要であると考え、今年度の研究主題とした。 1)各教科は、教材分析力の向上を目指した取り組みを行う。(情報交換、指導案の作成、研究授業などの参観など) 2)学年、校務分掌は、授業アンケート、新入生実態調査、学習実態調査、適性検査、定期・学力テストなどのほか、生徒実態の把握に有効な取り組みを行う。 3)教職員は、各種研修、相互授業参観、授業アンケートや、シラバスを活用した授業展開、理解度の把握などから、指導技術力の向上に有効な取り組みを行う。	
県立	高等学校	甲府西高等学校	+15分から得られるもの		限内唯一の65分授業が実施されてから3年が経過した今、50分授業より多い15分という時間の中で得られるものは何かを改めて検証し、これからの西高に求められる授業のあり方を追究する。	

県立	高等学校	甲府南高等学校	地域の身近な科学現象から、グローバル(包括的・国際的な視野)の視野を開かせるプログラムの開発		豊かな自然に恵まれた山梨の地域性を十分に生かした「地域密着型のSSH」を継続して展開する。独自の教育課程の開発においては、以下の4つの学校設定科目を設ける。本校の理数科目を強化させた「SS科目」を理数科と普通科理数クラスに、全教科の教職員が担う科学を履修した進路学習「フロントアワード」は全学年全クラスに、英語を中心とした実践的コミュニケーション能力を育成する「サイエンスイングリッシュ」を1年生全クラスに設置する。さらに、探究活動、科学講演会、校外研修、高大連携講座、ロボット講座等を含めて、1・2年生全クラスの生徒が選択できる「スーパーサイエンスI・II」を設置する。また、自然科学系の部活動の活性化を図る。以上の取組とあわせて、全校生徒の科学全般に関する興味・関心を高め、将来日本や国際社会の様々な分野ですべての生徒が基礎基本を身につけることの研究については、知識・技能の定着いっしょに習得型教育を本校独自の到達度学習システムの一層の改善を通して推進していく。また、自ら考え・自ら学ぶための指導いっしょに探究型教育の研究については、各教科等における言語活動の充実を図ることを通じて推進していく。	(国)スーパーサイエンスハイスクール 2月5日
県立	高等学校	甲府東高等学校	すべての生徒が基礎基本を身につけ、自ら考え・自ら学ぶための指導の工夫	思考力・判断力などの「学力」の向上を目指した授業の改善と指導の工夫		「学力向上拠点形成事業」研究推進校
県立	高等学校	甲府工業高等学校	「わかる授業」への取り組み	普通教科・専門教科共に生徒の学力が2倍化し、好成绩を維持している生徒がいる中、最初からあきらめて学習意欲に欠けている生徒も目立つ。これらの生徒は単に学習するという姿勢が身につけていないだけではないように思われる。つまり中学校で関連する単元を学習していない可能性がある。教員が中学校で基礎部分は学習してきていると思って授業を進めても、生徒たちは初めて聞く内容であることが多いように思われる。この辺が、生徒にとって高いハードルに思えるかも知れない。したがって、中学校で使用している教科書を購入し、各教科・各科目に関連してもしないが、授業の組み立てや進む度合い等を検討してもらうようにする。また、生徒帰宅後の生活動向を学習中心の「ワーク」購置を義務化して、学習時間の確保を把握し、これも今後の授業に生かされる。命の大切さを学ぶ体験活動として授業や学校行事の中で行っている活動を企画したり、実施方法を工夫したりして、豊かな人間性を育み、たくましく生きる力を育てることを目的とした指導法、およびその評価について研究する。		(国)豊かな体験活動推進事業
県立	高等学校	甲府城西高等学校	豊かな人間性を持った、たくましく生きる力を育むための教育活動	命の大切さを学ぶ体験活動をとおして		(国)豊かな体験活動推進事業
県立	高等学校	甲府昭和高等学校	学力向上プロジェクト「STEP100」を達成するための具体的な指導法の研究	本校では昨年度より、生徒全体の学力の底上げを図り、生徒の進路希望に合った進路実現のため、2010年度入試までに、国立大学へ100名以上の合格者を出すことを目標とした。そのために、生徒の学力向上と教師の授業録向上を目指す。また、高校生活満足度100%を目指す。具体的な施策として、①学習指導 ②授業力向上 ③特色ある活動の推進の3点から研究		
県立	高等学校	農林高等学校	研究主題1「本校での3年間をとおして育まれる生徒のキャリア意識の形成について」研究主題2「生徒の国際語力向上への取り組みについて」	研究主題1について ①生徒の望ましい職業観や勤労観を育成すること(インターンシップ、デュアルシステム等)②職業に関する知識や技術を身に付けさせること ③自己の個性を理解した上での主体的進路選択能力・態度を育成すること ①から③の目標を達成するために必要な「生徒支援の効果的な方法について研究する活動」を、校内に別に設けた研究組織にて実施する。研究主題2について 「読むこと・書くこと」「話すこと・聞くこと」においての本校に今ある様々な取り組み、新たな取り組みによって、生徒のなお		
県立	高等学校	巨摩高等学校	「学校全体で取り組む国語力向上のための教育実践～言語活動の充実を目指して～」	①各教科、総合的な学習の時間、特別活動等、学校の教育活動全体を通して、生徒の論理的思考力・表現力・コミュニケーション能力の育成を図る。 ②生徒の興味・関心分野における情報収集能力を向上させる。 ③生徒の論理的思考力・表現力・コミュニケーション能力の実態を把握する。 ④教員の小論文及び小論文指導に関する知識・技能を高め、小論文指導の方法の改善を図る。 ⑤面接指導の方法について工夫・改善を図る。 ⑥図書館を活用した授業についての研究を行う。 ⑦新聞投稿を利用して、発表力を育成する。 ⑧プレゼンテーション能力の育成を図る。		
県立	高等学校	白根高等学校	表現力向上(国語力向上)推進事業	①分掌・学年を中心とした、「朝の読書」「漢字テスト」「新聞コラム」などの取り組みによる「読む力」「書く力」の育成。 ②全教科による学習指導を通して、「読む・聞く・話す・書く」の表現力育成。 ③インターンシップの推進における、コミュニケーション能力の育成。		
県立	高等学校	増穂商業高等学校	教材研究を深めることにより、その成り立ちや背景を踏まえ、個別学習の準備に寄与するが検討し、思考力・判断力・表現力を身につけるための教員の授業力向上	校内研究に関しては、「基礎学力ステップアップ推進事業」モデル校(平成14～15年)、「学力向上プロジェクトハイスクール」指定校(平成16～17年)、「金融教育研究校(平成17～18年)と様々な取り組みに取り組んできた。これらに対する評価も「どのような活動にどのような効果があるか」が不明であるが、授業に取り組む姿勢、現在開講されている講座などにその功績とも思える足跡が一部残っていることは確かである。現在本校においては、教育課程研究指定校として、主に商業科が中心となり研究活動に取り組んでいる。この取り組みは今年度末になる。それと平行する形で、校内研究をまとめる試みが要求されているわけである。すなわち従来のいわゆる「研究紀要」を作成する作業である。これからはこの「研究紀要」作成に関する研究活動のみに限定して		
県立	高等学校	市川高等学校	国語力向上について、各領域における総合的な取り組みを行う中で、読解力・表現力を高める指導の研究の工夫	本年度の各教科における研究において、国語力および読解力の向上に重点をおいた指導方法の工夫に取り組む。生徒の学力向上と教授内容の質的向上を図る。 朝の読書指導や小論文指導などの適切な生徒指導を通して、生徒の読み取る力、考える力、表現する力を高める有効な手立て、指導方法に取り組む。		
県立	高等学校	峡南高等学校	「分かる授業」の展開と基礎的・基本的な学力の定着	基礎的・基本的な事項を精選し、身につけさせる指導を研究する。お互いに授業を公開しながら、学習の動機付け要因をさぐり、楽しく授業に集中させる指導のあり方を工夫する。	(国)高校生社会奉仕活動推進校	
県立	高等学校	身延高等学校	基礎基本の定着を目指した「リメディアル教育」の研究	平成19年度から本校の普通科高校の入試方式が「全県一学区」となり、学区にこだわらず自由に出願することが可能となった。創設以来80有余年を数える本校であるが、県都甲府からは遠隔地にあるため、少子高齢化の影響もあり、生徒の減少傾向に歯止めがかからない。平成20年度入試では、入学定員を下回る入学志願者状況となり、生徒の中には授業内容が十分に理解できない者も散見される。本年度の校内研究では、各教科ごとに、学習が遅滞している生徒に基礎基本の定着をさせることを目指して「リメディアル教育」を実施し、その成果を検証することとした。学力事前診断テスト、形成的評価テスト、総合的評価テストなどを効果的に活用し、学習が遅れていることが明らかにされた生徒には、個別指導を元にした個別の学習支援を打ち出すことと考		
県立	高等学校	石和高等学校	学習習慣の確立	家庭学習の定着化(シラバスの改訂を含めた学習課題の提示)	1. 家庭学習の実態調査アンケート等を利用して、石和高校生徒の平日や休日の生活(家庭学習時間)を調査する。 2. 各教科(五教科)で「ここまでできてほしい100」というタイトルで、生徒のできやすい学習課題を提示する。年間を通してできるだけ具体的な到達目標とし、シラバスの到達目標に掲げる。 3. 到達度のチェック方法・時期・評価の反映方法等は教科内で検討してもらう。五教科で統一できればそれが高い。 4. シラバスの改訂がメインではなく、生徒の家庭学習が定着したかがメインとなる。	生徒指導研究指定校
県立	高等学校	山梨園芸高等学校	自ら学ぶ意欲を育むための授業教材の研究	子どもたちが授業に「やる気」を出すきっかけとなるような工夫	各年度は、昨年度の研究主題を引き継ぎ、研究していき、昨年度と同じく、生徒たちが「自ら学ぶ意欲を育む」ために、各教科一人一科目を目標に、テキスト・教材の開発や授業の工夫を主眼におき、「学びの創造」に取り組んできた。学びの心を育むには、生徒が「わかる」と感じることが欠かせない。「わかった」と共感することは「楽しさ」であり、それは「学ぶ楽しさ」となり「学ぶ意欲」となるはずである。授業をとおして生徒が自身の「アイデンティティ」を発見できるような教材の開発や授業の工夫を目指したい。	
県立	高等学校	日川高等学校	生徒一人一人の進路実現のための学力向上の指導法、及び指導体制のあり方の研究	生徒一人一人の進路実現を図るために必要な基礎学力を的確に確立し、それを定着させるための指導のあり方を確立することを目的として、研究を進める。根幹となる指導の改善、指導形態、指導体制、指導目標と評価の関係、進路ガイダンスのあり方、優れた能力を有する生徒に対する発展的な学習指導等について、研究を深めていく。また、教育方針である文武両道をいかに達成させるかという観点から、適切な部活動のあり方を考え、文科系から指定を受けていた「学力向上プロジェクト」事業を推進してきたことをさらに深化発展させるために、校内の学習指導体制を一層充実させ、単位制高校とし		
県立	高等学校	山梨高等学校	国語力向上への取り組み方法の研究	各教科における取り組み 昨年度各教科・科目で報告された内容を元に複数の教科で共通に取り組めるものを検討し、方法論の共有を図る。 ・コミュニケーション能力の向上を目指し、夏季休業中に教師、生徒希望者同士のディベート研修会を実施する	平成19・20年度高等学校進路指導研究推進校	
県立	高等学校	塩山高等学校	生徒に「自ら学び、理解し、発表する力」を育むための授業実践の推進	NIEを活用した思考力・判断力・表現力の育成を目指す	新聞を学校教育に積極的に取り入れてNIE教育の推進を行い、新聞を活用することにより、幅広い学習習慣の確立を行い、自ら学び、理解し、発表する力を育てる授業の実践を推進する。研究については全校体制で進める。	
県立	高等学校	都留高等学校	学力向上及び定着のためのわかる授業の推進と授業力の向上	「知るハイオニ」事業を引き継ぎ、わかりやすい授業を目指して授業力のさらなる向上をはかる	○全ての生徒の希望進路実現のために必要な学力の向上と、それを定着させるためのわかる授業の推進と確立について。 ・教員相互の授業参加による授業力向上のための工夫と改善 ・生徒の授業アンケートによるわかる授業のための工夫と改善 ○本校の教育目標達成のための教員の資質と能力の向上について ・教員相互が講師として実施する校内研修の活用	(国)(県)国語力向上実践事業、(国)スーパーサイエンスハイスクール研究指定 12月18日
県立	高等学校	都留高等学校校定時制	生徒の規範意識をどう確立するか		平成20年度がスタートしてから2ヶ月弱が経過したが、一部の生徒に落ち着きが見られず、授業をサボったり、教員や生徒と適切なコミュニケーションが出来ずにいる。学校への帰属意識も希薄で、学校全体としての求心力も弱いのが現状である。そこで、生徒の規範意識をいかに確立し、活力ある学校運営を行っていくのかを、多角的に模索する。	
県立	高等学校	上野原高等学校	教員の授業力向上を目指して	相互授業参観を通して	授業マイスターの認定・活用事業を成立させるための環境づくりとして、全教員による「相互授業参観」を実施する。日常の取り組みの中で教員の授業力向上を図る。	

県立	高等学校	谷村工業高等学校	基礎的・基本的な学力や技術を習得・定着させるために分ける授業の工夫改善を行い、望ましい職業意識と勤労観を育て、一人ひとりを生かすことができる学習指導法を研究す		1 基本的な生活習慣を確立させ、学校での授業に意欲的に取り組む姿勢を養わせる。 2 反復学習や各種検定に積極的に取り組ませる中で、一人ひとりにきめ細かい指導を行う。 3 生徒の実態に即して指導法や課外授業、補修等を工夫し、主体的な学習態度を育成する。 4 個人の特性や興味を考慮しながら、生徒に適した進路選択ができるよう全職員が協力して進路指導に取り組む。	
県立	高等学校	谷村工業高等学校定時制	「知力・体力・道徳心を育成する総合的な学習の時間への取り組み」		昨年度の取り組みへの反省から、本年度は知育のみでなく、徳育・体育の分野にも取り組み、バランス感覚のとれた人材の育成を目指す。 本校生徒が自ら考えて行動できるよう、自主性や積極性を養うことを目標として、体験学習等の取り組みを行う	
県立	高等学校	桂高等学校	命の大切さの学習と連携させた国語力の向上		各教科、学年の特性を生かした取り組みと、教養部による朝の10分間読書や図書館の活用推進など。	
県立	高等学校	吉田高等学校	「質の高い」文武両道の実践	環境に対する意識の啓発と実践	日履表に時間区分を設けて、平日放課後に3時間のクラブ活動時間を確保している。また、理数科生徒も、クラブ活動に参加することができるようにする。地球温暖化防止に対する取り組みを、具体的な数値目標を掲げて実践的に取り組む。昼休みのHPRの消灯、放課後の残留時に、自習室での学習を徹底することで、省エネに取り組む。また、ゴミの分別、紙のリサイクル、制服リサイクルは、かなり、徹底できているが継続して実践していく。講演等を企画し、意欲の啓発をはかる。	
県立	高等学校	富士北稜高等学校	基礎学力と系列・コースの専門的学力の確かな定着を図る		・一般社会へ適応できる基礎学力の定着を図り、指導方法の工夫や改善を行う ・家庭学習習慣の確立を図る ・基礎学力強化のための教育課程のあり方について検討する	
県立	高等学校	富士河口湖高等学校	主体的に学習に取り組む生徒を育成するための指導方法	生徒が生き生きと活動する授業、前向きな姿勢で取り組む補助学習への工夫	○オンライン・学習評価等の有効活用により、生徒の学習活動の自己把握を促す。 ○校内研究授業の充実により、教員の授業力向上を目指す。 ○小論文指導の多様化により、個々の生徒に、自己必要度の高い論文学習を促す。 ○課題実態調査等により、適切な課題方法を検討する。 ○学習指導部選定の発行等により、各種検定の登壇に努める。	
県立	高等学校	中央高等学校(定時制)	一人ひとりを大切に、夢や希望を育む調和のとれた人間の育成		・自ら学び自ら育める力の育成 ・基礎的・基本的な内容の確かな定着を図る ・一人ひとりの個性を生かす教育の充実	
県立	高等学校	ひばりが丘高等学校	個性・創造性・自律心に富む心豊かな人づくりのための学校づくりの研究	一人一人の生徒を引き出すための教育	本校において、個性・創造性・自律心に富む心豊かな人づくりのためには、生徒の実態に即した本校独自の教育環境の整備が必要不可欠である。生徒の自律心を育み、落ち着いた学校生活が送れるような授業環境と学校行事などの整備について研究する。	
市立	高等学校	甲府商業高等学校	社会の変化に対応できる能力の育成	コミュニケーション能力の育成と国語力の向上	・コミュニケーション能力の育成と国語力の向上を図る指導法の研究 ・一般社会へ適応できる基礎学力を身につけさせるための指導法の研究	
市立	高等学校	大月短期大学附属高等学校	自ら学ぶ意欲と、社会の変化に対応できる能力の育成に関する研究		各教科、および各分掌を通して、以下のような研究を行う。 ① 生徒の興味や関心、また能力などの実態を把握する調査・研究。 ② ①の調査・研究を生かした教育課程および各教科の指導方法、またその評価方法等に関する研究。 ③ 地域社会が本校に求める理想的あり方に関する実態把握と検討。さらにその検討結果に基づき、地域に根ざした学校を構築するための具体的方策の策定。 ④ 一般社会の若者への期待やニーズに関する正確な把握、またその分析結果を生かしたキャリア教育の推進と、サードの展開およびインターンシップの実施。 ⑤ ①～④を基に、推進するための、生徒の自主性の育成に関する方策の研究。	
私立	高等学校	甲府蒲田高等学校	コミュニケーション力を高める指導法とモチベーションを高める評価法の実践研究		・各教員の授業研究(全員) ・授業研究計画書を提出し2学期までに完全実施する。 ・各教科における到達度評価の研究。 ・新しい評価方法として提言し、今年度より研究に入る。評価事例などの資料をあつめ研究部で協議し、実践をめざす。	
私立	高等学校	日本航空高等学校	学力・学習意欲の向上		・スポーツで養われた集中力を生かした学習 ・学力不振者のつまづきを解消できる学習方法 ・成績優秀者の効率的な学習方法 ・学習意欲を向上させる各種イベントの計画 ・資格取得対策	
私立	高等学校	駿台甲府高等学校	菅原力の向上			
県立	特支学校	盲学校	視覚障害教育における専門性の向上	特別支援学校として求められること	上記の研究主題の基、グループ研究、視覚障害教育研修会、校内講演会等を企画・実施する。グループ研究では、全職員が、盲ろう教育研究グループ、自立生活指導研究グループ、自作教材研究グループ、理療教科指導研究グループ、寄宿舎指導研究グループの何れかに所属し、各グループごと、年14回設定した研究日を中心に1年間を通じて研究を行い、視覚障害教育の向上を図る。また、その研究内容は年度末に研究集録にまとめる。視覚障害教育研修会では、盲教育、弱視教育、盲重複障害教育等の分野において、本校の中でも特にその専門性が高い職員を講師とし、年9回の研修会を実施して、新任職員の専門性の向上と職員間の専門性の共有化を推進する。校内講演会では、学校外から視覚障害教育の分野で先進的に活躍している専門家を講師として招き、	
県立	特支学校	ろう学校	*平成22年度に関東地区の聴覚教育研究会を本校で行うことが決定しています。そのため、今年度から3年間の研究とすることとし、7月11日の校内研究会で、研究主題を決定することに			
県立	特支学校	甲府支援学校	「一人一人が輝く授業をめざして」	「生き生きと活動できる支援のあり方をさぐる」	各自が研究テーマを設定し、それに基づいてテーマ別研究グループに属し、研究を進める。今年度は、①集団授業②概念形成③国語・算数④ATの活用⑤保健⑥給食⑦寄宿舎のテーマ別研究グループを編成した。それぞれのグループで研究計画を立てて、進める。全体授業研究会を2学期に3回設定し、肢体不自由教育の専門性が高められるよう取り組む。夏季校内研修会では、外部講師を招く。	
県立	特支学校	あけほの支援学校	個々の児童生徒の実態に応じたより良い学習指導のあり方を探る	現在検討中です	現在小学部、中学部、高等部で検討中です	
県立	特支学校	わかば支援学校	「一人ひとりの児童が力を発揮し、生き生きと取り組むことができる授業を目指して(小学部)」「中学部の生活単元学習を考える(中学部)」「進路を意図した授業作りを考える(高等部)」「友だちとのかわりの中で活力ある生活を」		各学部、寄宿舎、保健室という単位の研究グループを設定する。5つの各グループの研究主題(全体としては副主題の扱い)を設定し、研究の課題を焦点化し、教育課程の改善の具体化を念頭に置いた研究を行う。具体的には、文献による理論的研究、教材開発研究、他校の実践や社会的動向の調査研究、事例研究など、各研究グループの特質に応じた研究方法を採る。また、中間報告、実践報告会により研究の経過や成果を情報交換する。研究仮説を「課題や必要な支援について話し合いながら」「子どもから始まり、子どもに返る」実践を社とした校内研究により、教育課程すなわち、実際の指導内容・指導方法の改善、授業づくりの実践力の向上が期待される。本研究により、職員の資質の向上、学校としての教育力の向上が実現し、本校の教育方針の実施を導き、学校教育目標の具現化へとつながるのではないかと設定し、月2回の研究日を設定して研究が進められる。各学部ごとの研究授業と授業研究会を設けグループごとに研究を行う。積極的な授業参観や授業研究によって、実践的な方法で検証、検討を行うことを主眼としている。これらの年間の研究は「研究のまとめ」に研究の経過、成果、課題が記録され、研究の進展や継承が図られる。	
県立	特支学校	わかば支援学校ふじかわ分校	個々の実態に即した教育課程をめざして		小学部は「広汎性発達障害をもつ児童の興味もてる題材をもとめて」をテーマに、児童に色々な角度からわかることで自己肯定感を持ち、自己コントロールに向かえるような基礎づくりを行う。中学部は「一人ひとりの実態に応じた体育の授業について」をテーマに授業の反省や検討を繰り返すことで、いきいきと取り組める授業作りを行う。学部ごとに研究を進め、中間報告会・全体研究会で意見交換し、共通理解を深める。研究の成果をまとめ、全体研究会で報告する。その際指導主事に本校にいただき、助言をもらう。その他夏季校内研修会として外部から講師を招き講演・研究会を開く。	

県立	特支学校	やまびこ支援学校	個々のニーズに応えるための支援の充実をめざして	小学部：児童の実態把握を通して共通の視点に基づいた支援のあり方を探る 中学部：生徒の実態を客観的・具体的に捉えるための評価のあり方を探る 高等部：個別の指導計画を生かした指導のあり方について	様々な学習場面において、どのように子どもの姿を捉え、把握し、学習のプロセスを構築していくかについて、各学部や寄宿舎に合ったテーマのもと、研究を進めていく。小学部では、国語・算数・ことば・かず、自立活動をとりあげ、学習内容・方法について検討しながら、子どもの実態を多角的に捉え、よりよい支援の仕方を学部全体で探っていく。中学部では、具体的なかつ客観的な評価をすることが、次の目標設定や、指導計画・実践を行うためのよりよい支援の手立てを見いだすことにつながると考え、国語・数学の学習を検証の場として個々の実態に迫る。高等部では個別的教育支援計画や、個別指導計画を活用し、個々の生徒の全体像を捉え、様々な学習場面に関連性を持たせながら、学習計画・実践、評価のあり方について検討していく。寄宿舎では、日々の舎生の生活について的確に捉え、指導員間で密な情報交換ができるように、実態に合わせた引き継ぎ簿の検討を行う。	
県立	特支学校	富士見支援学校	児童生徒の実態に応じた支援のあり方を探る	自立活動における指導を通して	本校に在籍している児童生徒は県立中央病院に在籍中であり、発達障害が背景にある場合も含めて、心因性疾患がほとんどである。病後故に人と関わるのが苦手である生徒や、基本的な生活習慣が身に付いていない生徒等々、子どもたちの心の発達段階、病状等実態が様々である。特別支援学校においては、自立活動の指導を学校の教育活動全体を通して行わなければならない。年々、社会の変化や児童生徒の障害の多様化に伴い、自立活動の内容の現行の5区分の見直しが必要とされている。本校においても今現在の本校の自立活動のあり方や指導内容について、見直しが必要と考える。そこから個々の児童生徒の発達の捉え方、課題等が明らかになり、児童生徒一人一人の支援につながり、子どもたちの発達を望ましい方向に導けるのではないかと考えた。そこで今年度は、児童生徒の発達に応じた支援を探ることを目指し、自立活動を	
県立	特支学校	富士見支援学校相分枝	子どもの発達を支える支援のあり方	段階別指導について考える	本校に転入する生徒は、はじめ周囲(学校・家庭・友人など)に対する不信感や対人緊張などから集団の中では活動することが難しい状況が見られる。そのため、初期の段階では生徒と教師が1対1で関わりあえる環境が必要である。このような環境の中で、互いの信頼関係を培うこと、なにより本校の環境に慣れ、学校が安心できる居場所となることを目的として支援を行う。そして、生徒の状況を把握する中で、徐々に通常の日課に移行していく指導過程が適切ではないかと考えた。そこで、今年度はこの「段階別指導」について、3つのグループ(初期対応段階・適応段階・通常段階)にわかれ、生徒個々の実態を明確にしながらいずれかの指導体制や指導内容及び指導していく上での配慮事項等を考える。	
県立	特支学校	ふじざくら支援学校	豊かな生活・確かな力をめざした指導のあり方		本校では今年度は授業力の向上を目指して学部ごとに研究を行うこととした。全体テーマは「豊かな生活・確かな力をめざした指導のあり方」である。小学部低学年では「アセスメント情報を活用したチームティーチングによるよりよい授業をめざして」をテーマにPDCAサイクルを生かした授業づくりを身につけ、チームティーチングの意味やあり方を探っていく。小学部高学年では「コミュニケーションから考える豊かな生活・確かな力」一人ひとりのコミュニケーション課題に焦点をあてて「をテーマにコミュニケーション課題を克服するために必要な指導法や授業の工夫を考えていく。小学部重複障害の教育課程では、「個々のねらいにせまる集団授業づくり」をテーマに自作を題材にした集団授業の工夫や指導法について実践検証をしていく。中学部知的障害の教育課程では「生徒のコミュニケーション力を育てる指導を探る」をテーマに生徒のコミュニケーションを高めることをねらいとし、またチームティーチングのあり方についても考える。重複障害の教育課程では、個々のコミュニケーションに視点をあてて、集団授業のなかでのコミュニケーションの引き出し方について研究をしていく。高等部では「生活を豊かにする言葉と数」を	
県立	特支学校	かえで支援学校	「わかる・できる・そだつ」授業の創造をめざして	個のニーズに応じた学習・支援を考える	本校では、昨年度から日々の実践と研究を結びつけ校内研究を行っている。知的好奇心を満足させ成就感のある(=わかる)授業、主体的な取り組みで達成感を持って、自信につながる(=できる)授業、汎化する(=そだつ)授業が、現在と将来の児童生徒の成長や生活に重要な意味を持つのではないかと考え主題として設定した。また日々の実践研究が、よりよい教育課程の編成の礎になると考えている。今年度は、小学部は「子ども一人一人を主体とした集団学習のあり方」、中学部は「国語・数学の授業づくり」、高等部では「個別の指導計画を活用しての授業づくり」が具体的な研究内容となっている。また、今年度は校内の教員が講師になり、授業づくりのアイデアになるような研修会を行うことも計画しており、研究と研修の双方から研究主題に迫っていき	
国立	特支学校	山梨大学教育人間科学部附属特別支援学校	きりの子プランを活用した、よりよい授業づくりをめざして	授業づくりの基本サイクルの「評価」「改善」を重視した実践	先行研究の「授業づくりの基本サイクル」を見直し、Plan(計画)-Do(授業)-Check(評価)-Action(改善)をサイクルとした授業づくりを考える。その際、きりの子プラン(個別的教育支援計画と個別の指導計画)を活用し、授業後の評価・改善に視点をあてて研究を進める。評価を通して、児童生徒や教師に関わる課題点や改善点を明確にし、授業の改善を継続的に行っていくことで、個々の児童生徒の課題やニーズに応じた授業づくりや児童生徒の集団としての高まり、また教師の専門性の向上をめざしていきたい。山梨大学の障害児教育講座等の先生方を共同研究者とし、小・中・高等部の各学部毎に研究を行う。また、9～10月には全教員が参加する授業研究会を3回実施し、評価・改善の繰り返しにより、授業づくりのポイントをまとめていきたいと考えている。	公開研究会 平成21年2月7日